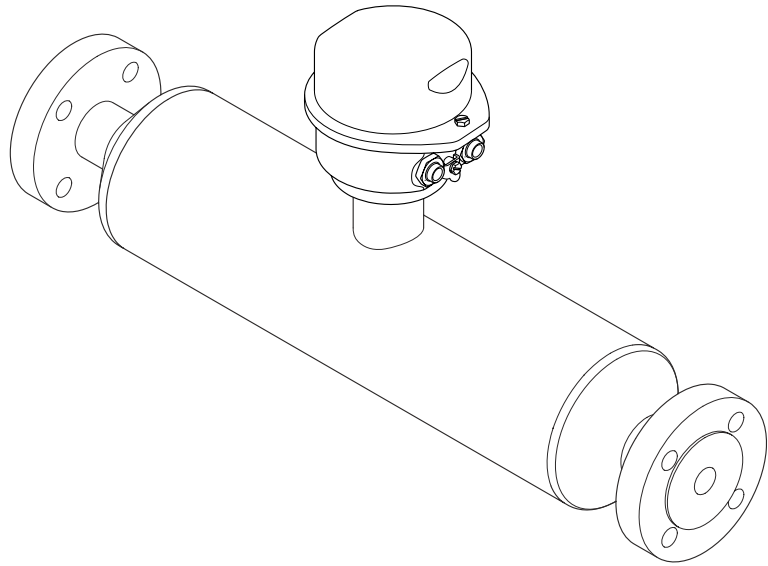


取扱説明書

Proline Promass I 100

コリオリ流量計
EtherNet/IP



- 本書は、本機で作業する場合にいつでもすぐに手に取れる安全な場所に保管してください。
- 要員やプラントが危険にさらされないよう、「基本安全注意事項」セクション、ならびに作業手順に関して本書に規定されている、その他の安全注意事項をすべて熟読してください。
- 弊社は、技術開発に合わせて事前の予告なしに技術仕様を変更する権利を有するものとします。本書に関する最新情報および更新内容については、弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせください。

目次

1	資料情報	5	7	電気接続	26
1.1	資料の機能.....	5	7.1	接続条件.....	26
1.2	使用されるシンボル.....	5	7.1.1	必要な工具.....	26
1.2.1	安全シンボル.....	5	7.1.2	接続ケーブルの要件.....	26
1.2.2	電気シンボル.....	5	7.1.3	端子の割当て.....	27
1.2.3	工具シンボル.....	5	7.1.4	ピンの割当て、機器プラグ.....	28
1.2.4	特定情報に関するシンボル.....	6	7.1.5	機器の準備.....	28
1.2.5	図中のシンボル.....	6	7.2	機器の接続.....	28
1.3	関連資料.....	6	7.2.1	変換器の接続.....	29
1.3.1	標準資料.....	7	7.2.2	電位平衡の確保.....	30
1.3.2	機器固有の補足資料.....	7	7.3	特別な接続指示.....	30
1.4	登録商標.....	7	7.3.1	接続例.....	30
2	基本安全注意事項	8	7.4	ハードウェア設定.....	31
2.1	要員の要件.....	8	7.4.1	機器アドレスの設定.....	31
2.2	用途.....	8	7.5	保護等級の保証.....	32
2.3	労働安全.....	9	7.6	配線状況の確認.....	32
2.4	使用上の安全性.....	9	8	操作オプション	33
2.5	製品の安全性.....	9	8.1	操作オプションの概要.....	33
2.6	ITセキュリティ.....	9	8.2	操作メニューの構成と機能.....	34
3	製品説明	10	8.2.1	操作メニューの構成.....	34
3.1	製品構成.....	10	8.2.2	操作指針.....	35
3.1.1	EtherNet/IP 通信タイプの機器バージョン.....	10	8.3	ウェブブラウザによる操作メニューへのアクセス.....	35
4	納品内容確認および製品識別表示 ..	11	8.3.1	機能範囲.....	35
4.1	納品内容確認.....	11	8.3.2	必須条件.....	36
4.2	製品識別表示.....	11	8.3.3	接続の確立.....	37
4.2.1	変換器の銘板.....	12	8.3.4	ログイン.....	38
4.2.2	センサの銘板.....	13	8.3.5	ユーザインターフェイス.....	38
4.2.3	機器のシンボル.....	14	8.3.6	ウェブサーバの無効化.....	39
5	保管および輸送	15	8.3.7	ログアウト.....	39
5.1	保管条件.....	15	8.4	操作ツールによる操作メニューへのアクセス.....	40
5.2	製品の運搬.....	15	8.4.1	操作ツールの接続.....	40
5.2.1	吊金具なし機器.....	15	8.4.2	FieldCare.....	41
5.2.2	吊金具付き機器.....	16	9	システム統合	43
5.2.3	フォークリフトによる運搬.....	16	9.1	デバイス記述ファイルの概要.....	43
5.3	梱包材の廃棄.....	16	9.1.1	現在の機器データバージョン.....	43
6	設置	17	9.1.2	操作ツール.....	43
6.1	設置条件.....	17	9.2	システムファイルの概要.....	43
6.1.1	取付位置.....	17	9.3	システムに機器を統合.....	44
6.1.2	環境およびプロセスの要件.....	19	9.4	周期的データ伝送.....	44
6.1.3	特別な取付けの説明.....	22	9.4.1	ブロックモデル.....	44
6.2	機器の取付け.....	23	9.4.2	入力および出力グループ.....	44
6.2.1	必要な工具.....	23	10	設定	49
6.2.2	機器の準備.....	23	10.1	機能確認.....	49
6.2.3	機器の取付け.....	23	10.2	ソフトウェアによる機器アドレスの設定.....	49
6.2.4	表示モジュールの回転.....	24	10.2.1	Ethernet ネットワークとウェブサーバ.....	49
6.3	設置状況の確認.....	25	10.3	操作言語の設定.....	49

10.4	機器の設定	49	12.12	機器のリセット	84
10.4.1	タグ番号の設定	50	12.12.1	「機器リセット」パラメータの機能 範囲	85
10.4.2	システムの単位の設定	50	12.13	機器情報	85
10.4.3	測定物の選択および設定	52	12.14	ファームウェアの履歴	87
10.4.4	通信インターフェイスの設定	52	13	メンテナンス	88
10.4.5	ローフローカットオフの設定	54	13.1	メンテナンス作業	88
10.4.6	非満管検出の設定	55	13.1.1	外部洗浄	88
10.5	高度な設定	56	13.1.2	内部洗浄	88
10.5.1	計算値	56	13.2	測定機器およびテスト機器	88
10.5.2	センサの調整の実施	57	13.3	エンドレスハウザー社サービス	88
10.5.3	積算計の設定	58	14	修理	89
10.5.4	表示の追加設定	59	14.1	一般的注意事項	89
10.6	シミュレーション	62	14.2	スペアパーツ	89
10.7	不正アクセスからの設定の保護	63	14.3	エンドレスハウザー社サービス	89
10.7.1	アクセスコードによる書き込み 保護	63	14.4	返却	89
10.7.2	書き込み保護スイッチによる書き 込み保護	63	14.5	廃棄	89
11	操作	65	14.5.1	機器の取外し	89
11.1	現在の Ethernet 設定の読み出しと変更	65	14.5.2	機器の廃棄	90
11.2	機器ロック状態の読取り	65	15	アクセサリ	91
11.3	操作言語の設定	66	15.1	機器固有のアクセサリ	91
11.4	表示部の設定	66	15.1.1	センサ用	91
11.5	測定値の読み取り	66	15.2	サービス関連のアクセサリ	91
11.5.1	プロセス変数	66	15.3	システムコンポーネント	92
11.5.2	積算計	67	16	技術データ	93
11.5.3	出力値	68	16.1	用途	93
11.6	プロセス条件への機器の適合	68	16.2	機能とシステム構成	93
11.7	積算計リセットの実行	68	16.3	入力	93
12	診断およびトラブルシューティン グ	70	16.4	出力	95
12.1	一般トラブルシューティング	70	16.5	電源	98
12.2	発光ダイオードによる診断情報	72	16.6	性能特性	99
12.2.1	変換器	72	16.7	設置	103
12.3	現場表示器の診断情報	73	16.8	環境	103
12.3.1	診断メッセージ	73	16.9	プロセス	104
12.3.2	対処法の呼び出し	75	16.10	構造	106
12.4	ウェブブラウザの診断情報	76	16.11	操作性	109
12.4.1	診断オプション	76	16.12	認証と認定	111
12.4.2	対策情報の呼び出し	77	16.13	アプリケーションパッケージ	112
12.5	FieldCare の診断情報	77	16.14	アクセサリ	113
12.5.1	診断オプション	77	16.15	資料	113
12.5.2	対策情報の呼び出し	78	17	付録	115
12.6	通信インターフェイスを介した診断情報	78	17.1	操作メニューの概要	115
12.6.1	診断情報の読み出し	78	17.1.1	「操作」メニュー	115
12.7	診断情報の適合	79	17.1.2	「設定」メニュー	116
12.7.1	診断動作の適合	79	17.1.3	「診断」メニュー	121
12.8	診断情報の概要	79	17.1.4	「エキスパート」メニュー	124
12.9	未処理の診断イベント	82	索引	140	
12.10	診断リスト	82			
12.11	イベントログブック	82			
12.11.1	イベント履歴	82			
12.11.2	イベントログブックのフィルタリ ング	83			
12.11.3	情報イベントの概要	83			





1 資料情報

1.1 資料の機能







この取扱説明書には、機器ライフサイクルの各種段階（製品の識別、納品内容確認、保管、取付け、接続、操作、設定からトラブルシューティング、保守、廃棄まで）において必要とされるあらゆる情報が記載されています。

1.2 使用されるシンボル



1.2.1 安全シンボル

シンボル	意味
 危険	危険 危険な状況を警告するシンボルです。この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡したり、大けがをしたりするほか、爆発・火災を引き起こす恐れがあります。
 警告	警告 危険な状況を警告するシンボルです。この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡、大けが、爆発、火災の恐れがあります。
 注意	注意 危険な状況を警告するシンボルです。この表示を無視して誤った取り扱いをすると、けが、物的損害の恐れがあります。
 注記	注記 人身傷害につながらない、手順やその他の事象に関する情報を示すシンボルです。

1.2.2 電気シンボル

シンボル	意味	シンボル	意味
	直流		交流
	直流および交流		アース端子 オペレータに関する限り、接地システムを用いて接地された接地端子
	保護アース端子 その他の接続を行う前に、接地接続する必要のある端子		等電位接続 工場の接地システムとの接続。各国または各会社の規範に応じて、たとえば等電位線や一点アースシステムといった接続があります。

1.2.3 工具シンボル

シンボル	意味
	六角レンチ
	六角スパナ



1.2.4 特定情報に関するシンボル

シンボル	意味
	許可 許可された手順、プロセス、動作
	推奨 推奨の手順、プロセス、動作
	禁止 禁止された手順、プロセス、動作
	ヒント 追加情報を示します。
	資料参照
	ページ参照
	図参照
	一連のステップ
	一連の動作の結果
	問題が発生した場合のヘルプ
	目視検査

1.2.5 図中のシンボル

シンボル	意味	シンボル	意味
	項目番号		一連のステップ
	図		断面図
	危険場所		安全区域（非危険場所）
	流れ方向		

1.3 関連資料

-  同梱される関連の技術資料の概要については、次を参照してください。
- W@M デバイスビューワー：型式銘板のシリアル番号を入力
(www.endress.com/deviceviewer)
 - Endress+Hauser Operations App：型式銘板のシリアル番号を入力するか、型式銘板の 2-D マトリクスコード (QR コード) をスキャンしてください。
-  個別の資料と資料コードに関する詳細なリスト

1.3.1 標準資料

資料タイプ	資料の目的および内容
技術仕様書	機器の計画支援 本資料には、機器に関するすべての技術データが記載されており、本機器用に注文可能なアクセサリやその他の製品の概要が示されています。
簡易取扱説明書	簡単に初めての測定を行うための手引き 簡易取扱説明書には、納品内容確認から初回の設定までに必要なすべての情報が記載されています。

1.3.2 機器固有の補足資料

注文した機器の型に応じて追加資料が提供されます。必ず、補足資料の指示を厳守してください。補足資料は、機器資料に付随するものです。

1.4 登録商標

EtherNet/IP™

ODVA, Inc の商標です。

Microsoft®

Microsoft Corporation, Redmond, Washington, USA の登録商標です。

TRI-CLAMP®

Ladish & Co., Inc., Kenosha, USA の登録商標です。

Applicator®、FieldCare®、Field Xpert™、HistoROM®、TMB®、Heartbeat Technology™

Endress+Hauser グループの登録商標または登録申請中の商標です。

2 基本安全注意事項

2.1 要員の要件

設置、設定、診断、およびメンテナンスを実施する要員は、以下の要件を満たさなければなりません。

- ▶ 訓練を受けて、当該任務および作業に関する資格を取得した専門作業員であること
- ▶ 施設責任者の許可を得ていること
- ▶ 各地域/各国の法規を熟知していること
- ▶ 専門作業員は作業を開始する前に、取扱説明書、補足資料、および証明書（用途に応じて）の説明を熟読して理解しておく必要があります。
- ▶ 指示および基本条件を遵守してください。

オペレータ要員は、以下の要件を満たさなければなりません。

- ▶ 施設責任者からその作業に必要な訓練および許可を得ていること
- ▶ 本取扱説明書の指示に従ってください。

2.2 用途

アプリケーションおよび測定物

本書で説明する機器は、液体および気体の流量測定にのみ使用することを目的としたものです。

注文したバージョンに応じて、本機器は爆発性、可燃性、毒性、酸化性の測定物も測定できます。

危険場所、サニタリアプリケーション、または、プロセス圧力によるリスクが高いアプリケーションで使用する機器は、それに応じたラベルが銘板に貼付されています。

運転時間中、機器が適切な条件下にあるよう、次の点に注意してください。

- ▶ 本機器を使用する場合は必ず、銘板に明記されたデータ、ならびに取扱説明書や補足資料に記載された一般条件に従ってください。
- ▶ 注文した機器が防爆仕様になっているか銘板を確認してください（例：防爆認定、圧力容器安全）。
- ▶ 本機器は、接液部材質の耐食性を十分に確保できる測定物の測定にのみ使用してください。
- ▶ 本機器を大気温度で使用しない場合は、関連する機器資料に記載されている基本条件を順守することが重要です（「関連資料」セクション→ 6）。

不適切な用途

指定用途以外での使用は、安全性を危うくする可能性があります。不適切な、あるいは指定用途以外での使用に起因する損傷については、メーカーは責任を負いません。

注記

腐食性または研磨性の流体による計測チューブの破損の危険があります。

機械的な過負荷によりハウジングが破損する可能性があります。

- ▶ プロセス流体と計測チューブの材質の適合性を確認してください。
- ▶ プロセス内のすべての接液部材質の耐食性を確認してください。
- ▶ 指定の最大プロセス圧力に注意してください。

不明な場合の確認：

- ▶ 特殊な流体および洗浄液に関して、エンドレスハウザー社では接液部材質の耐食性確認をサポートしますが、プロセスの温度、濃度、または汚染レベルのわずかな変化によって耐食性が変わる可能性があるため、保証や責任は負いかねます。

残存リスク

ハウジングの外部表面温度は、電子部品の電力消費により、最大 20 K まで上昇する可能性があります。高温のプロセス流体が本機器を通過すると、ハウジングの表面温度はさらに上昇します。特にセンサの表面は、流体温度に近い温度に達する可能性があります。

高温流体によるやけどの危険

- ▶ 流体温度が高い場合は、接触しないように保護対策を講じて、やけどを防止してください。

2.3 労働安全

機器で作業する場合：

- ▶ 各地域/各国の規定に従って必要な個人用保護具を着用してください。

配管溶接作業の場合：

- ▶ 計測機器を介して溶接機の接地を行わないでください。

濡れた手で機器の作業をする場合：

- ▶ 感電のリスクが高まるため手袋の着用を推奨します。

2.4 使用上の安全性

けがに注意！

- ▶ 本機器は、適切な技術条件およびフェールセーフ条件下でのみ操作してください。
- ▶ 施設責任者には、機器を支障なく操作できるようにする責任があります。

機器の改造

機器を無断で変更することは、予測不可能な危険を招くおそれがあり、認められません。

- ▶ 変更が必要な場合は、弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせください。

修理

操作上の安全性と信頼性を保証するために、以下の点にご注意ください。

- ▶ 機器の修理は、そのことが明確に許可されている場合にのみ実施してください。
- ▶ 電気機器の修理に関する各地域/各国の規定を遵守してください。
- ▶ 弊社純正スペアパーツおよびアクセサリのみを使用してください。

2.5 製品の安全性

本機器は、最新の安全要件に適合するように GEP (Good Engineering Practice) に従って設計され、テストされて安全に操作できる状態で工場から出荷されます。

本機は一般的な安全基準および法的要件を満たしています。また、機器固有の EC 適合宣言に明記された EC 指令にも準拠します。エンドレスハウザーは機器に CE マークを添付することにより、機器の適合性を保証します。

2.6 IT セキュリティ

弊社は、取扱説明書に記載されている条件に従って使用されている場合のみ保証いたします。本機器は、いかなる予期しない設定変更に対しても保護するセキュリティ機構を備えています。

弊社機器を使用する事業者の定義する IT セキュリティ規定に準拠し、尚且つ機器と機器のデータ伝送に関する追加的な保護をするために設計されている IT セキュリティ対策は、機器の使用者により実行されなければなりません。

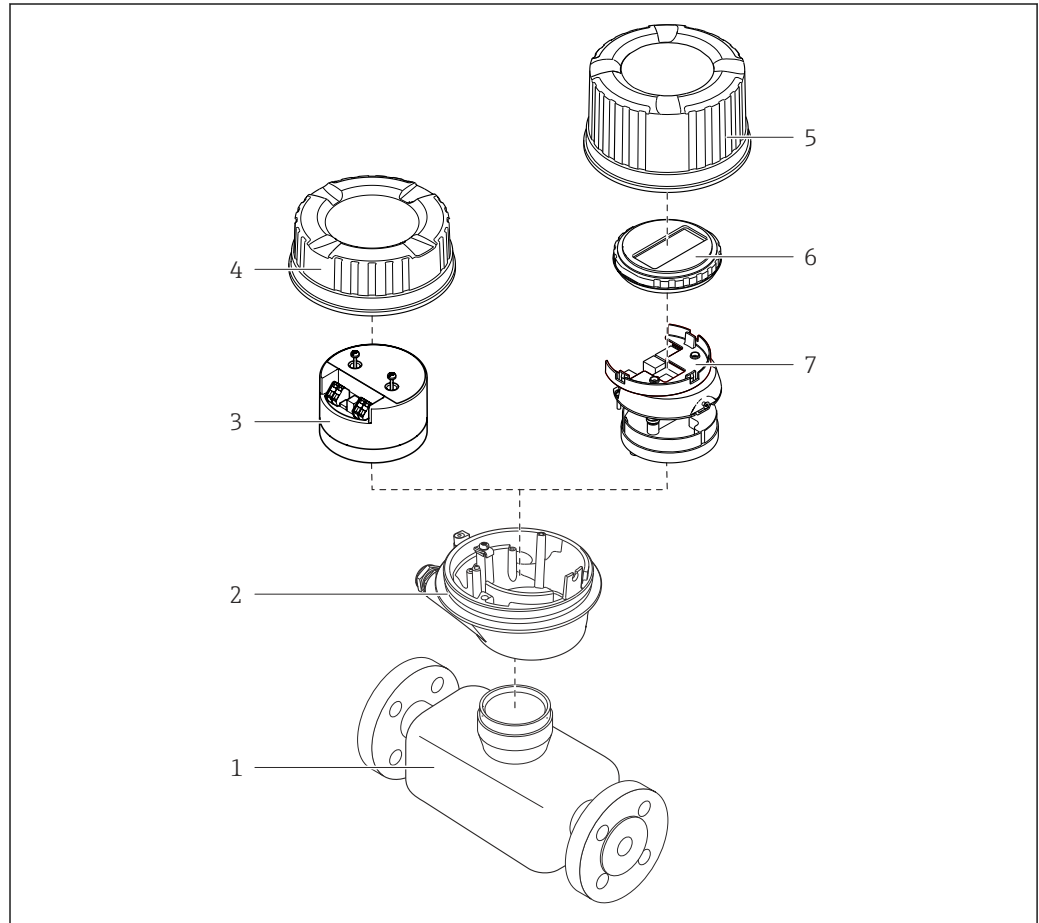
3 製品説明

本機器は変換器とセンサから構成されます。

機器バージョンは1つ：一体型 - 変換器とセンサが一体となっています。

3.1 製品構成

3.1.1 EtherNet/IP 通信タイプの機器バージョン



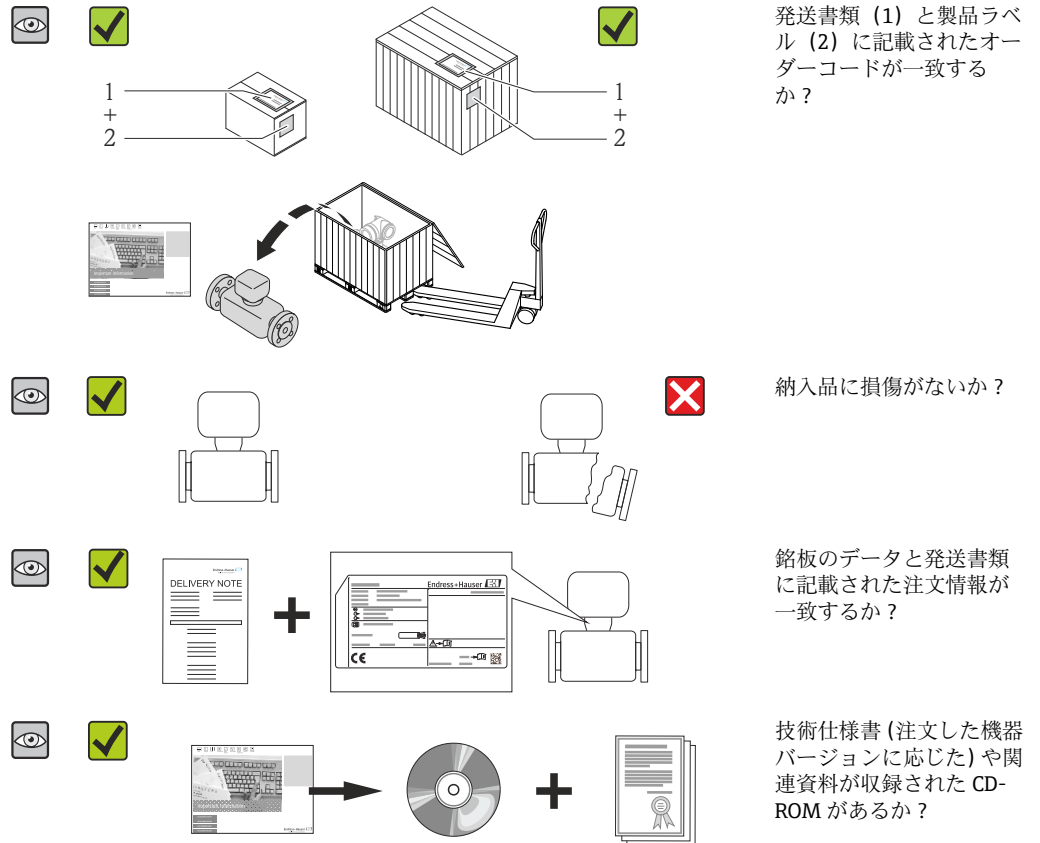
A0023153

図 1 機器の主要コンポーネント

- 1 センサ
- 2 変換器ハウジング
- 3 メイン電子モジュール
- 4 変換器ハウジングカバー
- 5 変換器ハウジングカバー (オプションの現場表示器用バージョン)
- 6 現場表示器 (オプション)
- 7 メイン電子モジュール (オプションの現場表示器用のブラケット付き)

4 納品内容確認および製品識別表示

4.1 納品内容確認



- i** ■ 1つでも条件が満たされていない場合は、弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせください。
- 機器バージョンに応じて、CD-ROM は納入範囲に含まれないことがあります。技術資料はインターネットまたは「Endress+Hauser Operations アプリ」から入手可能です。「製品識別表示」セクションを参照してください → 11。

4.2 製品識別表示

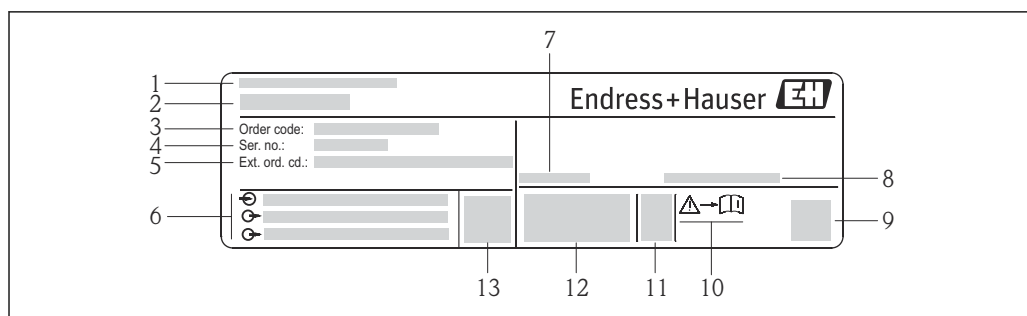
機器を識別するには以下の方法があります。

- 型式銘板
- 納品書に記載されたオーダーコード (機器仕様コードの明細付き)
- 型式銘板のシリアル番号を W@M デバイスビューワー (www.endress.com/deviceviewer) に入力すると、機器に関するすべての情報が表示されます。
- 型式銘板のシリアル番号をエンドレスハウザーの操作アプリケーションに入力するか、エンドレスハウザーの操作アプリケーションで 2-D マトリクスコード (QR コード) をスキャンすると、機器に関するすべての情報が表示されます。

同梱される関連の技術資料の概要については、次を参照してください。

- 「その他の機器標準資料」 → 7 および「機器固有の補足資料」 → 7 章
- W@M デバイスビューワー：型式銘板のシリアル番号を入力 (www.endress.com/deviceviewer)
- エンドレスハウザー操作アプリケーション：型式銘板のシリアル番号を入力するか、型式銘板の 2-D マトリクスコード (QR コード) をスキャンしてください。

4.2.1 変換器の銘板

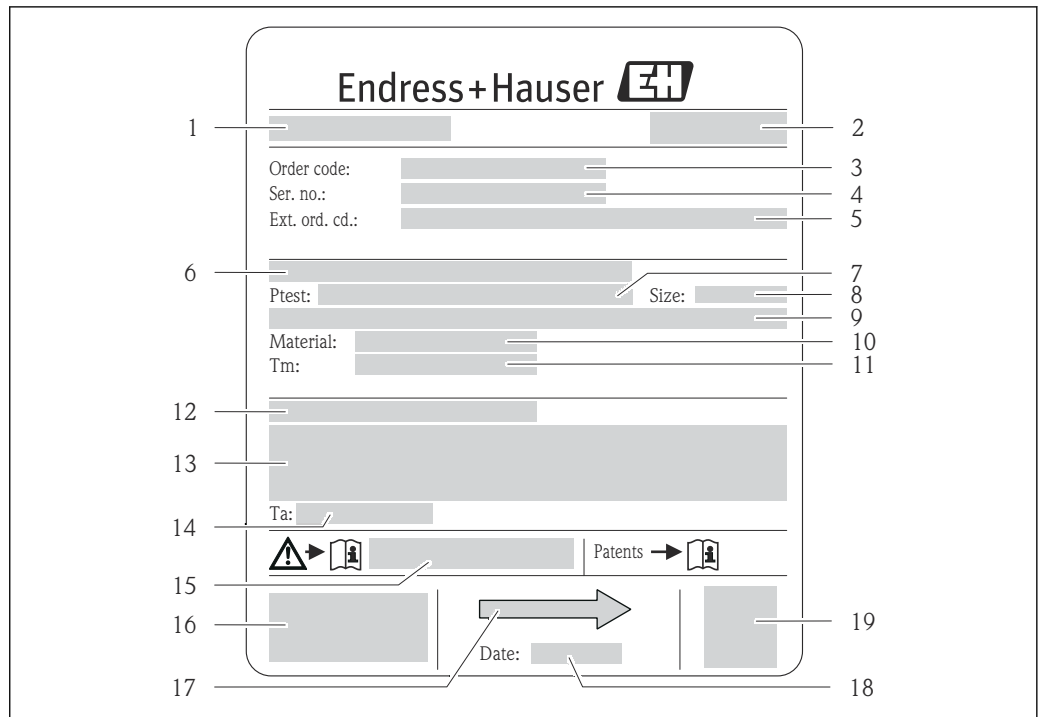


A0017520

図 2 変換器銘板の例

- 1 製造場所
- 2 変換器名
- 3 オーダーコード
- 4 シリアル番号 (Ser. no.)
- 5 拡張オーダーコード (Ext. ord. cd.)
- 6 電気接続データ (例：入力、出力、電源電圧)
- 7 許容周囲温度 (T_a)
- 8 保護等級
- 9 2-D マトリクスコード
- 10 安全関連の補足資料の資料番号
- 11 製造日：年/月
- 12 CE マーク、C-Tick
- 13 ファームウェアバージョン (FW)

4.2.2 センサの銘板



A0017923

図 3 センサ銘板の例

- 1 センサ名
- 2 製造場所
- 3 Order code
- 4 シリアル番号 (Ser. no.)
- 5 拡張オーダーコード (Ext. ord. cd.)
- 6 フランジ呼び口径/ 定格圧力
- 7 センサ試験圧力
- 8 センサ呼び口径
- 9 センサ固有のデータ：センサハウジングの圧力範囲、高精度密度仕様（高精度密度校正）など
- 10 計測チューブおよびマニホールドの材質
- 11 流体温度範囲
- 12 保護等級
- 13 防爆認定および欧州圧力機器指令の情報
- 14 許容周囲温度 (T_a)
- 15 安全関連の補足資料の資料番号
- 16 CE マーク、C-Tick
- 17 流れ方向
- 18 製造日：年/月
- 19 2-D マトリクスコード




オーダーコード

機器の追加注文の際は、オーダーコードを使用してください。

拡張オーダーコード

- 機器タイプ（製品ルートコード）と基本仕様（必須仕様コード）を必ず記入します。
- オプション仕様（オプション仕様コード）については、安全および認定に関する仕様のみを記入します（例：LA）。その他のオプション仕様も注文する場合、これは # 記号を用いて示されます（例：#LA#）。
- 注文したオプション仕様に安全および認定に関する仕様が含まれない場合は、+ 記号を用いて示されます（例：XXXXXX-ABCDE+）。

4.2.3 機器のシンボル

シンボル	意味
	警告 危険な状況を警告するシンボルです。この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡、大けが、爆発、火災の恐れがあります。
	資料参照 対応する機器関連文書の参照指示
	保護接地端子 その他の接続を行う前に、接地接続する必要がある端子

5 保管および輸送

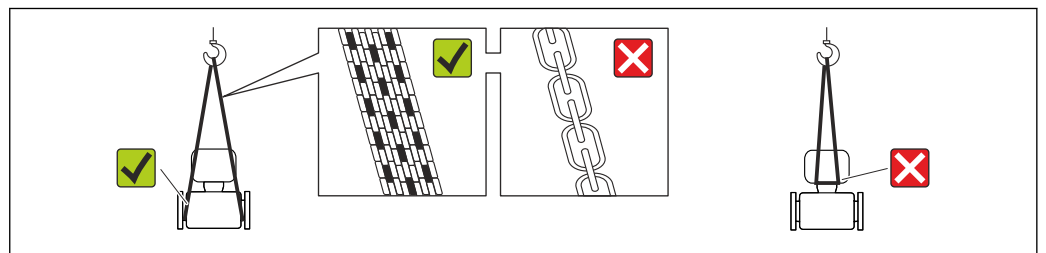
5.1 保管条件

保管する際は、次の点に注意してください。

- 衝撃を防止するため、納品に使用された梱包材を使って保管してください。
- プロセス接続部に取り付けられている保護カバーまたは保護キャップは外さないでください。これは、シール表面の機械的な損傷と計測チューブ内の汚染を防止するために必要です。
- 表面温度が許容範囲を超えないよう、直射日光があたらないようにしてください。
- 保管温度：-40～+80 °C (-40～+176 °F)、
オーダーコード「試験、認証」、オプション JM：-50～+60 °C (-58～+140 °F)、
推奨 +20 °C (+68 °F)
- 乾燥した、粉塵のない場所に保管してください。
- 屋外に保管しないでください。

5.2 製品の運搬

納品に使用された梱包材を使って、機器を測定現場まで運搬してください。



A0015604

- i** プロセス接続部に取り付けられている保護カバーまたはキャップは外さないでください。これは、シール表面の機械的な損傷と計測チューブ内の汚染を防止するために必要です。

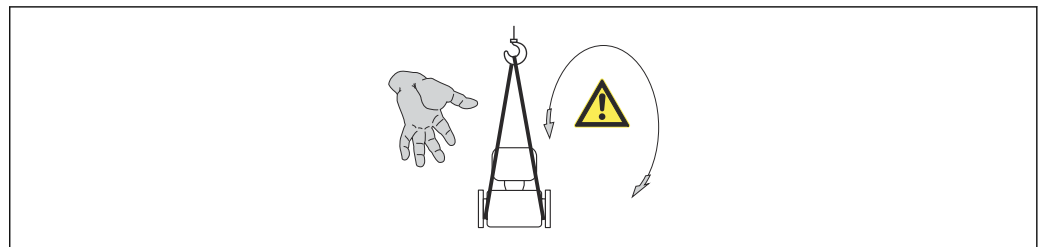
5.2.1 吊金具なし機器

⚠ 警告

機器の重心は、吊り帯の吊り下げポイントより高い位置にあります。

機器がずり落ちると負傷する恐れがあります。

- ▶ 機器がずり落ちたり、回転したりしないようにしっかりと固定してください。
- ▶ 梱包材に明記された質量（貼付ラベル）に注意してください。



A0015606

5.2.2 吊金具付き機器

▲ 注意

吊金具付き機器用の特別な運搬指示

- ▶ 機器の運搬には、機器に取り付けられている吊金具またはフランジのみを使用してください。
- ▶ 機器は必ず、最低でも2つ以上の吊金具で固定してください。

5.2.3 フォークリフトによる運搬

木箱に入れて運搬する場合は、フォークリフトを使用して縦方向または両方向で持ち上げられるような木箱の床構造となっています。

5.3 梱包材の廃棄

梱包材はすべて環境にやさしく、100%リサイクル可能です。

- 機器二次包装材：EC 指令 2002/95/EC (RoHS) 準拠のポリマー延伸フィルム
- 梱包材：
 - 木枠の処理は ISPM 15 規格に準拠、IPPC ロゴ刻印により承認
または
 - 段ボール箱は欧州包装指令 94/62EC に準拠、RESY シンボルの貼付によりリサイクルの可能性を承認
- 海上輸送用梱包材 (オプション)：木枠の処理は ISPM 15 規格に準拠、IPPC ロゴ刻印により承認
- 輸送および固定具：
 - 使い捨てプラスチック製パレット
 - プラスチック製ストラップ
 - プラスチック製粘着テープ
- 緩衝材：ペーパークッション

6 設置

6.1 設置条件

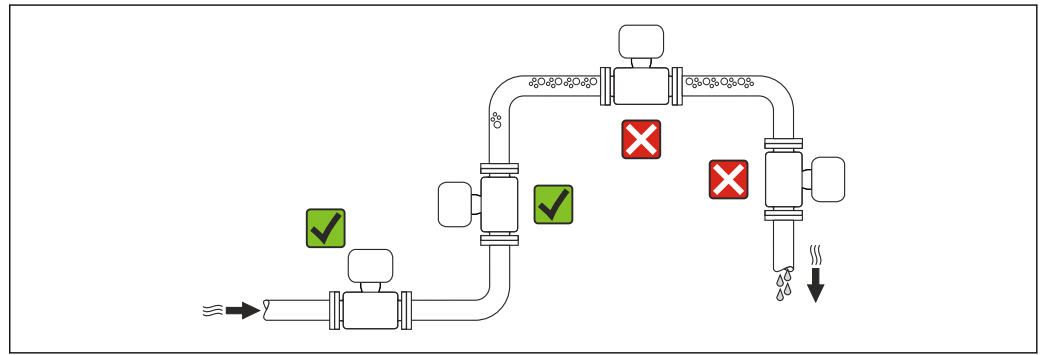
サポートのような特別な処置は不要です。外部から本機器に加わる力は、機器の構造により吸収されます。

6.1.1 取付位置

取付位置

計測チューブ内の気泡溜まりによる測定エラーを防止するため、以下の配管位置には取付けないでください。

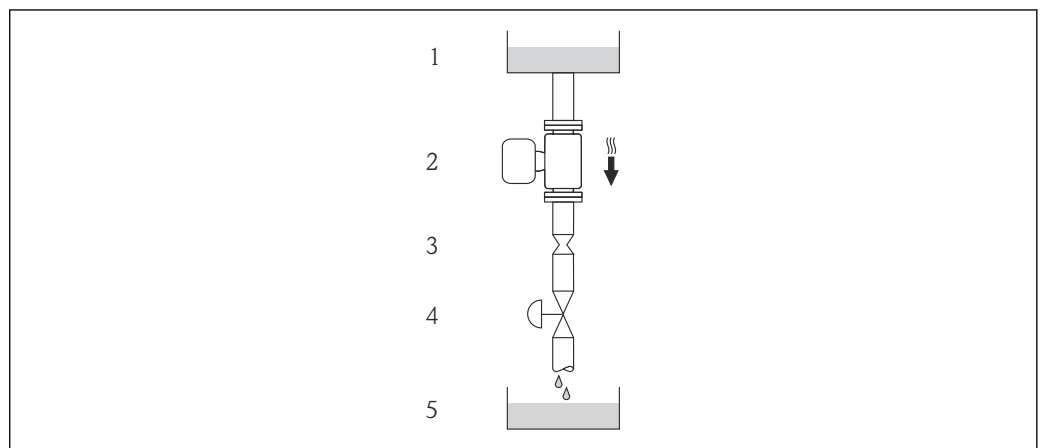
- 配管の最も高い位置
- 下り方向垂直配管の開放出口の直前



A0023344

下り配管への設置

ただし、次の設置方法をとることにより、開放型の垂直配管への取付けも可能です。呼び口径より断面積の小さな絞り機構あるいはオリフイスプレートを設けることにより、測定中に計測チューブ内が空洞状態になることを防止できます。



A0015596

図4 下り方向の垂直配管での設置 (例: バッチアプリケーション用)

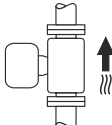
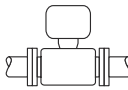
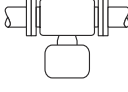

- 1 供給タンク
- 2 センサ
- 3 オリフイスプレート、絞り機構
- 4 バルブ
- 5 バッチタンク

呼び口径		Øオリフィスプレート、絞り機構	
[mm]	[in]	[mm]	[in]
8	3/8	6	0.24
15	1/2	10	0.40
15 FB	1/2 FB	15	0.60
25	1	14	0.55
25 FB	1 FB	24	0.95
40	1 1/2	22	0.87
40 FB	1 1/2 FB	35	1.38
50	2	28	1.10
50 FB	2 FB	54	2.13
80	3	50	1.97

FB = フルボアバージョン

取付方向

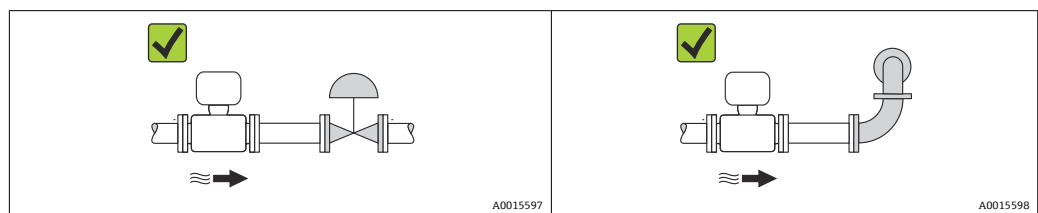
センサの型式銘板に表示された矢印の方向が、流れ方向（配管を流れる測定物の方向）に従ってセンサを取り付ける際に役立ちます。

取付方向		推奨	
A	垂直方向	 A0015591	☑☑
B	水平方向、変換器上側	 A0015589	☑☑ ¹⁾ 例外:
C	水平方向、変換器下側	 A0015590	☑☑ ²⁾ 例外:
D	水平方向、変換器が横向き	 A0015592	☑☑


- 1) プロセス温度が低いアプリケーションでは、周囲温度も低くなる場合があります。これは、変換器の最低周囲温度を守るための推奨の取付方向です。
- 2) プロセス温度が高いアプリケーションでは、周囲温度も高くなる場合があります。これは、変換器の最大周囲温度を守るための推奨の取付方向です。

上流側 / 下流側直管部

キャビテーションが発生しない限り、流れの乱れを生じさせる障害物（バルブ、エルボ、ティー等）に特別な予防措置をとる必要はありません。→ 19



設置寸法

 機器の外形寸法および取付寸法については、「技術仕様書」の「構造」の章を参照してください。

6.1.2 環境およびプロセスの要件

周囲温度範囲

機器	非防爆	-40～+60 °C (-40～+140 °F)
	Ex na、NI バージョン	-40～+60 °C (-40～+140 °F)
	Ex ia、IS バージョン	<ul style="list-style-type: none"> ■ -40～+60 °C (-40～+140 °F) ■ -50～+60 °C (-58～+140 °F) (「試験、認証」のオーダーコード、オプション JM)
現場表示器		-20～+60 °C (-4～+140 °F) 温度が許容温度範囲外の場合、表示部の視認性が悪化する可能性があります。

- ▶ 屋外で使用する場合：
特に高温地域では直射日光は避けてください。

使用圧力

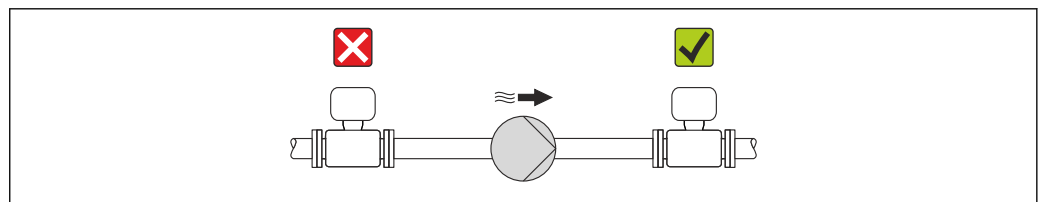
キャビテーションが発生しないようにすることや、液体に混入したガスが発泡しないようにすることが重要です。

使用圧力が蒸気圧を下回った場合に、キャビテーションは発生します。

- 沸点の低い液体において (例：炭化水素、溶剤、液化ガス)
- 吸引ラインにおいて
- ▶ キャビテーションやガスの発泡を防止するため、使用圧力を十分に高く維持してください。

従って、最適な設置場所は以下ようになります。

- 垂直配管の最も低い位置
- ポンプの下流側 (真空になる恐れがありません)



A0015594

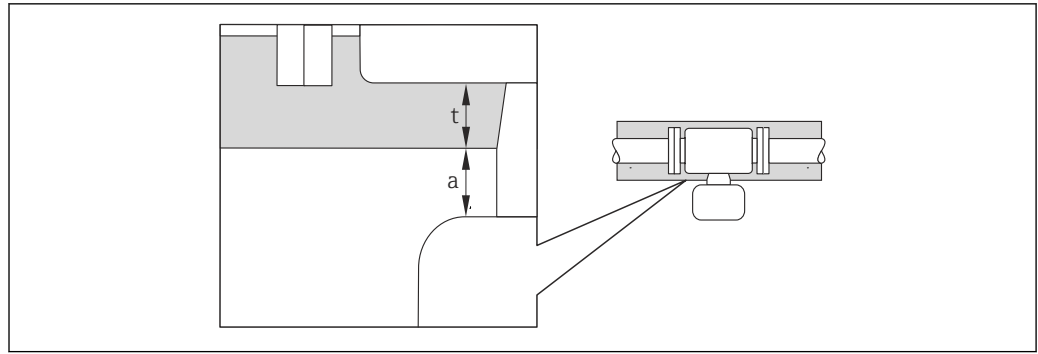
断熱

一部の流体においては、センサから変換器への放射熱を最小限に抑えることが重要です。必要な断熱を設けるために、さまざまな材質を使用することができます。

注記

断熱により電子機器部が過熱する恐れがあります。

- ▶ 変換器ネック部において許容される断熱材の最大高さには注意し、変換器を完全に露出させてください。

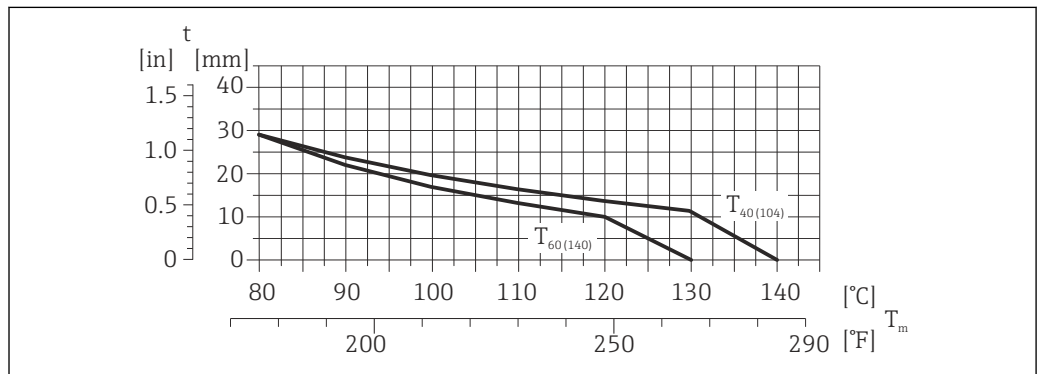


A0019919

- a 断熱材までの最小距離
- t 断熱材の厚さの最大値

変換器ハウジングと断熱材との最小距離は 10 mm (0.39 in) であり、変換器ヘッドが完全に露出した状態になっていなければなりません。

推奨の最大断熱材厚さ



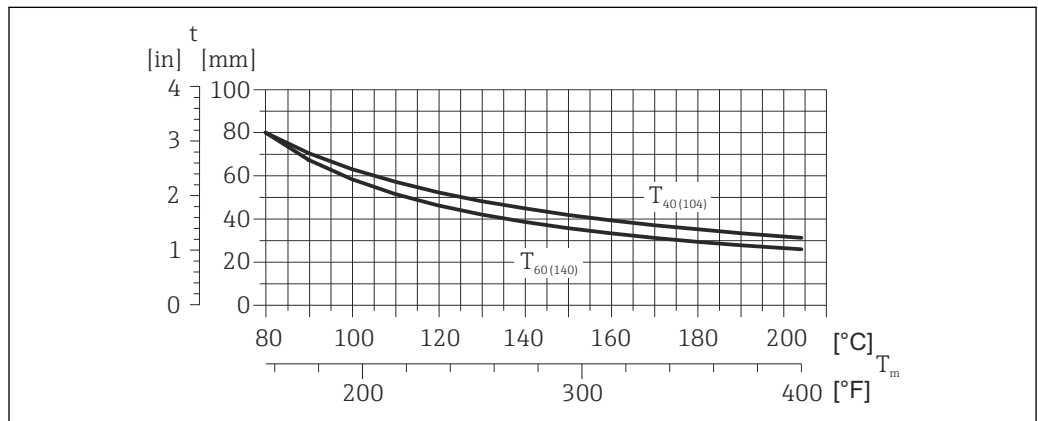
A0023173

図 5 測定物の温度および周囲温度に応じた推奨の最大断熱材厚さ

- t 断熱材厚さ
- T_M 流体温度
- T₄₀₍₁₀₄₎ 推奨の最大断熱材厚さ (周囲温度 T_a = 40 °C (104 °F) 時)
- T₆₀₍₁₄₀₎ 推奨の最大断熱材厚さ (周囲温度 T_a = 60 °C (140 °F) 時)

推奨の最大断熱材厚さ (拡張温度範囲用および断熱用)

断熱用の伸長ネックバージョン、「センサオプション」のオーダーコード、オプション CG :



A0023177

図 6 測定物の温度および周囲温度に応じた推奨の最大断熱材厚さ

t	断熱材厚さ
T_M	流体温度
$T_{40(104)}$	推奨の最大断熱材厚さ (周囲温度 $T_a = 40^\circ\text{C}$ (104 °F) 時)
$T_{60(140)}$	推奨の最大断熱材厚さ (周囲温度 $T_a = 60^\circ\text{C}$ (140 °F) 時)

注記**断熱材使用時の過熱の危険**

- ▶ 変換器ハウジング下端の温度は 80°C (176°F) を超えないようにしてください。

注記**推奨の最大断熱材厚さよりも断熱材を厚くすることも可能です。**

必須条件：

- ▶ 変換器ネックで十分な量の対流が発生するように注意してください。
- ▶ 変換器の台座の周囲の十分な範囲が覆われないようにしてください。覆われていない変換器の台座より放熱し、電子機器部が過熱/ 過冷却するのを防ぎます。

ヒーティング**注記****周囲温度の上昇により電子部品が過熱する可能性があります。**

- ▶ 変換器の最大許容周囲温度を超えないようにしてください → 19。
- ▶ 液体温度に応じて、機器の取付方向要件を考慮してください。

注記**ヒーティングによる過熱の危険**

- ▶ 変換器ハウジング下端の温度は 80°C (176°F) を超えないようにしてください。
- ▶ 変換器ネックで十分な量の対流が発生するように注意してください。
- ▶ 変換器台座の十分に広い面積を露出させてください。覆われていない変換器の台座より放熱し、電子機器部が過熱/ 過冷却するのを防ぎます。

ヒーティングオプション

センサで熱損失が発生してはならない流体の場合は、次のヒーティングオプションを利用することが可能です。

- 電気ヒーティング (例：電気バンドヒーター)
- 温水または蒸気を利用した配管
- スチームジャケット

電氣的トレースヒーティングシステムを使用する場合

位相角またはパルスによって加熱制御が行われている場合、磁界が測定値に影響を及ぼす可能性があります (= EN 規格で承認された値より大きい値の場合 (sine 30 A/m))。

そのため、センサを磁気シールドする必要があります。ハウジングはプリキ板または金属シートで、任意方向にシールドすることができます (例：V330-35A)。

シートには、以下の特性が必要です。

- 比透磁率 $\mu_r \geq 300$
- プレート厚 $d \geq 0.35 \text{ mm}$ ($d \geq 0.014 \text{ in}$)

振動

計測チューブは高い振動周波数で測定を行っているため、配管等の外部振動の影響を受けません。

6.1.3 特別な取付けの説明

完全な排液性を保証

センサを水平方向に設置する場合、偏心クランプを使用すると完全な排液性を確保できます。センサを特定の方向に特定の角度で傾斜させる場合、重力により完全な排液性を確保できます。センサを水平方向に設置する場合、完全な排液性を確保するには、センサを正しい位置に取り付ける必要があります。センサ上の印は、最適に排水するための正しい取り付け位置を示します。

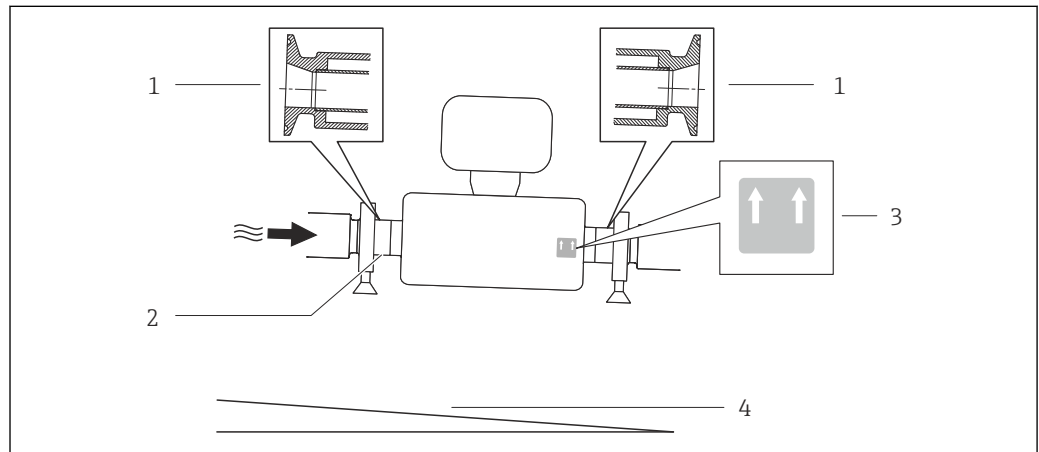


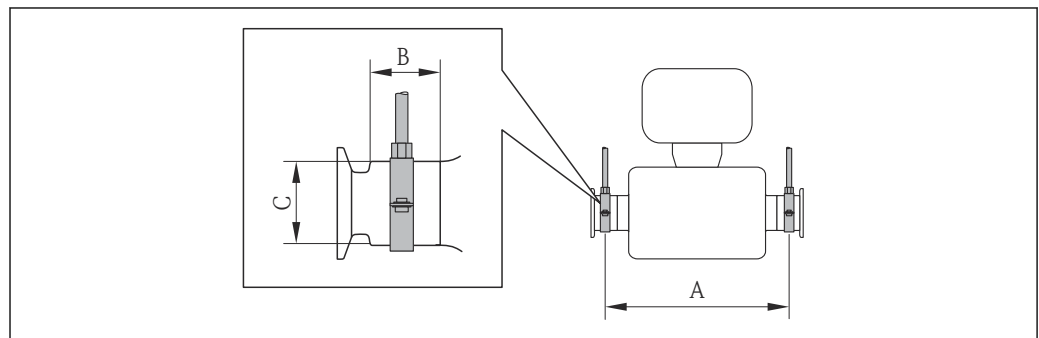
図 7

- 1 偏心クランプ接続
- 2 下側の線は偏心プロセス接続の最下点を示します。
- 3 「上向き矢印」ラベルは上側を示します。
- 4 衛生ガイドラインに準拠して機器を傾斜させてください。傾斜：約 2 % または 21 mm/m (0.24 in/feet)

サニタリ接続時の取付クランプによる固定

動作性能を確保するためにセンサに支持材を追加する必要はありません。ただし、設置のために支持材を追加する必要がある場合、以下の寸法に従ってください。

クランプと機器の間で取付クランプの位置を合わせます。



SI 単位

呼び口径 [mm]	8	15	15 FB	25	25 FB	40	40 FB	50	50 FB	80
A [mm]	373	409	539	539	668	668	780	780	1152	1152
B [mm]	20	20	30	30	28	28	35	35	57	57
C [mm]	40	40	44.5	44.5	60	60	80	80	90	90

US 単位

呼び口径 [in]	$\frac{3}{8}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{2}$ FB	1	1 FB	1 ½	1 ½ FB	2	2 FB	3
A [in]	14.69	16.1	21.22	21.22	26.3	26.3	30.71	30.71	45.35	45.35
B [in]	0.79	0.79	1.18	1.18	1.1	1.1	1.38	1.38	2.24	2.24
C [in]	1.57	1.57	1.75	1.75	2.36	2.36	3.15	3.15	3.54	3.54

ゼロ点調整

すべての機器は、最新技術に従って校正が実施されています。校正は、基準条件下で行われています → 図 99。そのため、現場でのゼロ点調整は、通常は必要ありません。

ゼロ点調整は以下のような場合に行うことを推奨します。

- 低流量でも最高の測定精度が要求される場合
- 過酷なプロセス条件または動作条件において（例：非常に高いプロセス温度または非常に高粘度の流体）

 ゼロ点調整は **ゼロ点調整の実施** パラメータ (→ 図 58) を介して実行します。

6.2 機器の取付け

6.2.1 必要な工具

センサ用

フランジおよびその他のプロセス接続用：適切な取付工具

6.2.2 機器の準備

1. 残っている輸送梱包材をすべて取り除きます。
2. センサから保護カバーまたは保護キャップをすべて取り外します。
3. 表示部のカバーに付いているステッカーをはがします。

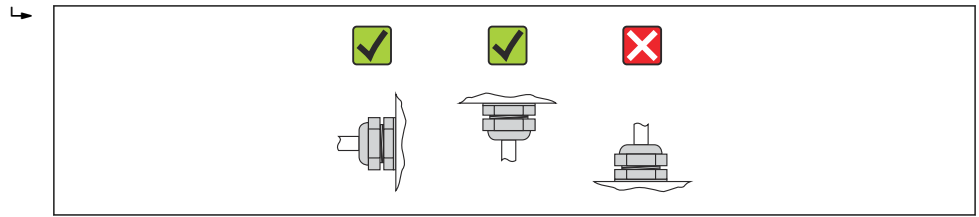
6.2.3 機器の取付け

 警告

プロセスの密閉性が不適切な場合、危険が及ぶ可能性があります。

- ▶ ガasketの内径がプロセス接続や配管と同等かそれより大きいか確認してください。
- ▶ ガasketに汚れや損傷がないことを確認してください。
- ▶ ガasketは正しく取り付けてください。

1. センサの型式銘板に表示された矢印の方向が、流体の流れ方向と一致しているか確認します。
2. 電線管接続口が上を向かないように機器を取り付けるか、変換器ハウジングを回転させます。

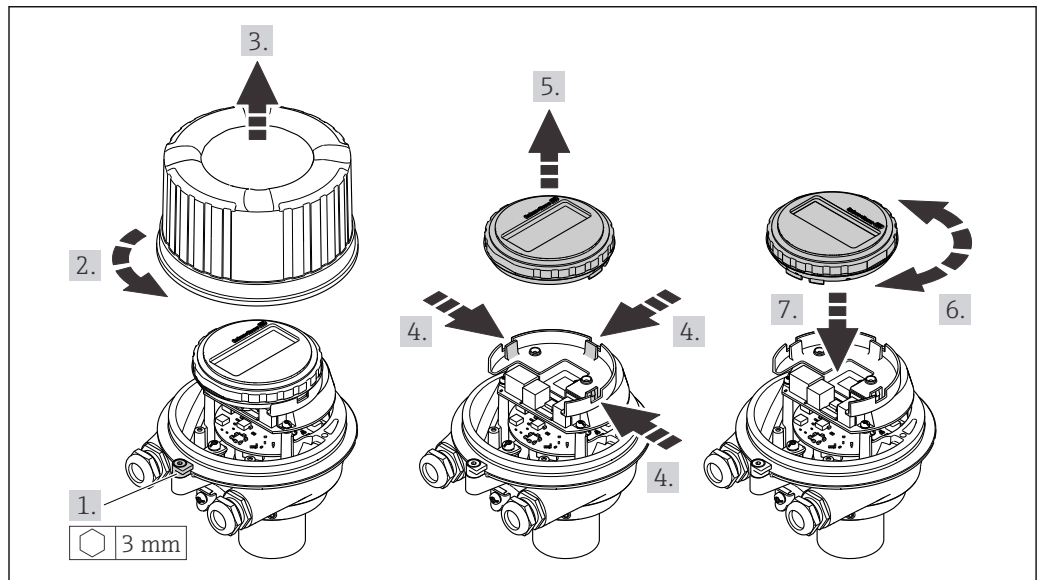


A0013964

6.2.4 表示モジュールの回転

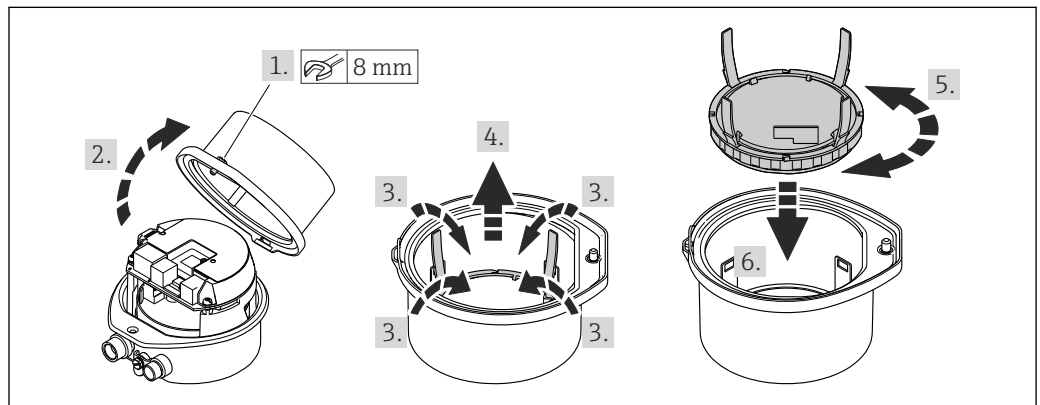
現場表示器は以下の機器でのみ使用できます。
「ディスプレイ；操作」のオーダーコード、オプション **B**：4行表示、照明、通信経由表示モジュールを回転させて、表示部の視認性を最適化することが可能です。

ハウジングの種類：アルミニウム、AlSi10Mg、塗装



A0023192

ハウジングの種類：一体型およびウルトラコンパクト、サニタリ、ステンレス




A0023195

6.3 設置状況の確認

機器は損傷していないか？（外観検査）	<input type="checkbox"/>
機器が測定ポイントの仕様を満たしているか？ 例： <ul style="list-style-type: none"> ▪ プロセス温度 → 104 ▪ プロセス圧力（技術仕様書の「圧力温度曲線」章を参照） ▪ 周囲温度 → 19 ▪ 測定範囲 → 93 	<input type="checkbox"/>
センサの正しい取付方向が選択されているか？ <ul style="list-style-type: none"> ▪ センサタイプに応じて ▪ 測定物温度に応じて ▪ 測定物特性に応じて（気泡、固形分が含まれる） 	<input type="checkbox"/>
センサの銘板にある矢印が配管内を流れる流体の方向に適合しているか → 18？	<input type="checkbox"/>
測定ポイントの識別番号とそれに対応する銘板は正しいか（外観検査）？	<input type="checkbox"/>
機器が湿気あるいは直射日光から適切に保護されているか？	<input type="checkbox"/>
固定ネジや固定クランプがしっかりと締め付けられているか？	<input type="checkbox"/>

7 電気接続

 本機器には内蔵のサーキットブレーカがありません。そのため、電源ラインを簡単に主電源から切り離せるようにするためのスイッチまたは電力ブレーカを機器に割り当てる必要があります。

7.1 接続条件

7.1.1 必要な工具

- 電線管接続口用：適切な工具を使用
- (アルミハウジングの) 固定クランプ用：六角ボルト 3 mm
- (ステンレスハウジングの) 固定クランプ用：スパナ 8 mm
- 電線ストリッパー
- より線ケーブルを使用する場合：スリーブ用の圧着工具

7.1.2 接続ケーブルの要件

ユーザー側で用意する接続ケーブルは、以下の要件を満たす必要があります。

電気の安全性

適用される各地域/ 各国の規定に準拠

許容温度範囲

- -40°C (-40°F) \sim $+80^{\circ}\text{C}$ ($+176^{\circ}\text{F}$)
- 最低要件：ケーブル温度範囲 \geq 周囲温度 $+20\text{ K}$

電源ケーブル

一般的な接続ケーブルをご使用いただけます。

信号ケーブル

EtherNet/IP

ANSI/TIA/EIA-568-B.2 Annex 規格では、CAT 5 が EtherNet/IP で使用可能なケーブルの最低カテゴリに指定されています。CAT 5e および CAT 6 が推奨です。

 EtherNet/IP ネットワークのプランニングおよび設置に関する詳細については、ODVA 協会の「Media Planning and Installation Manual Ethernet/IP」を参照してください。

ケーブル径

- 提供されるケーブルグランド：
M20 \times 1.5、 ϕ 6 \sim 12 mm (0.24 \sim 0.47 in) ケーブル用
- スプリング端子：
ケーブル断面積 0.5 \sim 2.5 mm² (20 \sim 14 AWG)

7.1.3 端子の割当て

変換器

EtherNet/IP 接続

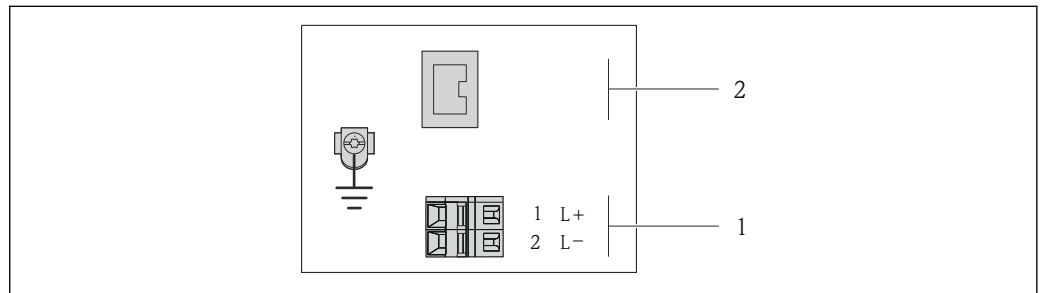
「出力」のオーダーコード、オプション **N**

ハウジングの種類に応じて、変換器は端子または機器プラグ付きで注文できます。

オーダーコード 「ハウジング」の オーダーコード	使用可能な接続方法		オーダーコード 「電気接続」
	出力	電源	
オプション A, B	機器プラグ → 図 28	端子	<ul style="list-style-type: none"> ■ オプション L : プラグ M12x1 + ネジ NPT ½" ■ オプション N : プラグ M12x1 + カップリング M20 ■ オプション P : プラグ M12x1 + ネジ G ½" ■ オプション U : プラグ M12x1 + ネジ M20
オプション A, B, C	機器プラグ → 図 28	機器プラグ → 図 28	オプション Q : 2 x プラグ M12x1

「ハウジング」のオーダーコード :

- オプション **A** : 一体型、塗装アルミダイカスト
- オプション **B** : 一体型、サニタリ、ステンレス
- オプション **C** : ウルトラコンパクト、サニタリ、ステンレス



A0017054

図 8 EtherNet/IP 端子の割当て

- 1 電源 : DC 24 V
- 2 EtherNet/IP

オーダーコード 「出力」のオーダーコード	端子番号		出力 機器プラグ M12x1
	電源 2 (L-)	1 (L+)	
オプション N	DC 24 V		EtherNet/IP

「出力」のオーダーコード :
オプション **N** : EtherNet/IP

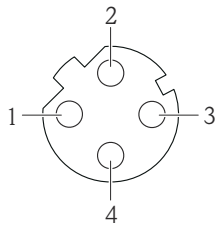
7.1.4 ピンの割当て、機器プラグ

Ethernet/IP

電源用の機器プラグ（機器側）

 <p>A0016809</p>	ピン		割当て
	1	L+	DC 24 V
	2		
	3		
	4	L-	DC 24 V
	5		接地/シールド
コード		プラグ/ソケット	
A		プラグ	

信号伝送用の機器プラグ（機器側）

 <p>A0016812</p>	ピン		割当て
	1	+	Tx
	2	+	Rx
	3	-	Tx
	4	-	Rx
	コード		プラグ/ソケット
D		ソケット	

7.1.5 機器の準備

1. ダミープラグがある場合は、これを取り外します。

2. **注記**

ハウジングの密閉性が不十分な場合。

機器の動作信頼性が損なわれる可能性があります。

▶ 保護等級に対応する適切なケーブルグランドを使用してください。

機器にケーブルグランドが同梱されていない場合：

接続ケーブルに対応する適切なケーブルグランドを用意してください → 図 26。

3. 機器にケーブルグランドが同梱されている場合：

ケーブル仕様に注意してください → 図 26。

7.2 機器の接続

注記

不適切な接続により電気的安全性が制限されます。

▶ 電気配線作業は、相応の訓練を受けた専門作業員のみが実施してください。

▶ 適用される各地域/各国の設置法規を遵守してください。

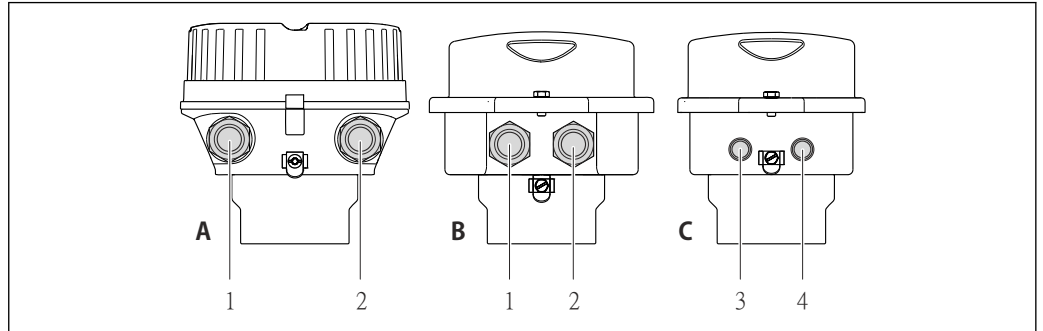
▶ 各地域の労働安全規定に従ってください。

▶ 爆発性雰囲気中で使用する場合は、機器固有の防爆資料の注意事項をよく読んでください。

7.2.1 変換器の接続

変換器の接続は、以下のオーダーコードに応じて異なります。

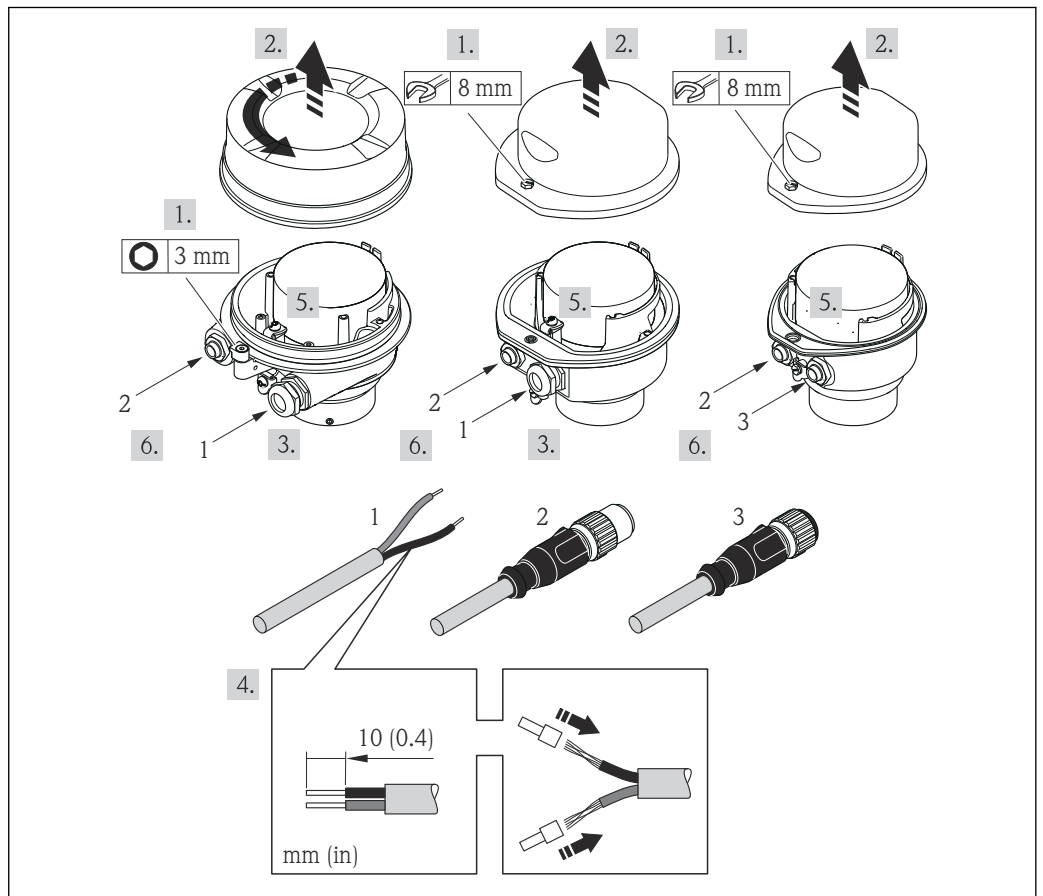
- ハウジングの種類：一体型またはウルトラコンパクト
- 接続の種類：機器プラグまたは端子



A0016924

図 9 ハウジングの種類および接続の種類

- A ハウジングの種類：一体型、塗装アルミダイカスト
- B ハウジングの種類：一体型サニタリ、ステンレス
- 1 信号伝送用の電線管接続口または機器プラグ
- 2 電源用の電線管接続口または機器プラグ
- C ハウジングの種類：ウルトラコンパクト、サニタリ、ステンレス
- 3 信号伝送用の機器プラグ
- 4 電源用の機器プラグ



A0017844

図 10 機器の型と接続の例

- 1 ケーブル
- 2 信号伝送用の機器プラグ
- 3 電源用の機器プラグ

機器プラグ付き機器バージョンの場合：ステップ 6 のみ順守してください。

- 1.ハウジングの種類に応じて、ハウジングカバーの固定クランプまたは固定ネジを緩めます。
- 2.ハウジングの種類に応じてハウジングカバーを開くか緩めて外し、必要に応じて、現場表示器をメイン電子モジュールから取り外します→ 109。
- 3.電線管接続口からケーブルを挿入します。気密性を確保するため、電線管接続口のシールリングは外さないでください。
- 4.ケーブルおよびケーブル終端の被覆を剥がします。より線ケーブルを使用する場合は、スリーブも取り付けます。
- 5.端子の割当てまたは機器プラグのピンの割当てに従ってケーブルを接続します。
- 6.機器バージョンに応じて、ケーブルグランドを締め付けるか、機器プラグを差し込んで締め付けます。
7. **警告**

ハウジングの密閉性が不十分な時には、ハウジング保護等級が無効になる場合があります。


- ▶ 潤滑剤を用いずにねじ込んでください。カバーのネジ部にはドライ潤滑コーティングが施されています。

変換器を再度取り付ける場合は、取り外しと逆の手順を実施してください。

7.2.2 電位平衡の確保

要件

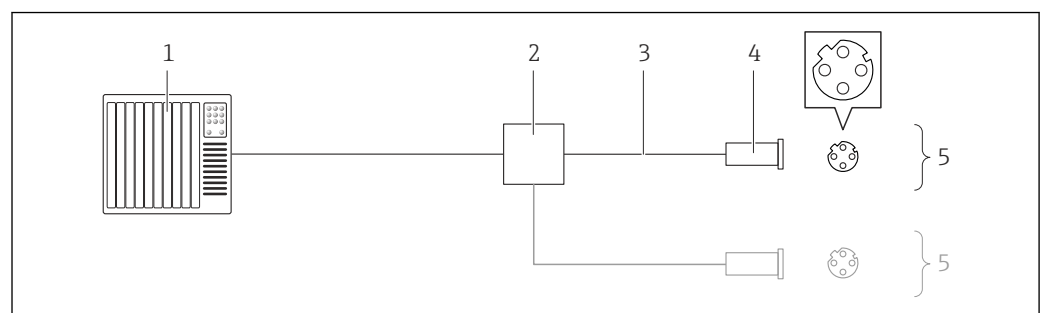
電位平衡に関して特別な措置を講じる必要はありません。

-  危険場所で機器を使用する場合、防爆関連資料のガイドラインに従ってください (XA)。

7.3 特別な接続指示

7.3.1 接続例

EtherNet/IP



A0016805

11 EtherNet/IP の接続例

- 1 制御システム (例：PLC)
- 2 Ethernet スイッチ
- 3 ケーブル仕様を参照→ 26
- 4 機器プラグ
- 5 変換器

7.4 ハードウェア設定

7.4.1 機器アドレスの設定


EtherNet/IP

機器の IP アドレスは、DIP スイッチを使用してネットワーク用に設定できます。

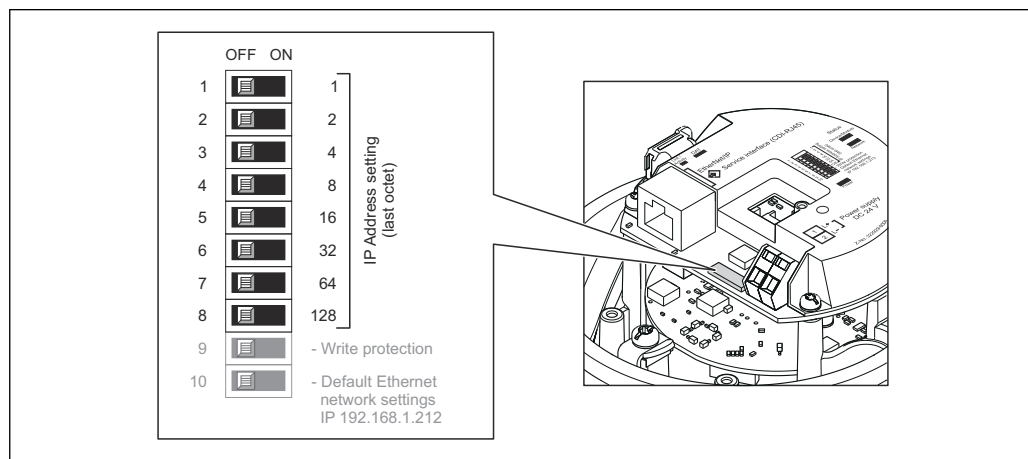
アドレス指定データ

IP アドレスおよび設定オプション			
第 1 オクテット	第 2 オクテット	第 3 オクテット	第 4 オクテット
192.	168.	1.	XXX
	↓		↓
	ソフトウェアアドレス指定を使用するのみ設定可能		ソフトウェアアドレス指定とハードウェアアドレス指定を使用して設定可能


IP アドレスレンジ	1~254 (第 4 オクテット)
IP アドレスブロードキャスト	255
工場出荷時のアドレス指定モード	ソフトウェアアドレス指定;ハードウェアアドレス指定用のすべての DIP スイッチはオフに設定されています。
工場出荷時の IP アドレス	DHCP サーバーはアクティブ

i ソフトウェアによる機器アドレス指定の場合 →  49

アドレスの設定



A0017913

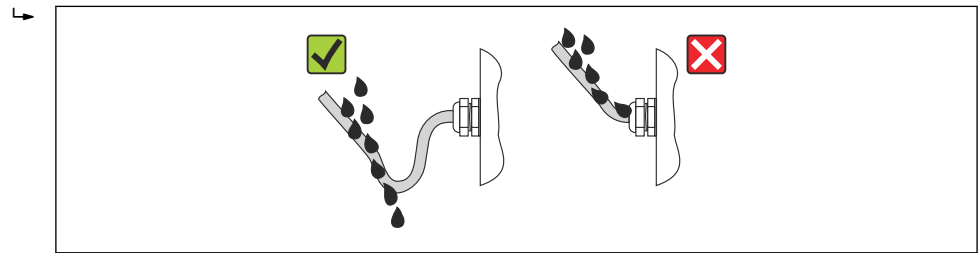
- ハウジングの種類に応じて、ハウジングカバーの固定クランプまたは固定ネジを緩めます。
- ハウジングの種類に応じてハウジングカバーを開くか緩めて外し、必要に応じて、現場表示器をメイン電子モジュールから取り外します →  109。
- I/O 電子モジュールの対応する DIP スイッチを使用して IP アドレスを設定します。
 - ➡ 設定済みの IP アドレスを使用したハードウェアアドレス指定が 10 秒後に有効になります。
- 変換器を再度取り付ける場合は、取り外しと逆の手順を実施してください。

7.5 保護等級の保証

本機器は、IP66/67 保護等級、タイプ 4X エンクロージャのすべての要件を満たしています。

IP 66 および IP 67 保護等級、タイプ 4X エンクロージャを保証するため、電気接続の後、次の手順を実施してください。

1. ハウジングシールに汚れがなく、適切に取り付けられているか確認してください。必要に応じて、シールの乾燥、清掃、交換を行います。
2. ハウジングのネジやカバーをすべてしっかりと締め付けます。
3. ケーブルグランドをしっかりと締め付けます。
4. 電線管接続口に水滴が侵入しないように、電線管接続口の手前でケーブルが下方に垂れるように配線してください（「ウォータートラップ」）。



A0013960

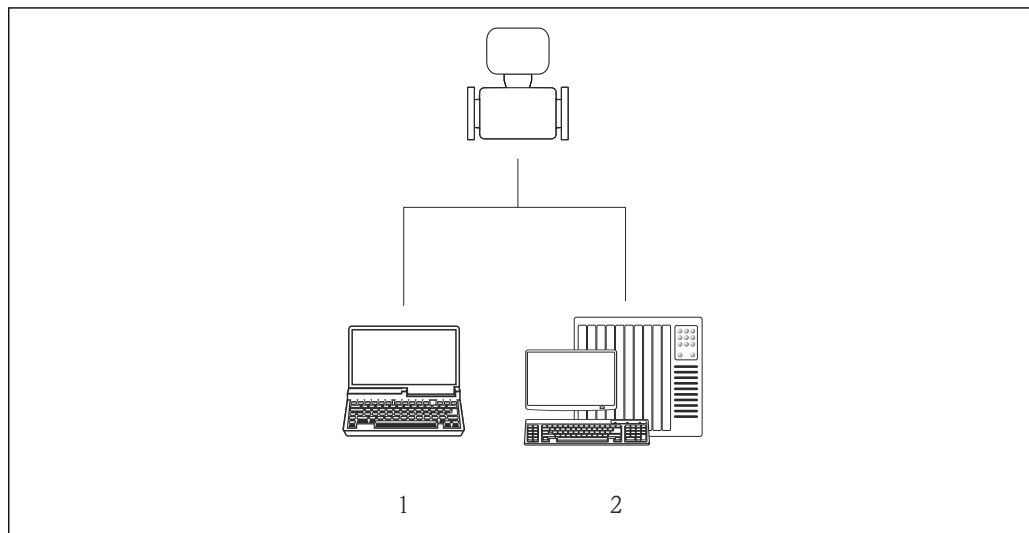
5. 使用しない電線管接続口にはダミープラグを挿入します。

7.6 配線状況の確認

ケーブルあるいは機器に損傷はないか（外観検査）？	<input type="checkbox"/>
ケーブルの仕様は正しいか → ㉞ 26？	<input type="checkbox"/>
ケーブルに適切なストレーンリリーフがあるか？	<input type="checkbox"/>
すべてのケーブルグランドが取り付けられ、しっかりと固定され、密閉されているか？ハウジングに進入するケーブルに、「ウォータートラップ」が設けられているか → ㉞ 32？	<input type="checkbox"/>
注文した機器の型に応じて：すべての機器プラグがしっかりと固定されているか → ㉞ 29？	<input type="checkbox"/>
電源電圧が変換器銘板の仕様に適合しているか？	<input type="checkbox"/>
機器プラグの端子の割当てまたはピンの割当てが正しいか？	<input type="checkbox"/>
電源が供給されている場合、変換器の電子モジュールの電源 LED が緑色に点灯しているか → ㉞ 10？	<input type="checkbox"/>
注文した機器の型に応じて、固定クランプまたは固定ネジがしっかりと締め付けられているか？	<input type="checkbox"/>

8 操作オプション

8.1 操作オプションの概要



- 1 ウェブブラウザ（例：Internet Explorer）または「FieldCare」操作ツールを搭載したコンピュータ
- 2 オートメーションシステム、例：「RSLogix」（Rockwell Automation）および機器操作用ワークステーション、「RSLogix 5000」ソフトウェア（Rockwell Automation）用のアドオンプロファイルレベル3付き

8.2 操作メニューの構成と機能

8.2.1 操作メニューの構成

i 操作メニューの概要（メニューおよびパラメータを含む）

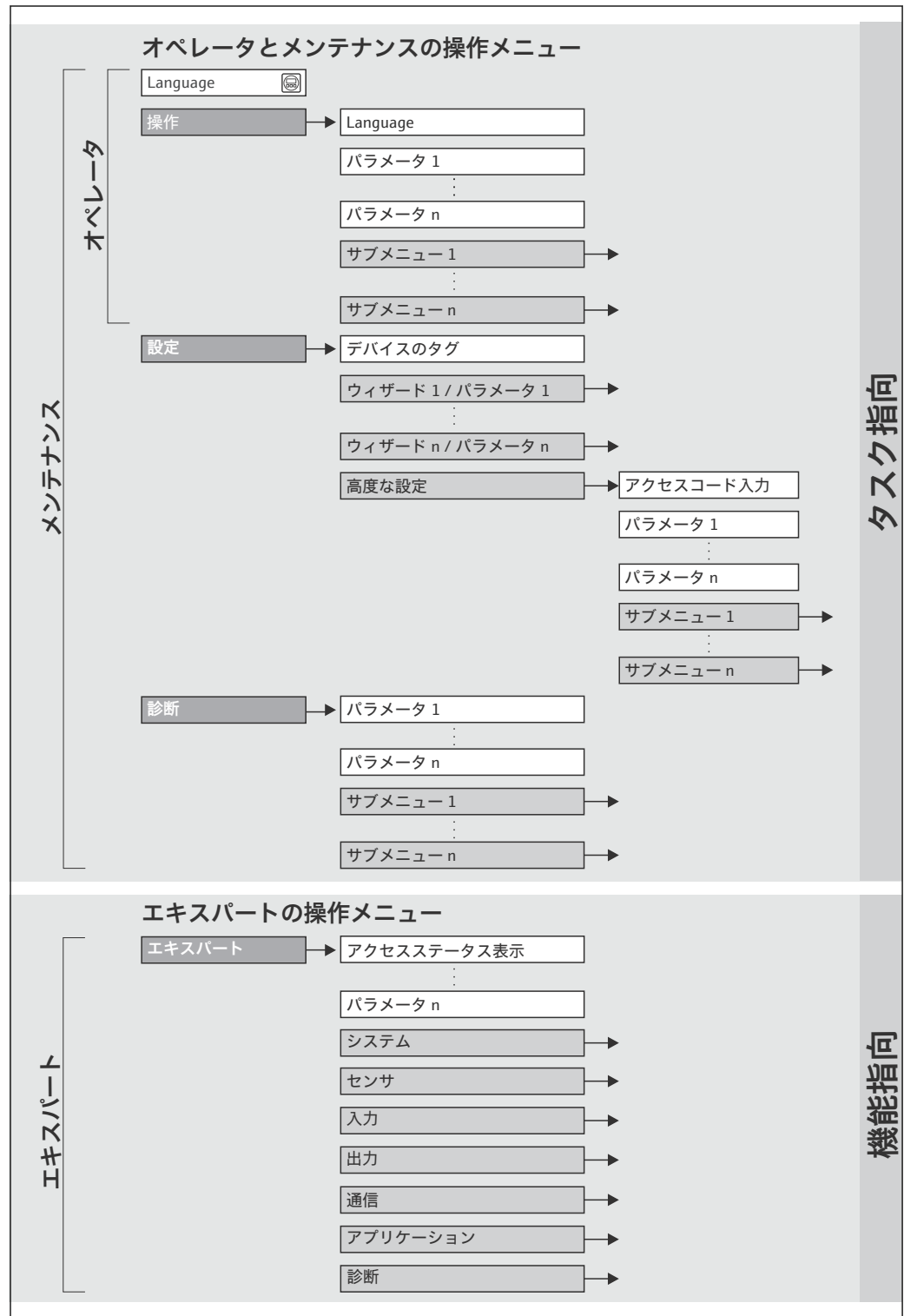


図 12 操作メニューの概要構成

A0018237-JA

8.2.2 操作指針

操作メニューの個別の要素は、特定のユーザーの役割に割り当てられています (オペレーター、メンテナンスなど)。各ユーザーの役割には、機器ライフサイクル内の標準的な作業が含まれます。

メニュー		ユーザの役割と作業	内容/意味
操作	タスク指向	「オペレータ」、「メンテナンス」の役割 運転中の作業： 測定値の読取り	<ul style="list-style-type: none"> ■ ウェブサーバ操作言語の設定 ■ 積算計のリセットおよびコントロール
設定		「メンテナンス」の役割 設定： <ul style="list-style-type: none"> ■ 測定の設定 ■ 通信インターフェイスの設定 	迅速な設定用のサブメニュー： <ul style="list-style-type: none"> ■ 個別のシステム単位の設定 ■ 測定物の設定 ■ デジタル通信インターフェイスの設定 ■ ローフローカットオフの設定 ■ 非満管検出および空検知の設定 「高度な設定」サブメニュー： <ul style="list-style-type: none"> ■ より高度にカスタマイズされた測定の設定 (特殊な測定条件に対応) ■ 積算計の設定 「機器リセット」サブメニュー 機器設定を特定の設定にリセット
診断		「メンテナンス」の役割 エラー解除： <ul style="list-style-type: none"> ■ プロセスおよび機器エラーの診断と解消 ■ 測定値シミュレーション 	エラー検出、プロセスおよび機器エラー分析用のパラメータがすべて含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 「診断リスト」サブメニュー 現在未処理の診断メッセージが最大 5 件含まれます。 ■ 「イベントログブック」サブメニュー 発生したイベントメッセージが 20 件含まれます。 ■ 「機器情報」サブメニュー 機器識別用の情報が含まれます。 ■ 「測定値」サブメニュー すべての現在の測定値が含まれます。 ■ 「シミュレーション」サブメニュー 測定値または出力値のシミュレーションに使用
エキスパート	機能指向	機器の機能に関してより詳細な知識が要求される作業： <ul style="list-style-type: none"> ■ 各種条件下における測定の設定 ■ 各種条件下における測定の最適化 ■ 通信インターフェイスの詳細設定 ■ 難しいケースにおけるエラー診断 	すべての機器パラメータが含まれており、アクセスコードを使用して直接これらのパラメータにアクセスすることが可能です。メニュー構造は機器の機能ブロックに基づいています。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 「システム」サブメニュー 測定または測定値の通信に関係しない、高次の機器パラメータがすべて含まれます。 ■ 「センサ」サブメニュー 測定の設定 ■ 「通信」サブメニュー デジタル通信インターフェイスおよびウェブサーバの設定 ■ 「アプリケーション」サブメニュー 実際の測定を超える機能 (例：積算計) の設定 ■ 「診断」サブメニュー 機器シミュレーションおよび Heartbeat Technology 用、プロセスおよび機器エラーの検出と分析


8.3 ウェブブラウザによる操作メニューへのアクセス

8.3.1 機能範囲


搭載されたウェブサーバにより、本機器はウェブブラウザを使用して操作と設定を行うことが可能です。測定値に加えて、機器のステータス情報も表示されるため、ユーザーは機器のステータスを監視できます。また、機器データの管理およびネットワークパラメータの設定が可能です。

8.3.2 必須条件



コンピュータハードウェア

インターフェイス	コンピュータには RJ45 インターフェイスが必要です。
接続ケーブル	RJ45 プラグの付いた標準 Ethernet ケーブル
画面	推奨サイズ：≥12"（画面解像度に応じて）  ウェブサーバの操作はタッチスクリーンには最適化されていません。


コンピュータソフトウェア

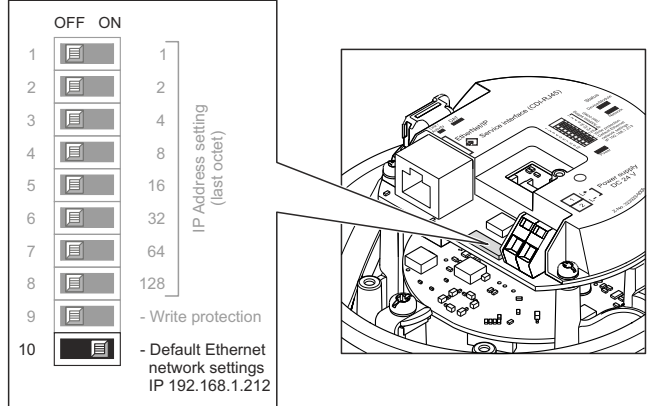
推奨のオペレーティングシステム	Microsoft Windows 7 以上  Microsoft Windows XP に対応します。
対応のウェブブラウザ	<ul style="list-style-type: none"> ▪ Microsoft Internet Explorer 8 以上 ▪ Mozilla Firefox ▪ Google chrome

コンピュータ設定

ユーザ権限	TCP/IP およびプロキシサーバの設定に必要なユーザ権限（IP アドレス、サブネットマスク、その他の変更のため）
ウェブブラウザのプロキシサーバ設定	ウェブブラウザ設定の LAN 用にプロキシサーバを使用を 無効 にする必要があります。
JavaScript	JavaScript を有効にしなければなりません。  JavaScript を有効にできない場合： ウェブブラウザのアドレス行に <code>http://XXX.XXX.X.XXX/basic.html</code> を入力します（例： <code>http://192.168.1.212/basic.html</code> ）。ウェブブラウザですべての機能を備えた簡易バージョンの操作メニューが起動します。  新しいファームウェアのバージョンをインストールする場合：正確なデータ表示を可能にするため、ウェブブラウザの一時的なメモリ（キャッシュ）を インターネットオプション で消去します。

機器

ウェブサーバ	ウェブサーバを有効にする必要があります。初期設定：オン  ウェブサーバの有効化に関する詳細 → 39
IP アドレス	機器の IP アドレスが不明な場合は、標準の IP アドレス 192.168.1.212 を使用してウェブサーバとの通信を確立できます。 DHCP 機能は工場出荷時に機器で有効になっています。つまり、機器は IP アドレスがネットワークによって割り当てられることを期待します。この機能は無効にすることが可能であり、機器を標準の IP アドレス 192.168.1.212 に設定し、DIP スイッチ番号 10 をオフ → オンに切り替えることができます。



A0017965

i ■ DIP スイッチをアクティブにした場合は、機器が標準の IP アドレスを使用する前に機器を再起動する必要があります。
 ■ 標準の IP アドレス (DIP スイッチ番号 10 = オン) を使用する場合、EtherNet/IP ネットワークとは接続されません。

8.3.3 接続の確立

コンピュータのインターネットプロトコルの設定

以下は、機器の Ethernet 初期設定です。

機器の IP アドレス : 192.168.1.212 (工場設定)

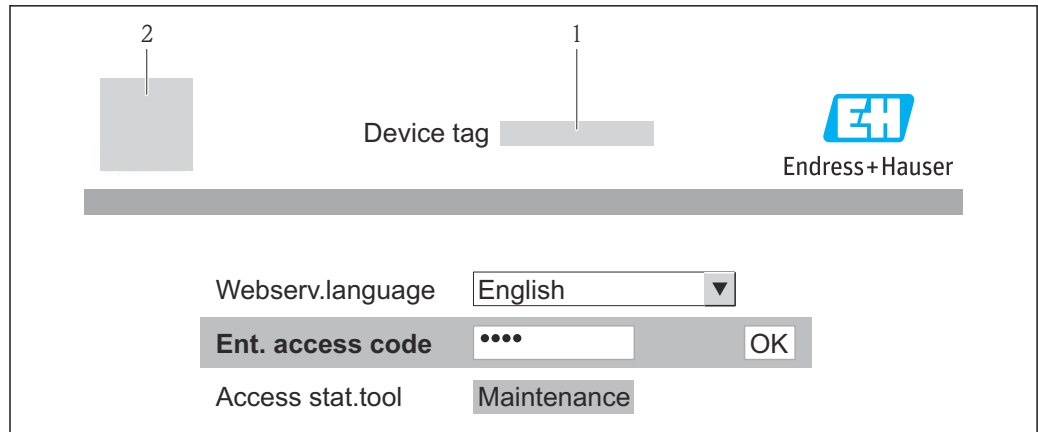
IP アドレス	192.168.1.XXX ; XXX については 0、212、255 以外のすべての数値 → 例 : 192.168.1.213
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.212 または空欄

1. 機器をオンにして、ケーブルを介してコンピュータに接続します → 図 41。
2. 2 つ目のネットワークカードを使用しない場合 : ノートパソコン上のすべてのアプリケーションを閉じるか、電子メール、SAP アプリケーション、Internet Explorer または Windows Explorer (つまり、開いているすべてのインターネットブラウザ) など、インターネットまたはネットワークを必要とするすべてのアプリケーションを閉じる必要があります。
3. 上記の表の記載に従って、インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティを設定します。

ウェブブラウザを起動します。

1. コンピュータのウェブブラウザを起動します。
2. 機器の IP アドレスが判明している場合は、定義された機器アドレスをウェブブラウザのアドレス行に入力します。不明な場合は、DIP スイッチ番号 10 を ON に設定し、機器を再起動して標準の IP アドレス 192.168.1.212 を入力します → 図 37。

ログイン画面が表示されます。



A0017362

- 1 デバイスのタグ → 50
- 2 機器の図

i ログイン画面が表示されない、または、画面が不完全な場合 → 70

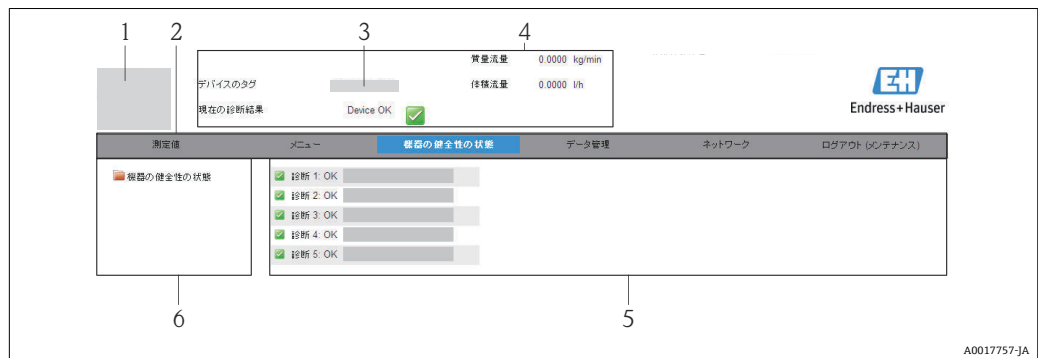
8.3.4 ログイン

1. 希望するウェブブラウザの操作言語を選択します。
2. アクセスコードを入力します。
3. **OK**を押して、入力内容を確定します。

アクセスコード	0000 (初期設定)、ユーザー変更可能 → 63
---------	---------------------------

i 10分間何も操作されなかった場合、ウェブブラウザは自動的にログイン画面に戻ります。

8.3.5 ユーザーインターフェイス



A0017757-JA

- 1 機器の図
- 2 6つの機能がある機能列
- 3 デバイスのタグ
- 4 ヘッダー
- 5 作業エリア
- 6 ナビゲーションエリア

ヘッダー

以下の情報がヘッダーに表示されます。

- デバイスのタグ → 50
- 機器ステータスとステータス信号 → 76
- 現在の測定値

機能列

機能	意味
測定値	機器の測定値を表示
メニュー	機器の操作メニュー構成へのアクセスは、操作ツールの場合と同じ
機器ステータス	現在未処理の診断メッセージを優先度の高い順序で表示
データ管理	<ul style="list-style-type: none"> ■ PC と機器間のデータ交換： <ul style="list-style-type: none"> ■ 機器から設定のアップロード (XML 形式、設定バックアップの作成) ■ 機器への設定の保存 (XML 形式、設定の復元) ■ イベントリストのエクスポート (.csv ファイル) ■ パラメータ設定のエクスポート (.csv ファイル、測定点設定の文書作成) ■ Heartbeat 検証ログのエクスポート (PDF ファイル、「Heartbeat 検証」アプリケーションパッケージの場合のみ使用可能) ■ 機器からシステム統合用機器ドライバのアップロード
ネットワーク設定	機器との接続確立に必要なすべてのパラメータの設定および確認 <ul style="list-style-type: none"> ■ ネットワーク設定 (例：IP アドレス、MAC アドレス) ■ 機器情報 (例：シリアル番号、ファームウェアのバージョン)
ログアウト	操作の終了とログイン画面の呼び出し

ナビゲーションエリア

機能バーで 1 つの機能を選択した場合、ナビゲーションエリアに機能のサブメニューが表示されます。ユーザーは、メニュー構成内をナビゲートすることができます。

作業エリア

選択した機能と関連するサブメニューに応じて、このエリアでさまざまな処理を行うことができます。

- パラメータ設定
- 測定値の読取り
- ヘルプテキストの呼び出し
- アップロード/ダウンロードの開始

8.3.6 ウェブサーバの無効化

機器のウェブサーバは、必要に応じて **Web サーバ 機能** パラメータを使用して有効化/無効化することが可能です。

ナビゲーション

「エキスパート」メニュー → 通信 → Web サーバ


パラメータ概要 (簡単な説明付き)

パラメータ	説明	選択
Web サーバ 機能	ウェブサーバのオン/オフ。	<ul style="list-style-type: none"> ■ オフ ■ オン

ウェブサーバの有効化

ウェブサーバが無効になっている場合は、以下の操作オプションを介して **Web サーバ 機能** パラメータ を使用した場合のみ、再度有効にできます。
「FieldCare」操作ツールを経由

8.3.7 ログアウト

 ログアウトする前に、必要に応じて、**データ管理**機能 (機器のアップロード設定) を使用してデータバックアップを行ってください。

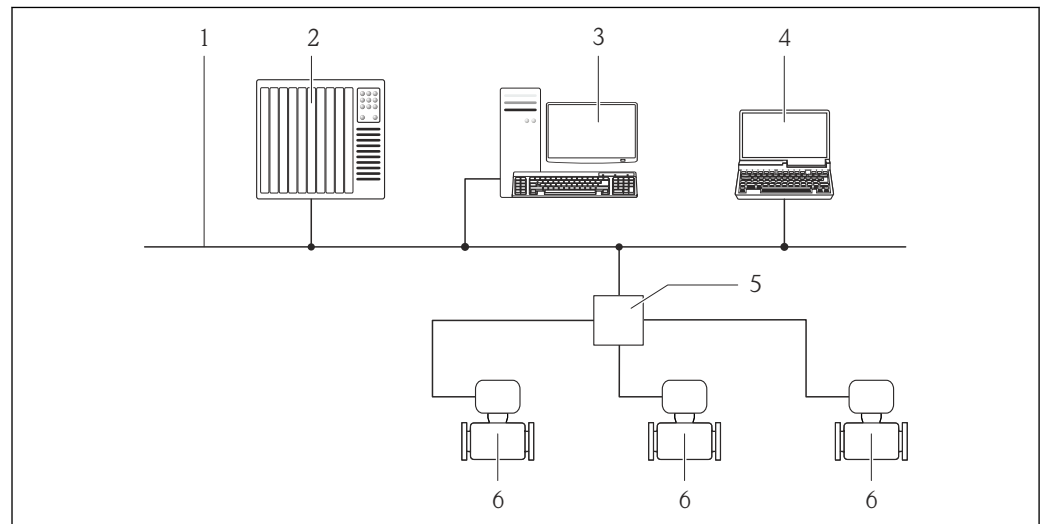
1. 機能列で **ログアウト** 入力項目を選択します。
↳ ホームページにログインボックスが表示されます。
 2. ウェブブラウザを閉じます。
 3. 変更したインターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティが必要ない場合は、リセットします → 図 37。
- i** 標準の IP アドレス 192.168.1.212 を介してウェブサーバとの通信が構築された場合は、DIP スイッチ番号 10 をリセットして (オン → オフ)、機器の IP アドレスを再度ネットワーク通信用にアクティブにする必要があります。

8.4 操作ツールによる操作メニューへのアクセス

8.4.1 操作ツールの接続

Ethernet ベースのフィールドバス経由

この通信インターフェイスは EtherNet/IP 対応の機器バージョンに装備されています。



A0016961

図 13 Ethernet ベースのフィールドバスを介したリモート操作のオプション

- 1 Ethernet ネットワーク
- 2 オートメーションシステム、例：「RSLogix」(Rockwell Automation)
- 3 機器操作ワークステーション：「RSLogix 5000」(Rockwell Automation) 用のアドオンプロファイルレベル 3 またはエレクトロニックデータシート (EDS) 付き
- 4 内蔵された機器 Web サーバーにアクセスするためのウェブブラウザ (例：Internet Explorer)、または「FieldCare」操作ツールと COM DTM 「CDI Communication TCP/IP」を搭載したコンピュータ
- 5 Ethernet スイッチ
- 6 機器

サービスインターフェイス（CDI-RJ45）経由

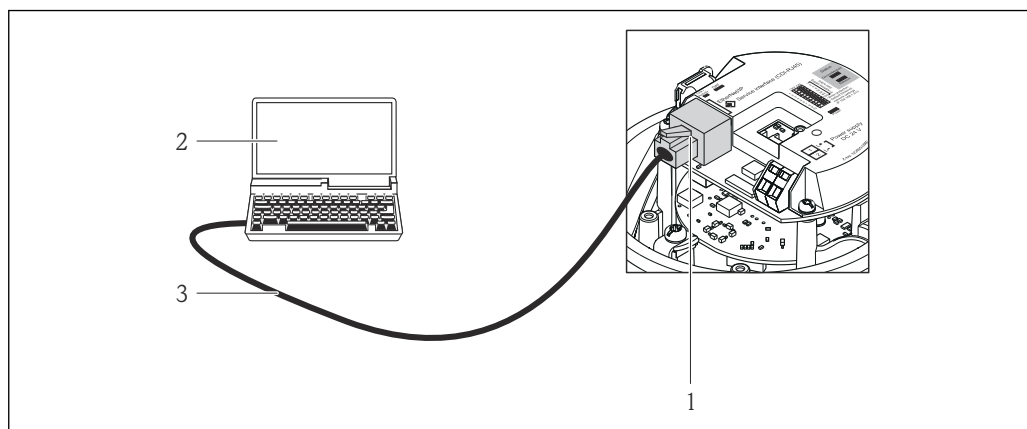


図 14 「出力」のオーダーコードの接続、オプション N : EtherNet/ IP

- 1 内蔵されたウェブサーバへアクセス可能な機器のサービスインターフェイス（CDI-RJ45）および EtherNet/IP インターフェイス
- 2 内蔵された機器ウェブサーバにアクセスするためのウェブブラウザ（例：Internet Explorer）、または COM DTM「CDI Communication TCP/IP」と「FieldCare」操作ツールを搭載したコンピュータ
- 3 RJ45 プラグの付いた標準 Ethernet 接続ケーブル

8.4.2 FieldCare

機能範囲


エンドレスハウザーの FDT ベースのプラントアセットマネジメントツールです。システム内にあるすべての高性能フィールド機器の設定を行い、その管理をサポートします。ステータス情報を使用することにより、各機器のステータスと状態を簡単かつ効果的にチェックすることができます。

以下を介したアクセス：

サービスインターフェイス CDI-RJ45 → 41

標準機能：

- 変換器のパラメータ設定
- 機器データの読み込みおよび保存（アップロード/ダウンロード）
- 測定点のドキュメント作成
- 測定値メモリ（ラインレコーダ）およびイベントログブックの視覚化

 詳細については、「取扱説明書」BA00027S および BA00059S を参照してください。

デバイス記述ファイルの入手先


データを参照 → 43

接続の確立

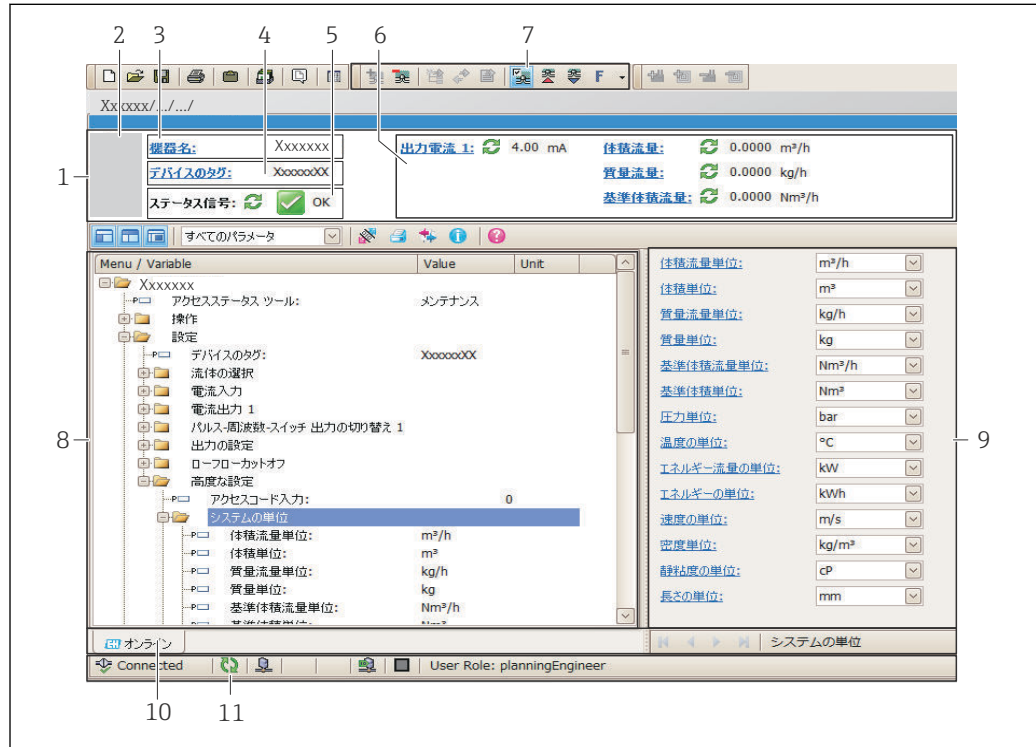
サービスインターフェイス（CDI-RJ45）経由

1. FieldCare を開始し、プロジェクトを立ち上げます。
2. ネットワークで：機器を追加します。
↳ 機器追加ウィンドウが開きます。
3. リストから **CDI Communication TCP/IP** を選択し、**OK** を押して確定します。
4. **CDI Communication TCP/IP** を右クリックして、開いたコンテキストメニューから **機器追加** を選択します。
5. リストから目的の機器を選択し、**OK** を押して確定します。
↳ **CDI Communication TCP/IP（設定）** ウィンドウが開きます。

6. **IP アドレス** フィールドに機器アドレスを入力し、**Enter** を押して確定します：
192.168.1.212（初期設定）；IP アドレスが不明な場合 → 65
7. 機器のオンライン接続を確立します。

 詳細については、「取扱説明書」BA00027S および BA00059S を参照してください。

ユーザインターフェイス



A0021051-JA

- 1 ヘッダー
- 2 機器の図
- 3 機器名
- 4 デバイスのタグ → 50
- 5 ステータスエリアとステータス信号 → 76
- 6 現在の測定値の表示エリア → 66
- 7 イベントリストおよび保存/読み込み、イベントリストとドキュメント作成などの追加機能
- 8 ナビゲーションエリアと操作メニュー構成
- 9 動作レンジ
- 10 アクションレンジ
- 11 ステータスエリア

9 システム統合

9.1 デバイス記述ファイルの概要

9.1.1 現在の機器データバージョン

ファームウェアのバージョン	01.02.zz	<ul style="list-style-type: none"> 取扱説明書の表紙に明記 変換器の銘板に明記 → 12 ファームウェアのバージョン 診断 → 機器情報 → ファームウェアのバージョン
ファームウェアのバージョンのリリース日付	2014年10月	---
製造者 ID	0x49E	製造者 ID 診断 → 機器情報 → 製造者 ID
機器タイプ ID	0x104A	機器タイプ 診断 → 機器情報 → 機器タイプ
機器リビジョン	<ul style="list-style-type: none"> メジャーレビジョン 2 マイナーレビジョン 1 	<ul style="list-style-type: none"> 変換器の銘板に明記 → 12 機器リビジョン 診断 → 機器情報 → 機器リビジョン
機器プロファイル	汎用機器 (製品タイプ: 0x2B)	


9.1.2 操作ツール

サービスインターフェイス (CDI) を介した操作ツール	デバイス記述ファイルの入手方法
FieldCare	<ul style="list-style-type: none"> www.endress.com → ダウンロードエリア CD-ROM (Endress+Hauser にお問い合わせください) DVD (Endress+Hauser にお問い合わせください)


9.2 システムファイルの概要

システムファイル	バージョン	説明	入手方法
エレクトロニックデータシート (EDS システムファイル)	2.1	以下の ODVA ガイドラインに従って認証を取得: <ul style="list-style-type: none"> 適合性試験 性能試験 PlugFest EDS 埋め込みサポート (ファイルオブジェクト 0x37)	<ul style="list-style-type: none"> www.endress.com → ダウンロードエリア 機器に統合された EDS システムファイル: ウェブブラウザを介してダウンロード可能 → 39
アドオンプロファイルレベル 3	<ul style="list-style-type: none"> メジャーレビジョン 2 マイナーレビジョン 1 	「RSLogix 5000」ソフトウェア用のシステムファイル (Rockwell Automation)	www.endress.com → ダウンロードエリア

9.3 システムに機器を統合

 機器をオートメーションシステム（例：Rockwell Automation 製）に統合するための詳細な手順説明については、個別の資料を参照してください。

www.endress.com → 国を選択 → オートメーション → デジタル通信 → フィールドバス機器統合 → EtherNet/IP

 EtherNet/IP のプロトコル固有データの情報用

9.4 周期的データ伝送

機器マスタファイル（GSD）を使用する場合の周期的データ伝送

9.4.1 ブロックモデル

ブロックモデルは、機器によって implicit メッセージングで使用可能になる入出力データを示します。周期的データ交換は EtherNet/IP スキャナ（例：分散型制御システムなど）を使用して実行されます。

機器			制御システム
トランスデューサ ブロック	固定入力アセンブリ (Assem100) 44 バイト → ⓘ 46	恒久的な割り当て 入力グループ →	EtherNet/IP
	固定出力アセンブリ (Assem102) 64 バイト → ⓘ 47	恒久的な割り当て 「出力」グループ ←	
	固定入力アセンブリ (Assem101) 88 バイト → ⓘ 46	設定可能 入力グループ →	

9.4.2 入力および出力グループ

可能な設定

設定 1：排他的オーナーマルチキャスト

固定入力アセンブリ		インスタンス	サイズ [バイト]	最小 RPI (ms)
設定可能な入力アセンブリ	設定	0 x 64	398	-
固定出力アセンブリ	O → T 設定	0 x 66	64	5
固定入力アセンブリ	T → O 設定	0 x 64	44	5

設定 2：入力専用マルチキャスト

固定入力アセンブリ		インスタンス	サイズ [バイト]	最小 RPI (ms)
設定可能な入力アセンブリ	設定	0 x 68	398	-
固定出力アセンブリ	O → T 設定	0 x C7	-	-
固定入力アセンブリ	T → O 設定	0 x 64	44	5

設定 3 : 排他的オーナーマルチキャスト

設定可能な入力アセンブリ		インスタンス	サイズ [バイト]	最小 RPI (ms)
設定可能な入力アセンブリ	設定	0 x 68	398	-
固定出力アセンブリ	O → T 設定	0 x 66	64	5
固定入力アセンブリ	T → O 設定	0 x 65	88	5

設定 4 : 入力専用マルチキャスト

設定可能な入力アセンブリ		インスタンス	サイズ [バイト]	最小 RPI (ms)
設定可能な入力アセンブリ	設定	0 x 68	398	-
固定出力アセンブリ	O → T 設定	0 x C7	-	-
固定入力アセンブリ	T → O 設定	0 x 64	88	5

設定 5 : 排他的オーナーマルチキャスト

固定入力アセンブリ		インスタンス	サイズ [バイト]	最小 RPI (ms)
設定可能な入力アセンブリ	設定	0 x 69	-	-
固定出力アセンブリ	O → T 設定	0 x 66	64	5
固定入力アセンブリ	T → O 設定	0 x 64	44	5

設定 6 : 入力専用マルチキャスト

固定入力アセンブリ		インスタンス	サイズ [バイト]	最小 RPI (ms)
設定可能な入力アセンブリ	設定	0 x 69	-	-
固定出力アセンブリ	O → T 設定	0 x C7	-	-
固定入力アセンブリ	T → O 設定	0 x 65	44	5

設定 7 : 排他的オーナーマルチキャスト

設定可能な入力アセンブリ		インスタンス	サイズ [バイト]	最小 RPI (ms)
設定可能な入力アセンブリ	設定	0 x 69	-	-
固定出力アセンブリ	O → T 設定	0 x 66	64	5
固定入力アセンブリ	T → O 設定	0 x 64	88	5

設定 8 : 入力専用マルチキャスト

設定可能な入力アセンブリ		インスタンス	サイズ [バイト]	最小 RPI (ms)
設定可能な入力アセンブリ	設定	0 x 69	-	-
固定出力アセンブリ	O → T 設定	0 x C7	-	-
固定入力アセンブリ	T → O 設定	0 x 65	88	5

恒久的に割り当てられた入力グループ

固定入力アセンブリ (Assem100) 44 バイト

名称	説明	バイト
固定入力アセンブリ	1. ファイルヘッダー (非表示)	1~4
	2. 現在の診断結果 ¹⁾	5~8
	3. 質量流量	9~12
	4. 体積流量	13~16
	5. 基準体積流量	17~20
	6. 温度	21~24
	7. 密度	25~28
	8. 基準密度	29~32
	9. 積算計 1	33~36
	10. 積算計 2	37~40
	11. 積算計 3	41~44

1) 構成 : コード、番号、説明 (例 : 16777265 F882 入力信号)



詳細な説明

- 診断情報 → 79
- 情報イベント → 83

設定可能な入力グループ

設定可能な入力アセンブリ (Assem101) 88 バイト

名称	説明	Format
設定可能な入力アセンブリ	1. - 10. 入力値 1~10	実数
	11. - 20. 入力値 11~20	倍精度整数

可能な入力値

可能な入力値 1~10 :		
<ul style="list-style-type: none"> ▪ オフ ▪ 質量流量 ▪ 体積流量 ▪ 基準体積流量 ▪ 固形分質量流量 ▪ 搬送液質量流量 ▪ 密度 ▪ 基準密度 ▪ 濃度 ▪ 粘度 ▪ 動粘度 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 粘度温度補正 ▪ 動粘度温度補正 ▪ 温度 ▪ 保護容器の温度 ▪ 電子モジュール内温度 ▪ 振動周波数 0 ▪ 振動周波数 1 ▪ 振動振幅 0 ▪ 振動振幅 1 ▪ 振動周波数 0 ▪ 振動周波数 1 ▪ 振動ダンピング 0 ▪ 振動ダンピング 1 ▪ 信号シフト 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ チューブダンピング変動 0 ▪ チューブダンピング変動 1 ▪ 励磁コイル電流 0 ▪ 励磁コイル電流 1 ▪ 励磁コイル電流の監視 0 ▪ 励磁コイル電流の監視 1 ▪ 積算計 1 ▪ 積算計 2 ▪ 積算計 3 ▪ センサの完全性

可能な入力値 11~20 :		
<ul style="list-style-type: none"> ▪ オフ ▪ 現在の診断結果 ▪ 前回の診断結果 ▪ 質量流量単位 ▪ 体積流量単位 ▪ 基準体積流量単位 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 温度単位 ▪ 密度単位 ▪ 基準密度単位 ▪ 濃度単位 ▪ 電流単位 ▪ ステータス検証 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 積算計 1 の単位 ▪ 積算計 2 の単位 ▪ 積算計 3 の単位 ▪ 検証結果 ▪ 粘度の単位 ▪ 動粘度の単位

恒久的に割り当てられた出力グループ

固定出力アセンブリ (Assem102) 64 バイト

名称	説明 (形式)	バイト	ビット	値
固定出力アセンブリ	1. 積算計 1	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 0 : 有効 ▪ 1 : 無効
	2. 積算計 2		2	
	3. 積算計 3		3	
	4. 圧力補正		4	
	5. 基準密度補正		5	
	6. 温度補償		6	
	7. 検証		7	
	8. 未使用		8	
	9. 未使用	2~4	0~8	-
	10. 積算計 1 のコントロール (整数)	5~6	0~8	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 32226 : 追加 ▪ 32490 : リセットおよび停止 ▪ 32228 : デフォルト値および停止 ▪ 198 : リセットおよび追加 ▪ 199 : デフォルト値および追加
	11. 未使用	7~8	0~8	-
	12. 積算計 2 のコントロール (整数)	9..10	0~8	積算計 1 を参照
	13. 未使用	11~12	0~8	-
	14. 積算計 3 のコントロール (整数)	13~14	0~8	積算計 1 を参照
	15. 未使用	15~16	0~8	-
	16. 外部の圧力 (実数)	17~20	0~8	データ形式 : 1~4 バイト : 外部の圧力 浮動小数点数 (IEEE754)
	17. 外部の圧力単位 (整数)	21~22	0~8	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 2165 : Pa a ▪ 2116 : kPa a ▪ 2137 : MPa a ▪ 4871 : bar a ▪ 2166 : Pa g ▪ 2117 : kPa a ▪ 2138 : MPa a ▪ 2053 : bar g ▪ 2182 : Psi a ▪ 2183 : Psi g ▪ 2244 : ユーザ固有
	18. 未使用	23~24	0~8	-
	19. 外部の基準密度 (実数)	25~28	0~8	データ形式 : 1~4 バイト : 外部の基準密度 浮動小数点数 (IEEE754)

名称	説明 (形式)	バイト	ビット	値
	20. 外部の基準密度単位 (整数)	29~30	0~8	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2112 : kg/Nm³ ■ 2113 : kg/Nl ■ 2092 : g/Scm³ ■ 2114 : kg/Scm³ ■ 2181 : lb/Sft³
	21. 未使用	31~32	0~8	-
	22. 外部の温度 (実数)	33~36	0~8	データ形式 : 1~4 バイト : 外部の温度 浮動小数点数 (IEEE754)
	23. 外部の温度単位 (整数)	37~38	0~8	<ul style="list-style-type: none"> ■ 4608 : °C ■ 4609 : °F ■ 4610 : K ■ 4611 : °R
	24. 未使用	39~40	0~8	-
	25. 検証開始 (整数)	41~42	0~8	<ul style="list-style-type: none"> ■ 32378 : 開始 ■ 32713 : キャンセル
	26. 未使用	43~64	0~8	-

10 設定

10.1 機能確認

機器の設定を実施する前に：

- ▶ 設置状況の確認および配線状況の確認を行ったか確認してください。
- 「設置状況の確認」チェックリスト → ㉮ 25
- 「配線状況の確認」チェックリスト → ㉮ 32

10.2 ソフトウェアによる機器アドレスの設定

「通信」サブメニューで、機器のアドレスを設定できます。

ナビゲーション

「設定」メニュー → 通信 → デバイスアドレス

10.2.1 Ethernet ネットワークとウェブサーバ

納入時の機器は、以下の初期設定となっています。

IP アドレス	192.168.1.212
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.212

- i
 - ハードウェアアドレス指定が有効な場合、ソフトウェアアドレス指定は無効となります。
 - ハードウェアアドレス指定に切り替えられた場合、ソフトウェアアドレス指定によって設定されたアドレスは、最初の 9 桁が保持されます（最初の 3 オクテット）。
 - 機器の IP アドレスが不明な場合は、現在設定されている機器アドレスを読み出すことが可能です → ㉮ 65。

10.3 操作言語の設定

初期設定：英語または注文した地域の言語

現場表示器の操作言語は、FieldCare または Web サーバーを介して設定できます。操作 → Display language

10.4 機器の設定

設定メニュー（サブメニュー付き）には、通常運転に必要なパラメータがすべて含まれています。

/ 設定

▶ システムの単位

▶ 流体の選択	
▶ 通信	→ 52
▶ ローフローカットオフ	→ 54
▶ 非満管の検出	→ 55
▶ 高度な設定	→ 56

10.4.1 タグ番号の設定

システム内で迅速に測定点を識別するため、**デバイスのタグ** パラメータを使用して一意的な名称を入力し、それによって工場設定を変更することが可能です。

i 表示される文字数は使用される文字に応じて異なります。

i 「FieldCare」操作ツールのタグ番号に関する詳細 → 42

ナビゲーション

「設定」メニュー → デバイスのタグ

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザー入力	工場出荷時設定
デバイスのタグ	機器のタグを入力。	最大 32 文字（英字、数字、または特殊文字（例：@, %, /）など）	Promass 100

10.4.2 システムの単位の設定

システムの単位 サブメニューで、すべての測定値の単位を設定できます。

i 機器バージョンに応じて、一部の機器には使用できないサブメニューやパラメータがあります。選択はオーダーコードに応じて異なります。

▶ システムの単位
質量流量単位
質量単位
体積流量単位
体積単位
基準体積流量単位
基準体積単位
密度単位

基準密度単位
温度の単位
圧力単位

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	選択	工場出荷時設定
質量流量単位	質量流量の単位を選択。 結果 選択した単位は以下に適用： <ul style="list-style-type: none"> ■ 出力 ■ ローフローカットオフ ■ シミュレーションするプロセス変数 	単位の選択リスト	国に応じて異なります： <ul style="list-style-type: none"> ■ kg/h ■ lb/min
質量単位	質量の単位を選択。 結果 選択した単位は、以下の設定が用いられます。 質量流量単位 パラメータ	単位の選択リスト	国に応じて異なります： <ul style="list-style-type: none"> ■ kg ■ lb
体積流量単位	体積流量の単位を選択。 結果 選択した単位は以下に適用： <ul style="list-style-type: none"> ■ 出力 ■ ローフローカットオフ ■ シミュレーションするプロセス変数 	単位の選択リスト	国に応じて異なります： <ul style="list-style-type: none"> ■ l/h ■ gal/min (us)
体積単位	体積の単位を選択。 結果 選択した単位は、以下の設定が用いられます。 体積流量単位 パラメータ	単位の選択リスト	国に応じて異なります： <ul style="list-style-type: none"> ■ l ■ gal (us)
基準体積流量単位	基準体積流量の単位を選択。 結果 選択した単位は以下に適用： <ul style="list-style-type: none"> ■ 出力 ■ ローフローカットオフ ■ シミュレーションするプロセス変数 	単位の選択リスト	国に応じて異なります： <ul style="list-style-type: none"> ■ NI/h ■ Sft³/h
基準体積単位	基準体積の単位を選択。 結果 選択した単位は、以下の設定が用いられます。 基準体積流量単位 パラメータ	単位の選択リスト	国に応じて異なります： <ul style="list-style-type: none"> ■ NI ■ Sft³
密度単位	密度単位を選択。 結果 選択した単位は以下に適用： <ul style="list-style-type: none"> ■ 出力 ■ シミュレーションするプロセス変数 	単位の選択リスト	国に応じて異なります： <ul style="list-style-type: none"> ■ kg/l ■ lb/ft³
基準密度単位	基準密度の単位を選択。	単位の選択リスト	-
温度の単位	温度の単位を選択。 結果 選択した単位は以下に適用： <ul style="list-style-type: none"> ■ 出力 ■ 基準温度 ■ シミュレーションするプロセス変数 	単位の選択リスト	国に応じて異なります： <ul style="list-style-type: none"> ■ °C (Celsius) ■ °F (Fahrenheit)
圧力単位	プロセス圧力の単位を選択。	単位の選択リスト	国に応じて異なります： <ul style="list-style-type: none"> ■ bar ■ psi

10.4.3 測定物の選択および設定

測定物の選択サブメニューには、測定物の選択および設定に必要なすべてのパラメータが含まれています。

ナビゲーション

「設定」メニュー → 測定物の選択

▶ 流体の選択	
測定物の選択	→ 52
気体の種類選択	→ 52
基準音速	→ 52
音速の温度係数	→ 52
圧力補正	→ 52
補正する圧力値	→ 52
外部圧力	→ 52

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力	工場出荷時設定
測定物の選択	-	測定物の種類を選択。	気体	-
気体の種類選択	流体の選択 で、以下の選択項目が選択されていること。 気体	測定する気体の種類を選択。	気体の種類の選択リスト	-
基準音速	気体の種類選択 で、以下の選択項目が選択されていること。 その他	0 °C (32 °F) の気体の音速を入力。	1~99999.9999 m/s	0 m/s
音速の温度係数	気体の種類選択 で、以下の選択項目が選択されていること。 その他	気体の音速の温度係数を入力。	正の浮動小数点数	0 (m/s)/K
圧力補正	流体の選択 で、以下の選択項目が選択されていること。 気体	圧力補正タイプを選択。	<ul style="list-style-type: none"> ▪ オフ ▪ 固定値 ▪ 外部入力値 	-
補正する圧力値	圧力補正 で、以下の選択項目が選択されていること。 固定値	圧力補正に使用するプロセス圧力を入力。	正の浮動小数点数	-
外部圧力	圧力補正 で、以下の選択項目が選択されていること。 外部の値		正の浮動小数点数	-

10.4.4 通信インターフェイスの設定

「通信」サブメニューを使用すると、通信インターフェイスの選択および設定に必要なすべてのパラメータを体系的に設定できます。

ナビゲーション

「設定」メニュー → 通信

▶ 通信

MAC アドレス

デフォルトのネットワーク設定



DHCP client

IP アドレス

Subnet mask

Default gateway

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザーインターフェイス/ 選択/ユーザー入力	工場出荷時設定
MAC アドレス	機器の MAC アドレスを表示。  MAC = Media Access Control (メディアアクセス制御)	英字と数字から成る一意的な 12 桁の文字列 (例： 00:07:05:10:01:5F)	各機器に個別のアドレスが付 与されます。
デフォルトのネットワーク設定	ネットワーク設定を復元するかどうかを選 択。	<ul style="list-style-type: none"> ■ オフ ■ オン 	-
DHCP client	DHCP クライアントの機能を有効/無効に するかを選択。 結果 ウェブサーバの DHCP クライアント機能が 有効な場合、IP アドレス、サブネットマス ク、デフォルトゲートウェイは自動的に設 定されます。  機器の MAC アドレスを介して識別 されます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ オフ ■ オン 	オン
IP アドレス	機器の Web サーバーの IP アドレス。	4 オクテット : 0 ~ 255 (特定 のオクテットにおいて)	-
Subnet mask	サブネットマスクを表示。	4 オクテット : 0 ~ 255 (特定 のオクテットにおいて)	-
Default gateway	デフォルトゲートウェイを表示。	4 オクテット : 0 ~ 255 (特定 のオクテットにおいて)	-

10.4.5 ローフローカットオフの設定

ローフローカットオフ サブメニューには、ローフローカットオフの設定に関して設定しなければならないパラメータが含まれています。

ナビゲーション

「設定」メニュー → ローフローカットオフ

▶ ローフローカットオフ	
プロセス変数の割り当て	→ 54
ローフローカットオフ オンの値	→ 54
ローフローカットオフ オフの値	→ 54
プレッシャショックの排除	→ 54

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力	工場出荷時設定
プロセス変数の割り当て	-	ローフローカットオフに割り当てるプロセス変数を選択。	<ul style="list-style-type: none"> ■ オフ ■ 質量流量 ■ 体積流量 ■ 基準体積流量 	-
ローフローカットオフ オンの値	プロセス変数の割り当て パラメータで、以下の選択項目のいずれかが選択されていること。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 質量流量 ■ 体積流量 ■ 基準体積流量 	ローフローカットオフがオンになる値を入力。	正の浮動小数点数	液体の場合：国および呼び口径に応じて異なります。
ローフローカットオフ オフの値	プロセス変数の割り当て パラメータで、以下の選択項目のいずれかが選択されていること。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 質量流量 ■ 体積流量 ■ 基準体積流量 	ローフローカットオフをオフにする値を入力。	0~100.0 %	-
プレッシャショックの排除	プロセス変数の割り当て パラメータで、以下の選択項目のいずれかが選択されていること。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 質量流量 ■ 体積流量 ■ 基準体積流量 	大きな圧力変動時の信号抑制 (=プレッシャショックさプレス) の期間を入力。	0~100 秒	-

10.4.6 非満管検出の設定

非満管検出サブメニューには、空検知設定に必要なパラメータが含まれています。

ナビゲーション

「設定」メニュー → 非満管の検出


▶ 非満管の検出	
プロセス変数の割り当て	→ 55
非満管検出の下側の閾値	→ 55
非満管検出の上側の閾値	→ 55
非満管検出までの応答時間	→ 55

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力	工場出荷時設定
プロセス変数の割り当て	-	部分的に充填されたパイプの検出に割り当てるプロセス変数を選択。	<ul style="list-style-type: none"> ■ オフ ■ 密度 ■ 基準密度 	-
非満管検出の下側の閾値	プロセス変数の割り当てで、以下の選択項目のいずれかが選択されていること。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 密度 ■ 基準密度 	部分的に充填されたパイプの検出を無効にする下限値を入力。	符号付き浮動小数点数	国に応じて異なります： <ul style="list-style-type: none"> ■ 0.2 kg/l ■ 12.5 lb/ft³
非満管検出の上側の閾値	プロセス変数の割り当てで、以下の選択項目のいずれかが選択されていること。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 密度 ■ 基準密度 	部分的に充填されたパイプの検出を無効にする上限値を入力。	符号付き浮動小数点数	国に応じて異なります： <ul style="list-style-type: none"> ■ 6 kg/l ■ 374.6 lb/ft³
非満管検出までの応答時間	プロセス変数の割り当てで、以下の選択項目のいずれかが選択されていること。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 密度 ■ 基準密度 	空検知の診断メッセージを表示するまでの時間（遅延時間）を入力。	0~100 秒	-

10.5 高度な設定

高度な設定 サブメニューとそのサブメニューには、特定の設定に必要なパラメータが含まれています。

 サブメニューの数は機器バージョンに応じて異なります。たとえば、粘度は Promass I でのみ使用できます。

ナビゲーション

「設定」メニュー → 高度な設定

▶ 高度な設定	
アクセスコード入力	
▶ 計算値	→ 56
▶ センサの調整	→ 57
▶ 積算計 1~n	→ 58
▶ 表示	→ 59
▶ 粘度	
▶ 濃度	
▶ ハートビート設定	
▶ 管理	→ 84

10.5.1 計算値

計算値 サブメニューには、基準体積流量の計算に必要なパラメータがすべて含まれています。

ナビゲーション

「設定」メニュー → 高度な設定 → 計算値

▶ 計算値	
▶ 基準体積流量の計算	
基準体積流量の計算	→ 57
外部入力基準密度	→ 57
固定基準密度	→ 57
基準温度	→ 57

1 次熱膨張係数	→ 57
2 次熱膨張係数	→ 57

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力	工場出荷時設定
基準体積流量の計算	-	基準体積流量計算のための基準密度を選択。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 固定基準密度 ■ 算出基準密度 ■ API table 53 による基準密度 ■ 外部入力の基準密度 	-
外部入力の基準密度	-	外部入力の基準密度を表示。	符号を含む浮動小数点数	0 kg/NI
固定基準密度	基準体積流量の計算 で、以下の選択項目が選択されていること。 固定基準密度	基準密度の固定値を入力。	正の浮動小数点数	-
基準温度	基準体積流量の計算 で、以下の選択項目が選択されていること。 算出基準密度	基準密度計算のための基準温度を入力。	-273.15~99999 °C	-
1 次熱膨張係数	基準体積流量の計算 で、以下の選択項目が選択されていること。 算出基準密度	基準密度計算のための被測定物固有の線膨張係数を入力。	符号付き浮動小数点数	-
2 次熱膨張係数	-	非線形膨張の場合: 基準密度計算のための被測定物固有の2次膨張係数を入力。	符号付き浮動小数点数	-

10.5.2 センサの調整の実施

センサの調整サブメニューには、センサの機能に関するパラメータが含まれます。

ナビゲーション

「設定」メニュー → 高度な設定 → センサの調整

▶ センサの調整	
設置方向	→ 58
▶ ゼロ点調整	
ゼロ点調整の実施	→ 58
進行中	→ 58

パラメータ概要（簡単な説明付き）

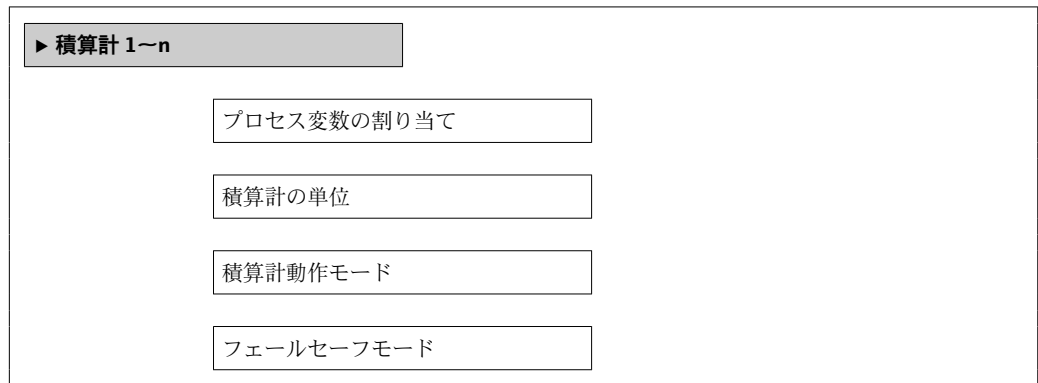
パラメータ	説明	選択/ユーザーインターフェイス
設置方向	センサ上の矢印の方向と一致する流れ方向の符号を設定。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 矢印方向の流れ ■ 矢印の反対方向の流れ
ゼロ点調整の実施	ゼロ点調整を開始。	<ul style="list-style-type: none"> ■ キャンセル ■ 進行中 ■ ゼロ点調整エラー ■ 開始
進行中	プロセスの進行状態を見る。	0~100 %

10.5.3 積算計の設定

「積算計 1~n」サブメニューで個別の積算計を設定できます。

ナビゲーション

「設定」メニュー → 高度な設定 → 積算計 1~n



パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	選択
プロセス変数の割り当て	積算計に割り当てるプロセス変数を選択。	<ul style="list-style-type: none"> ■ オフ ■ 体積流量 ■ 質量流量 ■ 基準体積流量 ■ 固形分質量流量 ■ 搬送液質量流量
積算計の単位	積算計の単位を選択。	単位の選択リスト
積算計動作モード	積算計の計算モードを選択。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 正味流量の積算 ■ 正方向流量の積算 ■ 逆方向流量の積算
フェールセーフモード	アラーム状態の積算計の出力を選択。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 停止 ■ 実際の値 ■ 最後の有効値

10.5.4 表示の追加設定

「表示」サブメニューを使用して、現場表示器の設定に関するすべてのパラメータを設定できます。


ナビゲーション

「設定」メニュー → 高度な設定 → 表示

▶ 表示
表示形式
1 の値表示
バーグラフ 0%の値 1
バーグラフ 100%の値 1
小数点桁数 1
2 の値表示
小数点桁数 2
3 の値表示
バーグラフ 0%の値 3
バーグラフ 100%の値 3
小数点桁数 3
4 の値表示
小数点桁数 4
Display language
表示間隔
表示のダンピング
ヘッダー
ヘッダーテキスト
区切り記号
バックライト

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力	工場出荷時設定
表示形式	-	測定値のディスプレイへの表示方法を選択。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1つの値、最大サイズ ■ 1つの値+バーグラフ ■ 2つの値 ■ 1つの値はサイズ大+2つの値 ■ 4つの値 	-
1の値表示	-	<p>ローカルディスプレイに表示する測定値を選択。</p> <p> 機器バージョンに応じて、このパラメータでは一部使用できないオプションがあります。センサに応じて選択が異なります。たとえば、粘度はPromass Iでのみ使用できます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 質量流量 ■ 体積流量 ■ 基準体積流量 ■ 固形分質量流量 ■ 搬送液質量流量 ■ 密度 ■ 基準密度 ■ 濃度 ■ 静粘度 ■ 動粘度 ■ 温度補正後の静粘度 ■ 温度補正後の動粘度 ■ 温度 ■ 保護容器の温度 ■ 電気部内温度 ■ 振動周波数 0 ■ 振動周波数 1 ■ 振動振幅 0 ■ 振動振幅 1 ■ 周波数変動 0 ■ 周波数変動 1 ■ 振動ダンピング 0 ■ 振動ダンピング 1 ■ チューブダンピングの変動 0 ■ チューブダンピングの変動 1 ■ 信号の非対称性 ■ コイル電流 0 ■ コイル電流 1 ■ センサの健全性 ■ なし ■ 積算計 1 ■ 積算計 2 ■ 積算計 3 	-
バーグラフ 0%の値 1	-	バーグラフ 0%の値を入力。	符号付き浮動小数点数	-
バーグラフ 100%の値 1	-	バーグラフ 100%の値を入力。	符号付き浮動小数点数	-
小数点桁数 1	-	表示値の小数点以下の桁数を選択。	<ul style="list-style-type: none"> ■ x ■ x.x ■ x.xx ■ x.xxx ■ x.xxxx 	-
2の値表示	-	ローカルディスプレイに表示する測定値を選択。	候補リスト（第1表示値を参照）	-
小数点桁数 2	-	表示値の小数点以下の桁数を選択。	<ul style="list-style-type: none"> ■ x ■ x.x ■ x.xx ■ x.xxx ■ x.xxxx 	-

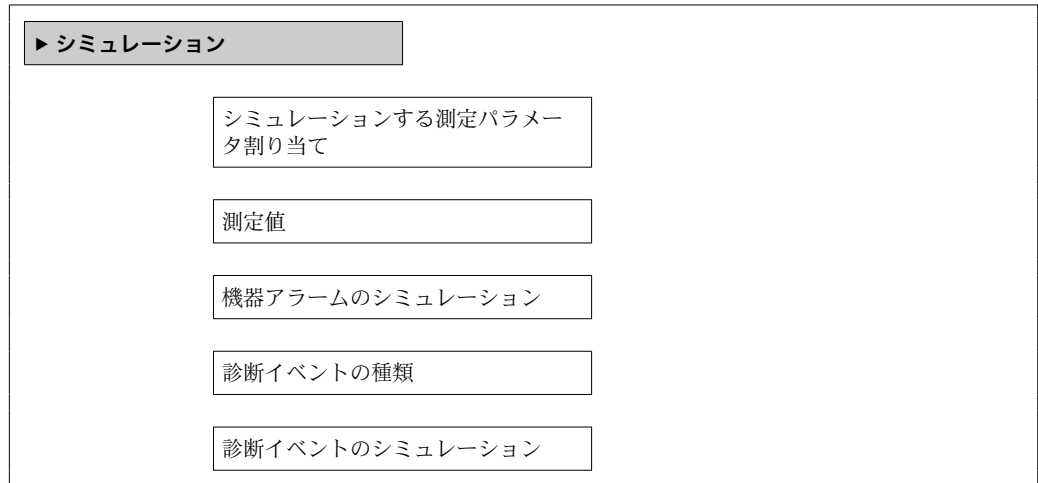
パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力	工場出荷時設定
3 の値表示	-	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。	候補リスト (第 1 表示値を参照)	-
バーグラフ 0% の値 3	3 の値表示 パラメータで 1 つのオプションが選択されていること。	バーグラフ 0% の値を入力。	符号付き浮動小数点数	-
バーグラフ 100% の値 3	3 の値表示 パラメータで 1 つのオプションが選択されていること。	バーグラフ 100% の値を入力。	符号付き浮動小数点数	-
小数点桁数 3	-	表示値の小数点以下の桁数を選択。	<ul style="list-style-type: none"> ■ x ■ x.x ■ x.xx ■ x.xxx ■ x.xxxx 	-
4 の値表示	-	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。	候補リスト (第 1 表示値を参照)	-
小数点桁数 4	-	表示値の小数点以下の桁数を選択。	<ul style="list-style-type: none"> ■ x ■ x.x ■ x.xx ■ x.xxx ■ x.xxxx 	-
Display language	-	表示言語を設定。	<ul style="list-style-type: none"> ■ English ■ Deutsch ■ Français ■ Español ■ Italiano ■ Nederlands ■ Portuguesa ■ Polski ■ русский язык (Russian) ■ Svenska ■ Türkçe ■ 中文 (Chinese) ■ 日本語 (Japanese) ■ 한국어 (Korean) ■ العربية (Arabic) ■ Bahasa Indonesia ■ ภาษาไทย (Thai) ■ tiếng Việt (Vietnamese) ■ čeština (Czech) 	英語 (または、注文した言語が機器にリセットされます)
表示間隔	-	測定値の切り替え表示の時に測定値を表示する時間を設定。	1~10 秒	-
表示のダンピング	-	測定値の変動に対する表示の応答時間を設定。	0.0~999.9 秒	-
ヘッダー	-	ローカル ディスプレイのヘッダーの内容を選択。	<ul style="list-style-type: none"> ■ デバイスのタグ ■ フリーテキスト 	-
ヘッダーテキスト	-	ディスプレイのヘッダーのテキストを入力。	数字、英字、特殊文字からなる文字列 (#12)	-
区切り記号	-	数値表示の桁区切り記号を選択。	<ul style="list-style-type: none"> ■ . ■ , 	-
バックライト	-	ローカル ディスプレイのバックライトのオンとオフを切り替え。  現場表示器 SD03 付き機器 (タッチコントロール) の場合のみ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 無効 ■ 有効 	-

10.6 シミュレーション

「シミュレーション」サブメニューにより、実際の流量がなくても、各種プロセス変数や機器アラームモードをシミュレーションし、下流側の信号接続を確認することが可能です（バルブの切り替えまたは閉制御ループ）。

ナビゲーション

「診断」メニュー → シミュレーション



パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	選択/ユーザー入力
シミュレーションする測定パラメータ割り当て	-	シミュレーションするプロセス変数を選択。  機器バージョンに応じて、このパラメータでは一部使用できないオプションがあります。センサに応じて選択が異なります。たとえば、粘度は Promass I でのみ使用できます。	<ul style="list-style-type: none"> ▪ オフ ▪ 質量流量 ▪ 体積流量 ▪ 基準体積流量 ▪ 密度 ▪ 基準密度 ▪ 温度 ▪ 静粘度 ▪ 動粘度 ▪ 温度補正後の静粘度 ▪ 温度補正後の動粘度 ▪ 濃度 ▪ 固形分質量流量 ▪ 搬送液質量流量
測定値	プロセス変数は シミュレーションする測定パラメータ割り当て パラメータで選択します。	選択したプロセス変数のシミュレーション値を入力。	符号付き浮動小数点数
機器アラームのシミュレーション	-	機器アラームのオン/オフ。	<ul style="list-style-type: none"> ▪ オフ ▪ オン
診断イベントの種類	-	診断イベントのカテゴリを選択します。	<ul style="list-style-type: none"> ▪ センサ ▪ エレクトロニクス ▪ 設定 ▪ プロセス
診断イベントのシミュレーション	-	診断イベントシミュレーションのオン/オフ。 シミュレーション用に、 診断イベントの種類 パラメータで選択したカテゴリの診断イベントを選ぶことが可能です。	<ul style="list-style-type: none"> ▪ オフ ▪ 候補リスト 診断イベント (選択したカテゴリに応じて)

10.7 不正アクセスからの設定の保護

以下のオプションにより、設定後に意図せずに変更されないよう機器設定を保護することが可能です。

- ウェブブラウザのアクセスコードによる書き込み保護 → 63
- 書き込み保護スイッチによる書き込み保護 → 63

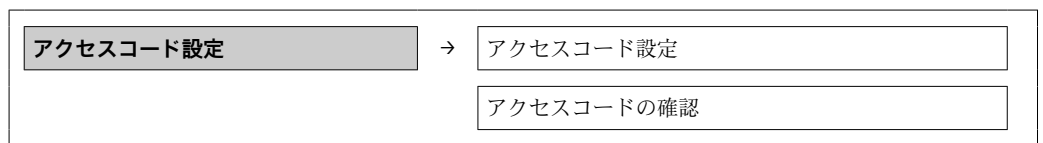
10.7.1 アクセスコードによる書き込み保護

ユーザ固有のアクセスコードにより、ウェブブラウザを介した機器へのアクセスを防止し、機器設定用パラメータを保護します。

ナビゲーション

「設定」メニュー → 高度な設定 → 管理 → アクセスコード設定

サブメニューの構成



ウェブブラウザによるアクセスコードの設定

1. **アクセスコード入力** パラメータに移動します。
 2. アクセスコードとして最大 4 桁の数値コードを設定します。
 3. 再度アクセスコードを入力して、コードを確定します。
 - ↳ ウェブブラウザがログイン画面に切り替わります。
- i** 10 分間何も操作されなかった場合、ウェブブラウザは自動的にログイン画面に戻ります。
- i** 現在、ウェブブラウザを介してログインしているユーザの役割は、**アクセスステータスツール**に表示されます。ナビゲーションパス：操作 → アクセスステータスツール

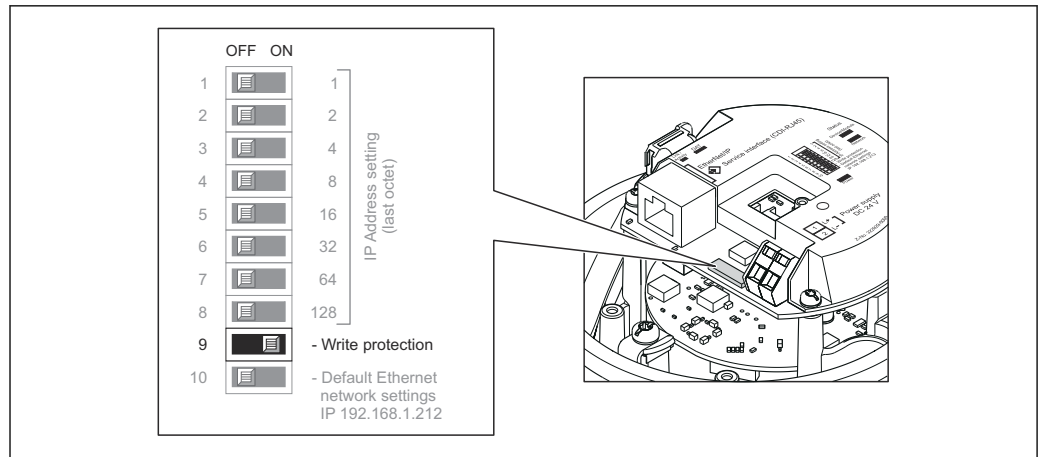
10.7.2 書き込み保護スイッチによる書き込み保護

書き込み保護スイッチを使用すると、以下のパラメータ以外のすべての操作メニューへの書き込みアクセスを防ぐことができます。

- 外部圧力
- 外部温度
- 基準密度
- 積算計のすべての設定用パラメータ

これによりパラメータ値は読み取り専用となり、編集できなくなります。

- サービスインターフェイス (CDI-RJ45) 経由
- Ethernet ネットワーク経由



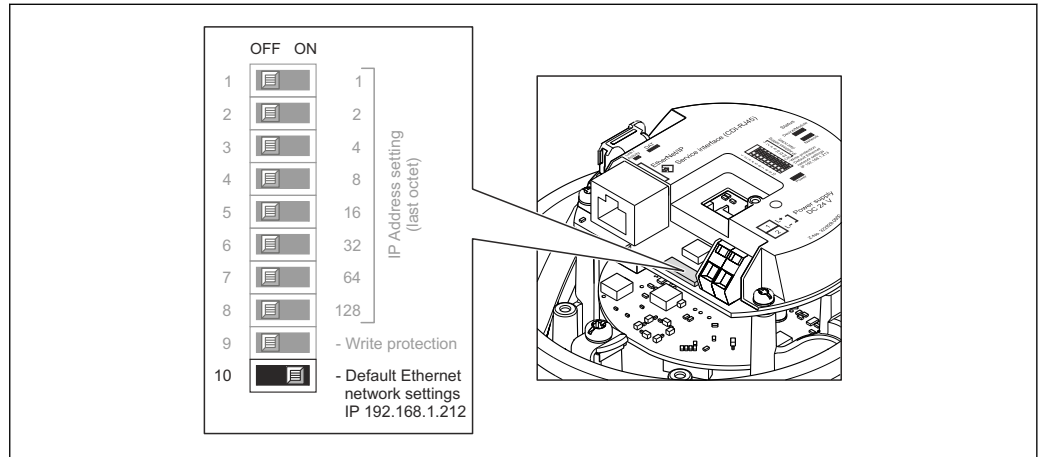
A0017915

- 1.ハウジングの種類に応じて、ハウジングカバーの固定クランプまたは固定ネジを緩めます。
- 2.ハウジングの種類に応じてハウジングカバーを開くか緩めて外し、必要に応じて、現場表示器をメイン電子モジュールから取り外します→ 図 109。
3. I/O 電子モジュールの書き込み保護スイッチを ON 位置に設定すると、ハードウェア書き込み保護が有効になります。I/O 電子モジュールの書き込み保護スイッチを OFF 位置（初期設定）に設定すると、ハードウェア書き込み保護が無効になります。
 - ↳ ハードウェア書き込み保護が有効な場合、**ハードウェアロックオプションがロック状態**パラメータに表示されます→ 図 65。無効な場合、**ロック状態**パラメータにはオプションが表示されません→ 図 65。
4. 変換器を再度取り付ける場合は、取り外しと逆の手順を実施してください。

11 操作

11.1 現在の Ethernet 設定の読み出しと変更

機器の IP アドレスなどの Ethernet 設定が不明な場合は、以下の IP アドレスの例が示すように、読み出して変更することが可能です。



A0017965

必須条件

- ソフトウェアアドレス指定が有効: ハードウェアアドレス指定用のすべての DIP スイッチがオフに設定されていること → 31
- 機器のスイッチがオン

1. 「Ethernet ネットワークデフォルト設定、IP 192.168.1.212」の DIP スイッチをオフ → オンに設定します。
2. 機器を再起動します。
 - ↳ 機器の Ethernet 設定が初期設定にリセットされます。
IP アドレス: 192.168.1.212、サブネットマスク: 255.255.255.0、デフォルトゲートウェイ: 192.168.1.212
3. IP アドレスのデフォルト設定をウェブブラウザのアドレス行に入力します。
4. 操作メニューを使用して **IP アドレス** パラメータに移動します: 「設定」メニュー → 通信 → IP アドレス
 - ↳ パラメータに設定した IP アドレスが表示されます。
5. 必要に応じて、機器の IP アドレスを変更します。
6. 「Ethernet ネットワークデフォルト設定、IP 192.168.1.212」の DIP スイッチをオン → オフに設定します。
7. 機器を再起動します。
 - ↳ これで、変更された機器の IP アドレスが有効になります。

11.2 機器ロック状態の読取り

ロック状態 パラメータを使用して、現在有効な書き込み保護のタイプを確認することができます。

ナビゲーション


「操作」メニュー → ロック状態

「ロック状態」パラメータの機能範囲

選択項目	説明
ハードウェア書き込みロック	I/O 電子モジュールのハードウェア書き込みロック用書き込み保護スイッチ (DIP スイッチ) が有効になっています。これにより、パラメータへの書き込みアクセスを防ぐことができます → 63。
一時ロック	機器の内部処理により (例: データのアップロード/ダウンロード、リセット)、一時的にパラメータへの書き込みアクセスがブロックされます。内部処理が完了すると、再びパラメータを変更することが可能です。

11.3 操作言語の設定

情報 → 49

 機器が対応する操作言語の情報 → 110

11.4 表示部の設定

- 現場表示器の基本設定
- 現場表示器の高度な設定 → 59

11.5 測定値の読み取り

測定値 サブメニューを使用して、すべての測定値を読み取ることが可能です。

診断 → 測定値

11.5.1 プロセス変数

プロセス変数 サブメニューには、各プロセス変数の現在の測定値を表示させるために必要なパラメータがすべて含まれています。

ナビゲーション

「診断」メニュー → 測定値 → プロセス変数

プロセス変数	質量流量
	体積流量
	基準体積流量
	密度
	基準密度
	温度
	補正する圧力値

パラメータ概要（簡単な説明付き）

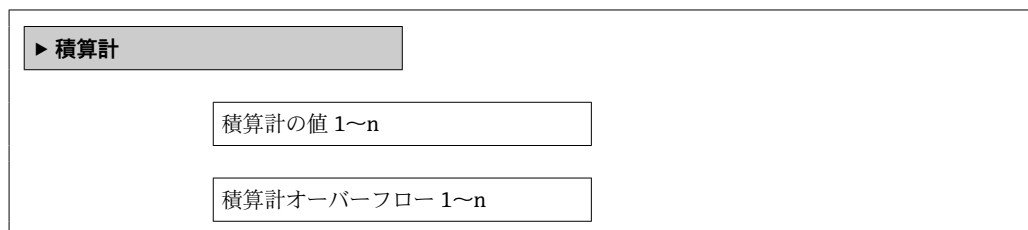
パラメータ	説明	ユーザーインターフェイス	工場出荷時設定
質量流量	現在測定されている質量流量を表示。	符号付き浮動小数点数	-
体積流量	現在計算されている体積流量を表示します。 依存関係 単位は 体積流量単位 パラメータの設定が用いられます。	符号付き浮動小数点数	-
基準体積流量	現在計算されている基準体積流量を表示。 依存関係 単位は 基準体積流量単位 パラメータの設定が用いられます。	符号付き浮動小数点数	-
密度	現在の測定密度を表示します。 依存関係 単位は 密度単位 パラメータの設定が用いられます。	符号付き浮動小数点数	-
基準密度	現在計算されている基準密度を表示します。 依存関係 単位は 基準密度単位 パラメータの設定が用いられます。	符号付き浮動小数点数	-
温度	現在測定している流体の温度。 依存関係 単位は 温度の単位 パラメータの設定が用いられます。	符号付き浮動小数点数	
補正する圧力値	固定または外部の圧力値を表示。	符号付き浮動小数点数	

11.5.2 積算計

「積算計」サブメニューには、各積算計の現在の測定値を表示させるために必要なパラメータがすべて含まれています。

ナビゲーション

「診断」メニュー → 測定値 → 積算計



パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	ユーザーインターフェイス
積算計の値 1~n	積算計 1~n サブメニューの プロセス変数の割り当て パラメータで、以下の選択項目のいずれかが選択されていること。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 体積流量 ■ 質量流量 ■ 基準体積流量 	現在の積算計カウンタ値を表示。	符号付き浮動小数点数
積算計オーバーフロー 1~n	積算計 1~n サブメニューの プロセス変数の割り当て パラメータで、以下の選択項目のいずれかが選択されていること。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 体積流量 ■ 質量流量 ■ 基準体積流量 	現在の積算計オーバーフローを表示。	符号の付いた整数

11.5.3 出力値

「出力値」サブメニューには、各出力の現在の測定値を表示させるために必要なパラメータがすべて含まれています。

ナビゲーション

「診断」メニュー → 測定値 → 出力値

▶ 出力値

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザーインターフェイス
パルス出力	パルス出力の現在測定されている値を表示。	正の浮動小数点数
出力周波数	周波数出力の現在測定されている値を表示。	0.0~1250.0 Hz
ステータス切り替え	現在のスイッチ出力ステータスを表示。	<ul style="list-style-type: none"> ■ オープン ■ クローズ

11.6 プロセス条件への機器の適合

プロセス条件に適合させるために、以下の機能があります。

- 基本設定を行う：設定メニュー → 49
- 高度な設定を行う：高度な設定サブメニュー → 56

11.7 積算計リセットの実行

「積算計のコントロール」パラメータの機能範囲

オプション	説明
積算開始	積算計が開始されます。
リセット+ホールド	積算処理が停止し、積算計が0にリセットされます。
プリセット+ホールド	積算処理が停止し、積算計が プリセット値 パラメータから定義された開始値に設定されます。
リセット+積算開始	積算計が0にリセットされ、積算処理が再開します。
プリセット+積算開始	積算計が プリセット値 パラメータで定義した開始値に設定され、積算処理が再開します。

「すべての積算計をリセット」パラメータの機能範囲

オプション	説明
リセット+積算開始	すべての積算計を0にリセットし、積算処理を再開します。それ以前に積算した流量値は消去されます。

ナビゲーション

「操作」メニュー → 操作

<p>▶ 積算計の処理</p> <p>積算計 1~n のコントロール</p> <p>プリセット値 1~n</p> <p>すべての積算計をリセット</p>
--

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	選択/ユーザー入力
積算計 1~n のコントロール	積算計の値をコントロール。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 積算開始 ■ リセット+ホールド ■ プリセット+ホールド ■ リセット+積算開始 ■ プリセット+積算開始
プリセット値 1~n	積算計の開始値を指定。	符号付き浮動小数点数
すべての積算計をリセット	すべての積算計を0にリセットして積算の開始。	<ul style="list-style-type: none"> ■ キャンセル ■ リセット+積算開始

12 診断およびトラブルシューティング

12.1 一般トラブルシューティング

現場表示器用


問題	可能性のある原因	対処法
現場表示器が暗く、出力信号がない	電源電圧が銘板に明記された電圧と異なる	正しい電源電圧を印加する → 図 29。
現場表示器が暗く、出力信号がない	電源電圧の極性が正しくない	電源電圧の極性を逆にする。
現場表示器が暗く、出力信号がない	接続ケーブルと端子の接続が確立されない	ケーブルの接続を確認し、必要に応じて修正する。
現場表示器が暗く、出力信号がない	端子が I/O 電子モジュールに正しく差し込まれていない	端子を確認する。
現場表示器が暗く、出力信号がない	I/O 電子モジュールの故障	スペアパーツを注文する → 図 89。
現場表示器が暗いが、信号出力は有効な範囲内にある	表示部の設定が明るすぎる/暗すぎる	<ul style="list-style-type: none"> ■ 田 + 田 を同時に押して表示部を明るくする。 ■ 田 + 田 を同時に押して表示部を暗くする。
現場表示器が暗いが、信号出力は有効な範囲内にある	表示モジュールのケーブルが正しく差し込まれていない	メイン電子モジュールおよび表示モジュールにプラグを正しく挿入する。
現場表示器が暗いが、信号出力は有効な範囲内にある	表示モジュールの故障	スペアパーツを注文する → 図 89。
現場表示器のバックライトが赤い	診断動作が「アラーム」の診断イベントが発生している	対処策を講じる → 図 79。
現場表示器のメッセージ： 「通信エラー」 「電子モジュールの確認」	表示モジュールと電子モジュール間の通信が中断された	<ul style="list-style-type: none"> ■ メイン電子モジュールと表示モジュール間のケーブルとコネクタを確認する。 ■ スペアパーツを注文する → 図 89。

出力信号用

問題	可能性のある原因	対処法
変換器のメイン電子モジュールの緑色の電源 LED が暗い	電源電圧が銘板に明記された電圧と異なる	正しい電源電圧を印加する → 図 29。
機器測定が正しくない	設定エラーまたは機器が用途範囲外で使用されている	<ol style="list-style-type: none"> 1. 正しいパラメータ設定を確認する。 2. 「技術データ」に明記されたりミット値に従う。

アクセス用

問題	可能性のある原因	対処法
パラメータへの書き込みアクセス権がない	ハードウェア書き込み保護が有効	メイン電子モジュールの書き込み保護スイッチを OFF 位置に設定する → 図 63。
EtherNet/IP 経由の通信が確立されない	機器プラグの接続が正しくない	機器プラグのピンの割当を確認する。

問題	可能性のある原因	対処法
ウェブサーバと接続できない	<ul style="list-style-type: none"> ■ IP アドレスが正しくない ■ IP アドレスが不明 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ハードウェア経由のアドレス指定の場合：変換器を開けて IP アドレス設定を確認する（最後のオクテット）。 2. ネットワークマネージャを使用して機器の IP アドレスを確認する。 3. IP アドレスが不明な場合は、I/O 電子モジュールの DIP スイッチ No. 10 をオンにして機器を再起動し、IP アドレスの初期設定を入力します（192.168.1.212）。 <p> DIP スイッチを有効にすると、EtherNet/IP 通信は遮断されます。</p>
ウェブサーバと接続できない	コンピュータの Ethernet インターフェイスの設定が正しくない	<ol style="list-style-type: none"> 1. インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティを確認する → 37。 2. IT マネージャを使用してネットワーク設定を確認する。
ウェブサーバと接続できない	ウェブサーバが無効	「FieldCare」操作ツールを使用して機器のウェブサーバが有効か確認し、必要に応じて有効にする → 39。
ウェブサーバと接続できない	コンピュータのウェブブラウザ設定でプロキシサーバーの使用が無効になっていない	<p>コンピュータのウェブブラウザ設定でプロキシサーバーの使用を無効にする。</p> <p>MS Internet Explorer の例：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「コントロールパネル」にある「インターネットオプション」を開く。 2. 「接続」タブを選択して、「LAN 設定」をダブルクリックする。 3. 「LAN 設定」でプロキシサーバーの使用を無効にし、「OK」を選択して確定する。
ウェブサーバと接続できない	コンピュータ上で別のネットワーク接続またはプログラムがアクティブになっている	<ul style="list-style-type: none"> ■ コンピュータで別のネットワーク接続が確立されていないか確認し (WLAN も不可)、コンピュータへのネットワークアクセスを伴う他のプログラムも閉じる。 ■ ノートパソコン用のドッキングステーションを使用する場合は、別のネットワークへのネットワーク接続がアクティブになっていないか確認する。
ウェブブラウザの内容が不完全、または、表示されない	<ul style="list-style-type: none"> ■ JavaScript が有効になっていない ■ JavaScript を有効にできない 	<ol style="list-style-type: none"> 1. JavaScript を有効にする。 2. IP アドレスとして http://XXX.XXX.X.XXX/basic.html を入力する。
ウェブブラウザがフリーズし、操作できない	データ転送が作動中	データ転送または現在の動作が完了するまで待ってください。
ウェブブラウザがフリーズし、操作できない	接続が失われた	<ol style="list-style-type: none"> 1. ケーブル接続と電源を確認する。 2. ウェブブラウザを再読み込みし、必要に応じて再起動する。

問題	可能性のある原因	対処法
ウェブブラウザの内容が不完全、または読めない	ウェブブラウザの最適なバージョンが使用されていない	1. 適切なウェブブラウザのバージョンを使用する → 図 36。 2. ウェブブラウザのキャッシュを消去し、ウェブブラウザを再起動する。
ウェブブラウザの内容が不完全、または読めない	不適切な表示設定	ウェブブラウザのフォントサイズ/表示比率を変更する。

12.2 発光ダイオードによる診断情報

12.2.1 変換器

変換器のメイン電子モジュールにある各種の発光ダイオード (LED) が機器ステータス情報を示します。

LED	色	意味
電源	オフ	電源オフまたは供給電圧不足
	緑色	電源 OK
機器ステータス	緑色	機器ステータス OK
	赤色点滅	診断動作「警告」の機器エラーが発生
	赤色	診断動作「アラーム」の機器エラーが発生
	赤色/緑色が交互に点滅	ブートローダーが起動
ネットワークステータス	オフ	機器に EtherNet/IP アドレスがない
	緑色	機器の EtherNet/IP 接続がアクティブ
	緑色点滅	機器に EtherNet/IP アドレスがあるが、EtherNet/IP 接続が確立されていない
	赤色	機器の EtherNet/IP アドレスが 2 回割り当てられている
	赤色点滅	機器の EtherNet/IP 接続がタイムアウトモード
リンク/アクティビティ	オレンジ色	リンクはあるがアクティビティがない
	オレンジ色点滅	アクティビティあり
通信	白色点滅	

12.3 現場表示器の診断情報

12.3.1 診断メッセージ

機器の自己診断システムで検出されたエラーが、操作画面表示と交互に診断メッセージとして表示されます。

アラーム状態の操作画面表示	診断メッセージ
A0013939-JA	
<ol style="list-style-type: none"> 1 ステータス信号 2 診断時の動作 3 診断動作と診断コード 4 ショートテキスト 5 操作部 	

2 つまたはそれ以上の診断イベントが同時に発生している場合は、最優先に処理する必要のある診断イベントのメッセージのみが表示されます。

- i** 発生した他の診断イベントを、**診断メニュー**に呼び出すことが可能です。
 - パラメータを使用 → 82
 - サブメニューを使用 → 82



ステータス信号

ステータス信号は、診断情報（診断イベント）の原因を分類することにより、機器の状態および信頼性に関する情報を提供します。

- i** ステータス信号は VDI/VDE 2650 および NAMUR 推奨基準 NE 107 に準拠して分類されます。F = 故障、C = 機能チェック、S = 仕様範囲外、M = メンテナンスが必要

シンボル	意味
F <small>A0013956</small>	エラー 機器エラーが発生。測定値は無効。
C <small>A0013959</small>	機能チェック 機器はサービスモード（例：シミュレーション中）
S <small>A0013958</small>	仕様範囲外 機器は作動中： 技術仕様の範囲外（例：許容プロセス温度の範囲外）
M <small>A0013957</small>	メンテナンスが必要 メンテナンスが必要。測定値は依然として有効。

診断動作



シンボル	意味
 A0013961	アラーム <ul style="list-style-type: none"> 測定が中断します。 信号出力と積算計が設定されたアラーム状態になります。 診断メッセージが生成されます。
 A0013962	警告 測定が再開します。信号出力と積算計は影響を受けません。診断メッセージが生成されます。

診断情報

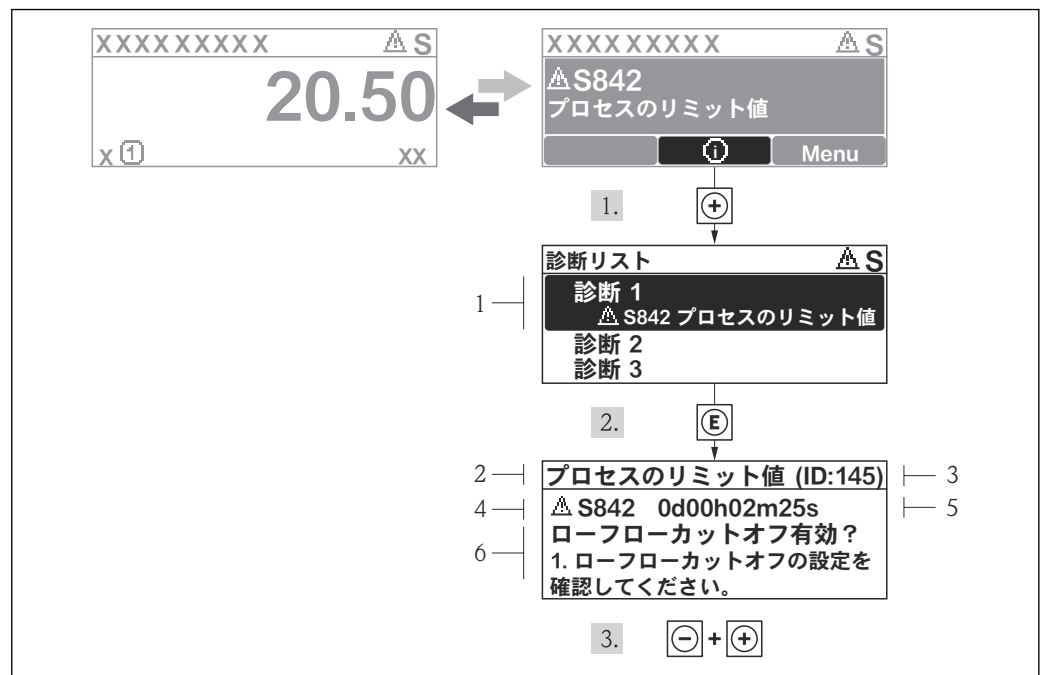
診断情報を使用してエラーを特定することが可能です。ショートテキストにより、エラーに関する情報が提供されます。



操作部

キー	意味
 A0013970	+ キー メニュー、サブメニュー内 対処法に関するメッセージを開きます。
 A0013952	Enter キー メニュー、サブメニュー内 操作メニューを開きます。

12.3.2 対処法の呼び出し



A0013940-JA

図 15 対処法のメッセージ

- 1 診断情報
- 2 ショートテキスト
- 3 サービス ID
- 4 診断動作と診断コード
- 5 イベントの発生時間
- 6 対処法

診断メッセージを表示します。

1. **Ⓜ** を押します (Ⓜ シンボル)。
 - ↳ **診断リスト**サブメニューが開きます。
2. **Ⓜ** または **Ⓜ** を使用して必要な診断イベントを選択し、**Ⓜ** を押します。
 - ↳ 選択した診断イベントの対処法に関するメッセージが開きます。
3. **Ⓜ** + **Ⓜ** を同時に押します。
 - ↳ 対処法に関するメッセージが閉じます。

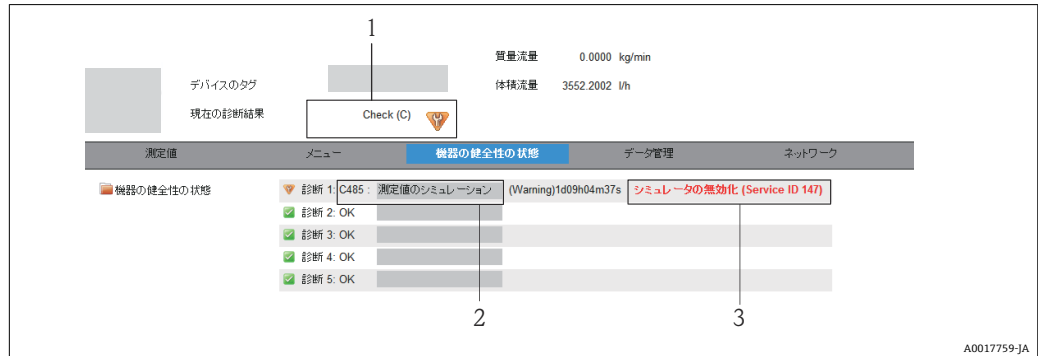
診断メニューの診断イベントの項目 (例: **診断リスト**サブメニューまたは**前回の診断結果**) を表示します。

1. **Ⓜ** を押します。
 - ↳ 選択した診断イベントの対処法に関するメッセージが開きます。
2. **Ⓜ** + **Ⓜ** を同時に押します。
 - ↳ 対処法に関するメッセージが閉じます。

12.4 ウェブブラウザの診断情報

12.4.1 診断オプション

機器が検知したエラーは、ユーザーがログインするとウェブブラウザのホームページに表示されます。







- 1 ステータスエリアとステータス信号
- 2 診断情報
- 3 対処法とサービス ID

- i** また、発生した診断イベントは、**診断メニュー**に表示されます。
- パラメータを使用 → 82
 - サブメニューを使用 → 82

ステータス信号

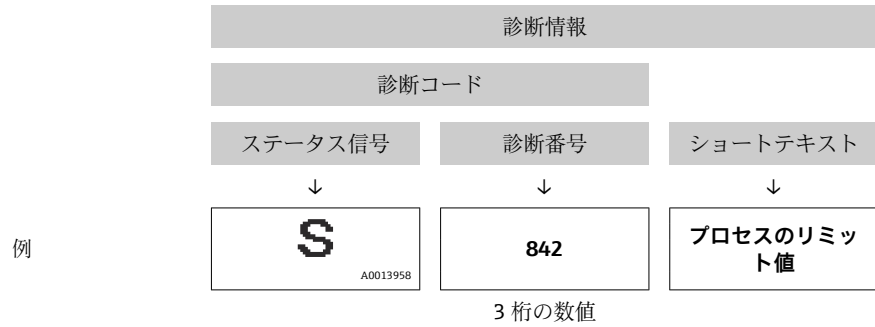
ステータス信号は、診断情報（診断イベント）の原因を分類することにより、機器の状態および信頼性に関する情報を提供します。

シンボル	意味
 A0017271	エラー 機器エラーが発生。測定値は無効。
 A0017278	機能確認 機器はサービスモード（例：シミュレーション中）
 A0017277	仕様範囲外 機器は作動中： 技術仕様の範囲外（例：プロセス温度レンジの範囲外）
 A0017276	メンテナンスが必要 メンテナンスが必要。測定値は依然として有効。

- i** ステータス信号は VDI/VDE 2650 および NAMUR 推奨基準 NE 107 に準拠して分類されます。

診断情報

診断情報を使用してエラーを特定することが可能です。ショートテキストにより、エラーに関する情報が提供されます。



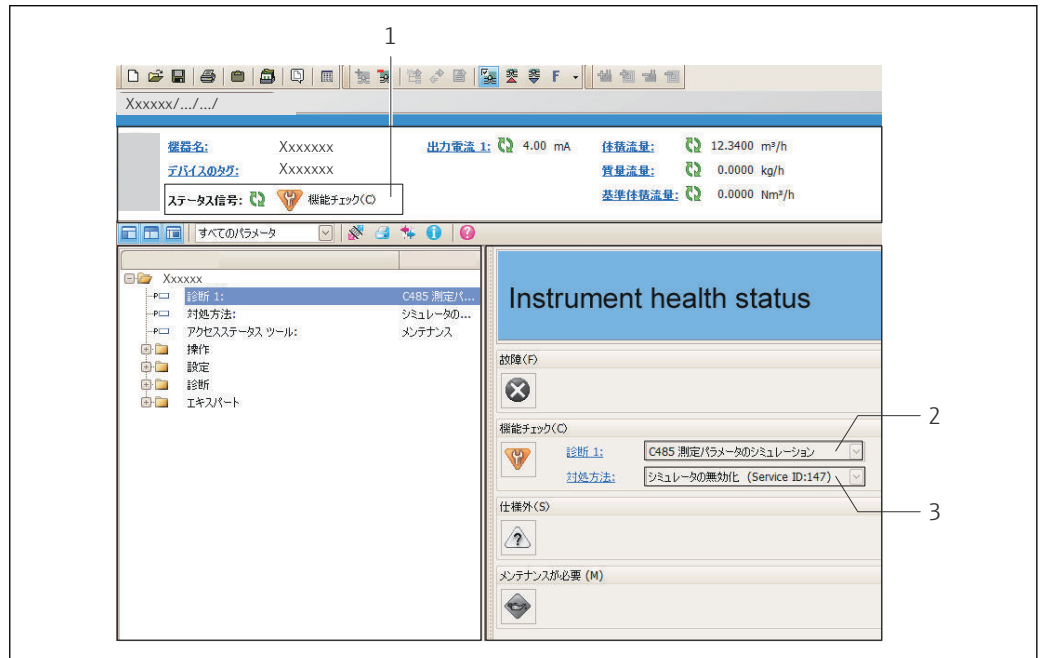
12.4.2 対策情報の呼び出し

問題を迅速に是正できるよう、各診断イベントに対して対策情報が提供されます。これらの対策は、診断イベントおよび関連する診断情報とともに赤で表示されます。

12.5 FieldCare の診断情報

12.5.1 診断オプション

機器が検知したエラーは、接続が確立されると操作ツールのホームページに表示されます。

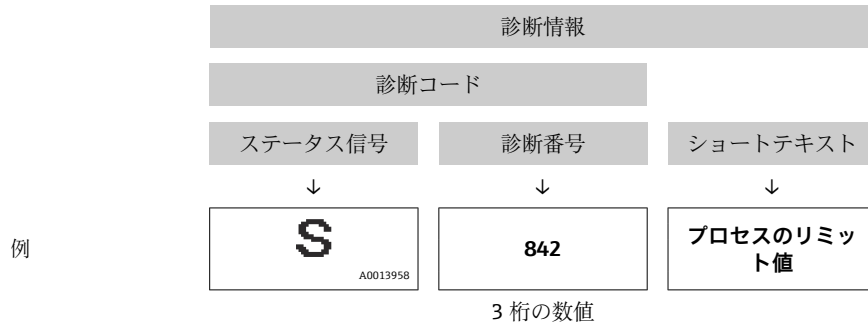


- 1 ステータスエリアとステータス信号 → 73
- 2 診断情報 → 74
- 3 対処法とサービス ID

- i** また、発生した診断イベントは、**診断**メニューに表示されます。
 - パラメータを使用 → 82
 - サブメニューを使用 → 82

診断情報

診断情報を使用してエラーを特定することが可能です。ショートテキストにより、エラーに関する情報が提供されます。



12.5.2 対策情報の呼び出し

問題を迅速に是正できるよう、各診断イベントに対して対策情報が提供されます。

- ホームページ上
対策情報は、診断情報の下の別個フィールドに表示されます。
- 診断メニュー内
対策情報はユーザーインターフェイスの作業エリアに呼び出すことが可能です。

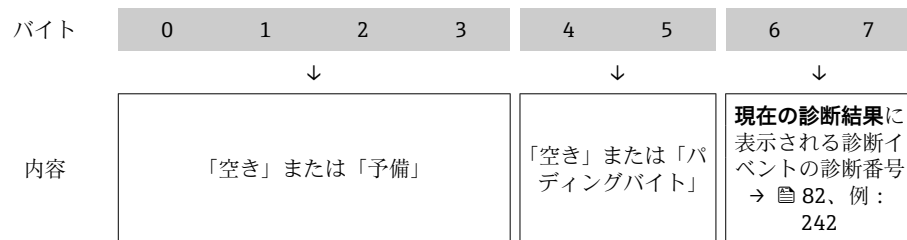
診断メニュー内で

1. 必要なパラメータを呼び出します。
2. 作業エリアの右側で、パラメータの上にマウスポインタを移動させます。
↳ 診断イベントに対する対策情報のヒントが表示されます。

12.6 通信インターフェイスを介した診断情報

12.6.1 診断情報の読み出し

現在の診断イベントと関連する診断情報を、入力アセンブリ（固定アセンブリ）を介して読み出すことが可能です。



バイトの内容用 8~16

12.7 診断情報の適合

12.7.1 診断動作の適合


診断情報の各項目には、工場出荷時に特定の診断動作が割り当てられています。特定の診断情報については、ユーザがこの割り当てを**診断 j 時の動作** サブメニューで変更できます。



エキスパート → システム → 診断イベントの処理 → 診断 j 時の動作

診断番号に診断動作として次の選択項目を割り当てることが可能です。

選択項目	説明
アラーム	測定が中断します。積算計が設定されたアラーム状態になります。診断メッセージが生成されます。
警告	測定が再開します。積算計は影響を受けません。診断メッセージが生成されます。
ログブック入力のみ	機器は測定を継続します。診断メッセージはイベントログブック（イベントリスト）サブメニューに入力されるだけで、測定値表示と交互に表示されることはありません。
オフ	診断イベントは無視され、診断メッセージの生成または入力が行われません。

12.8 診断情報の概要

 機器に 1 つ以上のアプリケーションパッケージがある場合は、診断情報および関係する測定変数の数は増加します。

 診断情報の一部の項目では、ステータス信号と診断動作を変更することが可能です。診断情報の適合 →  79

診断番号	ショートテキスト	修理	ステータス信号 [工場出荷時]	診断動作 [工場出荷時]
センサの診断				
022	センサ温度	1. メイン電子モジュールを交換して下さい。 2. センサを交換して下さい。	F	Alarm
046	センサの規定値を越えています	1. センサを調査してください。 2. プロセスの状態をチェックしてください。	S	Alarm
062	センサ接続	1. メイン電子モジュールを交換して下さい。 2. センサを交換して下さい。	F	Alarm
082	データストレージ	1. モジュールの接続をチェック 2. 弊社サービスへ連絡	F	Alarm
083	電子メモリ内容	1. 機器を再起動して下さい。 2. 弊社サービスへ連絡して下さい。	F	Alarm
140	センサ信号	1. メイン電子モジュールをチェックまたは交換して下さい。 2. センサを交換して下さい。	S	Alarm
144	過大な計測エラー	1. センサをチェックするか交換してください。 2. プロセス状態を確認してください。	F	Alarm
190	Special event 1	Contact service	F	Alarm
191	Special event 5	Contact service	F	Alarm
192	Special event 9	Contact service	F	Alarm ¹⁾

診断番号	ショートテキスト	修理	ステータス信号 [工場出荷時]	診断動作 [工場出荷時]
電子部の診断				
201	機器の故障	1. 機器を再起動して下さい。 2. 弊社サービスへ連絡して下さい。	F	Alarm
242	ソフトウェアの互換性なし	1. ソフトウェアをチェックして下さい。 2. メイン電子モジュールのフラッシュまたは交換をして下さい。	F	Alarm
252	モジュールの互換性なし	1. 電子モジュールをチェック 2. 電子モジュールの交換	F	Alarm
262	モジュール接続	1. モジュールの接続をチェック 2. メイン基板の交換	F	Alarm
270	メイン電子モジュール故障	メイン電子モジュールの変更	F	Alarm
271	メイン電子モジュール故障	1. 機器を再起動して下さい。 2. メイン電子モジュールを交換して下さい。	F	Alarm
272	メイン電子モジュール故障	1. 機器を再起動して下さい。 2. 弊社サービスへ連絡して下さい。	F	Alarm
273	メイン電子モジュール故障	電子基板を交換	F	Alarm
274	メイン電子モジュール故障	電子基板を交換	S	Warning
283	電子メモリ内容	1. 機器をリセット 2. 弊社サービスへ連絡	F	Alarm
311	電子モジュール故障	1. 機器をリセット 2. 弊社サービスへ連絡	F	Alarm
311	電子モジュール故障	1. 機器をリセットしないでください 2. 弊社サービスへ連絡	M	Warning
382	データストレージ	1. DAT モジュールを挿入 2. DAT モジュールの交換	F	Alarm
383	電子メモリ内容	1. 機器の再起動 2. DAT モジュールをチェックまたは交換 3. 弊社サービスへ連絡	F	Alarm
390	Special event 2	Contact service	F	Alarm
391	Special event 6	Contact service	F	Alarm
392	Special event 10	Contact service	F	Alarm ¹⁾
設定の診断				
410	データ転送	1. 接続をチェックして下さい。 2. データ転送を再実行して下さい。	F	Alarm
411	アップロード/ダウンロードアクティブ	アップロード/ダウンロードがアクティブです。 おまちください。	C	Warning
437	設定の互換性なし	1. 機器を再起動して下さい。 2. 弊社サービスへ連絡して下さい。	F	Alarm
438	データセット	1. データセットファイルのチェック 2. 機器設定のチェック 3. 新規設定のアップロード/ダウンロード	M	Warning
453	流量の強制ゼロ出力	流量オーバーライドの無効化	C	Warning
484	シミュレーションエラーモード	シミュレータの無効化	C	Alarm
485	測定パラメータのシミュレーション	シミュレータの無効化	C	Warning

診断番号	ショートテキスト	修理	ステータス信号 [工場出荷時]	診断動作 [工場出荷時]
495	診断イベントのシミュレーション	シミュレータの無効化	C	Warning
537	設定	1. IP アドレスの確認 2. IP アドレスの変更	F	Warning
590	Special event 3	Contact service	F	Alarm
591	Special event 7	Contact service	F	Alarm
592	Special event 11	Contact service	F	Alarm ¹⁾
プロセスの診断				
825	稼働温度	1. 周囲温度をチェックして下さい。 2. プロセス温度をチェックして下さい。	S	Warning
825	稼働温度		F	Alarm
830	センサ温度が高すぎます	センサハウジングの周囲温度を下げてください。	S	Warning
831	センサ温度が低すぎます	センサハウジングの周囲温度を上げて下さい。	S	Warning
832	基板温度が高すぎます	周囲温度を下げてください。	S	Warning ¹⁾
833	基板温度が低すぎます	周囲温度を上げて下さい。	S	Warning ¹⁾
834	プロセス温度が高すぎます	プロセス温度を下げてください。	S	Warning ¹⁾
835	プロセス温度が低すぎます	プロセス温度を上げてください。	S	Warning ¹⁾
842	プロセスのリミット値	ローフローカットオフ有効! 1. ローフローカットオフの設定を確認してください。	S	Warning
843	プロセスのリミット値	プロセスの状態を確認	S	Warning
862	計測チューブが非満管	1. プロセス中の気泡を確認してください。 2. 検出限界を調整してください。	S	Warning
882	入力信号	1. 入力設定をチェック 2. 圧力センサまたはプロセス状態をチェック	F	Alarm
910	計測チューブ振動しない	1. 電子部のチェック 2. センサの検査	F	Alarm
912	流体が不均一	1. プロセスの状態をチェックして下さい。 2. プロセス圧力を上げてください。	S	Warning
912	流体が不均一		S	Warning
913	流体が適していない	1. プロセスの状態を確認 2. 電子モジュールまたはセンサの確認	S	Alarm
944	モニタリングのフェール	ハートビートモニタリングのプロセス状態のチェック	S	Warning
948	チューブダンピングが大きすぎます	プロセスの状態をチェックして下さい。	S	Warning
990	Special event 4	Contact service	F	Alarm
991	Special event 8	Contact service	F	Alarm
992	Special event 12	Contact service	F	Alarm ¹⁾

1) 診断動作を変更できます。

12.9 未処理の診断イベント

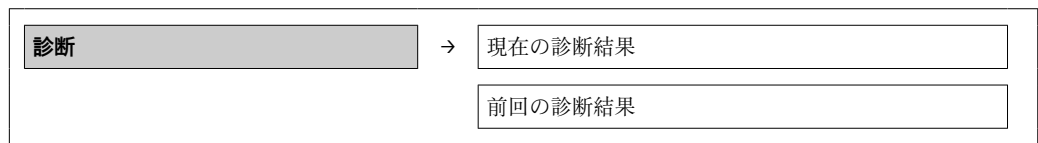
診断 メニューを使用すると、現在の診断イベントおよび前回の診断イベントを個別に表示させることが可能です。

- i** 診断イベントの是正策を呼び出す方法：
 - ウェブブラウザを経由：→ 図 77
 - 「FieldCare」操作ツールを経由 → 図 78

- i** その他の未処理の診断イベントは次に表示されます：**診断リスト** サブメニュー → 図 82

ナビゲーション
「診断」メニュー

サブメニューの構成



パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	必須条件	説明	ユーザーインターフェイス	工場出荷時設定
現在の診断結果	1つの診断イベントが発生していること。	現在の診断イベントが診断情報とともに表示されます。 i 2つあるいはそれ以上のメッセージが同時に発生した場合は、最優先に処理する必要のあるメッセージが表示されます。	診断動作のシンボル、診断コード、ショートメッセージ	-
前回の診断結果	すでに2つの診断イベントが発生	現在の診断イベントの前に発生した診断イベントが診断情報とともに表示されます。	診断動作のシンボル、診断コード、ショートメッセージ	-

12.10 診断リスト

診断リストサブメニューには、関連する診断情報とともに現在未処理の診断イベントが最大5件表示されます。5件以上の診断イベントが未処理の場合は、最優先に処理する必要のあるイベントが表示部に示されます。

ナビゲーションパス

診断 メニュー → **診断リスト** サブメニュー

- i** 診断イベントの是正策を呼び出す方法：
 - ウェブブラウザを経由：→ 図 77
 - 「FieldCare」操作ツールを経由 → 図 78

12.11 イベントログブック

12.11.1 イベント履歴


イベントリストサブメニューでは、発生したイベントメッセージの一覧を時系列に表示できます。

ナビゲーションパス




「診断」メニュー → イベントログブック → イベントリスト


最大 20 件のイベントメッセージを時系列に表示できます。



イベント履歴には、次の入力項目が含まれます。



- 診断イベント →  79
- 情報イベント →  83

各イベントの発生時間に加えて、そのイベントの発生または終了を示すシンボルが割り当てられます。

- 診断イベント
 -  : イベント発生
 -  : イベント終了
- 情報イベント
 -  : イベント発生

 診断イベントの是正策を呼び出す方法：

- ウェブブラウザを経由：→  77
- 「FieldCare」操作ツールを経由 →  78

 表示されたイベントメッセージをフィルタリングする場合は、次を参照してください →  83。

12.11.2 イベントログブックのフィルタリング

フィルタオプションを使用して、イベントリストサブメニューに表示させるイベントメッセージのカテゴリを設定できます。

ナビゲーションパス

「診断」メニュー → イベントログブック → フィルタオプション

フィルタカテゴリ

- すべて
- 故障 (F)
- 機能チェック (C)
- 仕様範囲外 (S)
- メンテナンスが必要 (M)
- 情報 (I)

12.11.3 情報イベントの概要

診断イベントとは異なり、情報イベントは診断リストには表示されず、イベントログブックにのみ表示されます。

情報番号	情報名
I1000	----- (装置 OK)
I1089	電源オン
I1090	設定のリセット
I1091	設定変更済
I1110	書き込み保護スイッチ変更
I1111	密度調整エラー
I1137	電子部が交換されました
I1151	履歴のリセット
I1155	電子部内温度のリセット
I1157	メモリエラー イベントリスト
I1185	表示バックアップ完了
I1186	表示ディスプレイでの復元

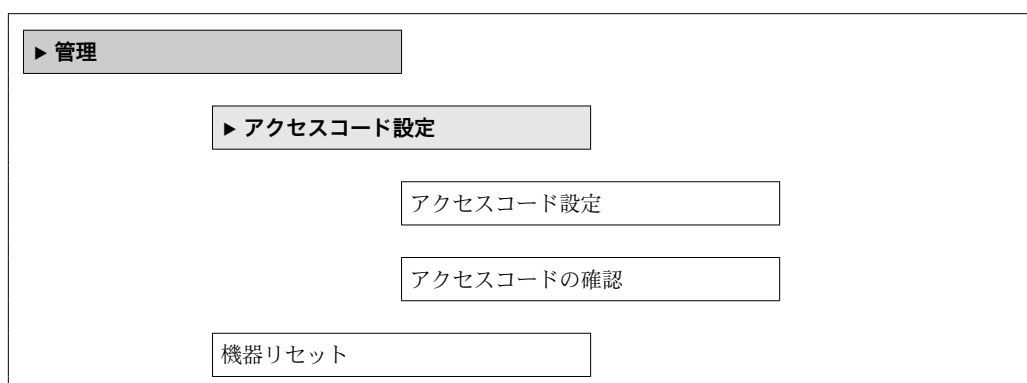
情報番号	情報名
I1187	表示ディスプレイでダウンロードされた設定
I1188	表示データクリア済
I1189	バックアップ比較完了
I1209	密度調整 OK
I1221	ゼロ点調整エラー
I1222	ゼロ点調整 OK
I1256	表示: アクセスステータス変更
I1264	安全機能が中断されました
I1335	ファームウェアの変更
I1361	間違った Web サーバへのログイン
I1397	フィールドパス: アクセスステータス変更
I1398	CDI: アクセスステータス変更
I1444	機器の検証パス
I1445	機器の検証のフェール
I1446	機器の検証がアクティブ
I1447	基準データとして記録する
I1448	アプリケーションの基準データを記録する
I1449	アプリケーションの基準データの記録失敗
I1450	モニタリング オフ
I1451	モニタリング オン
I1457	フェール: 測定エラー検証
I1459	フェール: I/O モジュールの検証
I1460	フェール: センサの健全性の検証
I1461	フェール: センサの検証
I1462	フェール: センサの電子機器モジュールの検証

12.12 機器のリセット

機器リセット パラメータを使用すると、機器設定全体または設定の一部を決められた状態にリセットできます。

ナビゲーション

「設定」メニュー → 高度な設定 → 管理 → 機器リセット



パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	選択
機器リセット	機器を手動で再起動またはリセットします。	<ul style="list-style-type: none"> ■ キャンセル ■ 納入時の状態に ■ 機器の再起動

12.12.1 「機器リセット」パラメータの機能範囲

選択項目	説明
キャンセル	何も実行せずにこのパラメータを終了します。
納入時の状態に	ユーザ固有の初期設定で注文されたすべてのパラメータをユーザ固有の値にリセットします。その他のパラメータはすべて、工場出荷時の設定にリセットされます。
機器の再起動	再起動により、揮発性メモリ（RAM）に保存されているすべてのパラメータを工場出荷時の設定にリセットします（例：測定値データ）。機器設定に変更はありません。
履歴のリセット	すべてのパラメータを工場出荷時の設定にリセットします。

12.13 機器情報

機器情報 サブメニューには、機器の識別に必要な各種情報を表示するパラメータがすべて含まれています。

ナビゲーション

「診断」メニュー → 機器情報

▶ 機器情報

デバイスのタグ

シリアル番号

ファームウェアのバージョン

機器名

オーダーコード

拡張オーダーコード 1

拡張オーダーコード 2

拡張オーダーコード 3

ENP バージョン

IP アドレス




Subnet mask
Default gateway

パラメータ概要（簡単な説明付き）

パラメータ	説明	ユーザーインターフェイス/ ユーザー入力	工場出荷時設定
デバイスのタグ	機器のタグを入力。	最大 32 文字（英字、数字、または特殊文字（例：@, %, /）など）	-
シリアル番号	機器のシリアル番号を表示。	最大 11 文字の英字および数字	-
ファームウェアのバージョン	インストールされている機器のファームウェアバージョンを表示。	次の形式の文字列： xx.yy.zz	-
機器名	変換器の名称を表示。	英字、数字、特定の句読点から成る文字列	-
オーダーコード	機器のオーダーコードを表示。	英字、数字、特定の句読点から成る文字列	-
拡張オーダーコード 1	拡張オーダーコードの第 1 部分を表示します。	文字列	-
拡張オーダーコード 2	拡張オーダーコードの第 2 部分を表示します。	文字列	-
拡張オーダーコード 3	拡張オーダーコードの第 3 部分を表示します。	文字列	-
ENP バージョン	電子銘板のバージョンを表示します。	形式 xx.yy.zz の文字列	-
IP アドレス	機器のウェブサーバ IP アドレスを表示。	4 オクテット：0～255（特定のオクテットにおいて）	-
Subnet mask	サブネットマスクを表示。	4 オクテット：0～255（特定のオクテットにおいて）	-
Default gateway	デフォルトゲートウェイを表示。	4 オクテット：0～255（特定のオクテットにおいて）	-

12.14 ファームウェアの履歴

リリース日付	ファームウェアのバージョン	「ファームウェアのバージョン」のオーダーコード	ファームウェア変更	資料の種類	資料
2012年6月	01.00.00	オプション77	オリジナルファームウェア	取扱説明書	BA01066D/06/EN/01.12
2013年4月	01.01.zz	オプション73	<ul style="list-style-type: none"> ■ フィールドバスアクセスレベルをサービスからメンテナンスに変更 ■ 計算の改善： <ul style="list-style-type: none"> ■ 固形分質量流量 ■ 搬送液質量流量 ■ アプリケーションパッケージへのアクセス（オプション）： <ul style="list-style-type: none"> ■ Heartbeat Technology ■ 濃度 ■ 粘度 	取扱説明書	BA01066D/06/EN/02.13
2014年10月	01.02.zz	オプション71	<ul style="list-style-type: none"> ■ 現場表示器（オプション）の追加 ■ Rockwell AOP 用の Heartbeat 機能 ■ 新しい単位「ビールバレル（BBL）」 ■ 計測チューブダンピングの監視 ■ 診断イベントのシミュレーション 	取扱説明書	BA01066D/06/EN/03.14

-  現行バージョンまたは旧バージョンへのファームウェアの書き換えは、サービスインターフェイス（CDI）を経由して実行できます。
-  ファームウェアのバージョンと以前のバージョン、インストールされたデバイス記述ファイルおよび操作ツールとの互換性については、メーカー情報資料の機器情報を参照してください。
-  メーカー情報は、以下から入手できます。
 - 弊社ウェブサイトのダウンロードエリアより：www.endress.com → Download
 - 次の詳細を指定します。
 - 製品ルートコード、例：8E1B
 - テキスト検索：メーカー情報
 - 検索範囲：関連資料

13 メンテナンス

13.1 メンテナンス作業

特別なメンテナンスは必要ありません。

13.1.1 外部洗浄

機器の外部を洗浄する場合は、必ずハウジングまたはシールの表面に傷をつけない洗浄剤を使用してください。

13.1.2 内部洗浄

CIP および SIP 洗浄を行う場合は、次の点に注意してください。


- プロセス接液部材質の耐久性を十分に確保できる洗浄剤のみを使用してください。
- 機器の最高許容流体温度に従ってください → 図 104。


ピグ洗浄の場合は、次の点に注意してください。

計測チューブおよびプロセス接続の内径に注意してください。

13.2 測定機器およびテスト機器


エンドレスハウザー社は、W@M またはテスト機器など各種の測定機器やテスト機器を提供しています。

 サービスの詳細については、弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせください。

 一部の測定機器やテスト機器のリストについては、本機器の技術仕様書の「アクセサリ」章を参照してください。

13.3 エンドレスハウザー社サービス

エンドレスハウザー社では、再校正、メンテナンスサービス、またはテスト機器など、メンテナンスに関する幅広いサービスを提供しています。

 サービスの詳細については、弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせください。

14 修理

14.1 一般的注意事項

修理および変更コンセプト

エンドレスハウザー社の修理および変更コンセプトでは、次のことが考慮されています。

- 機器はモジュール式の構造となっています。
- スペアパーツは合理的なキットに分類され、関連する取付指示が付属します。
- 修理は、エンドレスハウザー社サービス担当または適切な相応の訓練を受けたユーザーが実施します。
- 認証を取得した機器は、エンドレスハウザー社サービス担当または工場でのみ別の認証取得機器に交換できます。

修理および変更に関する注意事項


機器の修理および変更を行う場合は、次の点に注意してください。

- 弊社純正スペアパーツのみを使用してください。
- 取付指示に従って修理してください。
- 適用される規格、各地域/各国の規定、防爆資料 (XA)、認証を遵守してください。
- 修理および変更はすべて記録し、W@M ライフサイクル管理データベースに入力してください。

14.2 スペアパーツ


W@M デバイスビューワー (www.endress.com/deviceviewer) :

機器のスペアパーツがすべてオーダーコードとともにリストされており、注文することが可能です。関連するインストールガイドがある場合は、これをダウンロードすることもできます。

 機器シリアル番号 :

- 機器の銘板に明記されています。
- **機器情報**サブメニューの**シリアル番号**から読み取ることができます →  85。

14.3 エンドレスハウザー社サービス

 サービスおよびスペアパーツの詳細については、弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせください。

14.4 返却

機器の修理または工場校正が必要な場合、あるいは、誤った機器が納入または注文された場合は、本機器を返却する必要があります。測定物と接触した製品が返却された場合、ISO 認証企業であるエンドレスハウザーは、法的規制に従って特定の手順でこれを取り扱わなければなりません。

迅速、安全、適切な機器返却を保証するため、弊社ウェブサイト <http://www.endress.com/support/return-material> に記載されている返却の手順および条件をご覧ください。

14.5 廃棄

14.5.1 機器の取外し

1. 機器の電源をオフにします。

2. ⚠ 警告

プロセス条件によっては、危険が及ぶ可能性があります。

- ▶ 機器内の圧力、高温、腐食性流体を使用するなど、危険なプロセス条件の場合には注意してください。

「機器の取付け」および「機器の接続」章に明記された取付けおよび接続手順と論理的に逆の手順を実施してください。安全注意事項に従ってください。

14.5.2 機器の廃棄**⚠ 警告**

健康に有害な流体によって、人体や環境に危険が及ぶ可能性があります。

- ▶ 隙間に入り込んだ、またはプラスチックから拡散した物質など、健康または環境に有害な残留物を、機器および隙間の溝からすべて確実に除去してください。

廃棄する際には、以下の点に注意してください。


- 適用される各地域/各国の規定を遵守してください。
- 機器コンポーネントを適切に分別および再利用してください。

15 アクセサリ

機器と一緒に、もしくは別途注文可能なアクセサリが多種用意されています。詳細は、最寄りの弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせください。オーダーコードに関する詳細は、弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせいただくか、弊社ウェブサイトの製品ページをご覧ください：www.endress.com。

15.1 機器固有のアクセサリ



15.1.1 センサ用

アクセサリ	説明
スチームジャケット	<p>センサ内の流体温度を一定に保つために使用します。流体として使用できるのは、水、蒸気、その他の非腐食性液体です。測定物としてオイルを使用する場合は、Endress+Hauserにお問い合わせください。</p> <p> 詳細については、取扱説明書 BA00099D を参照してください。</p>

15.2 サービス関連のアクセサリ

アクセサリ	説明
アプリケーション	<p>Endress+Hauser 製機器のセレクション/サイジング用ソフトウェア。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 最適な流量計を選定するために必要なあらゆるデータの計算（例：呼び口径、圧力損失、精度、プロセス接続） ■ 計算結果を図で表示 <p>プロジェクトの全期間中、あらゆるプロジェクト関連データおよびパラメータの管理、文書化、アクセスが可能です。</p> <p>アプリケーションは以下から入手できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ インターネット経由：https://wapps.endress.com/applicator ■ 現場 PC へのインストール用 CD-ROM
W@M	<p>プラントのライフサイクル管理</p> <p>W@M は幅広いソフトウェアアプリケーションを使用して、計画および調達から機器の設置、設定、操作まで、あらゆるプロセスをサポートします。機器ステータス、スペアパーツ、機器固有の資料など、重要な機器情報がすべて、各機器ごとに全ライフサイクルにわたって提供されます。</p> <p>アプリケーションには、すでにお使いの Endress+Hauser 製機器のデータが入っています。記録データの維持やアップデートについても Endress+Hauser が行います。</p> <p>W@M は以下から入手できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ インターネット経由：www.endress.com/lifecyclemanagement ■ 現場 PC へのインストール用 CD-ROM
FieldCare	<p>Endress+Hauser の FDT ベースのプラントアセットマネジメントツールです。システム内にあるすべての高性能フィールド機器を設定し、その管理をサポートすることが可能です。ステータス情報を使用することにより、ステータスと状態を簡単かつ効果的にチェックすることができます。</p> <p> 詳細については、「取扱説明書」BA00027S および BA00059S を参照してください。</p>

15.3 システムコンポーネント

アクセサリ	説明
メモグラフ M グラフィックディスプレイレコーダ	<p>関連するすべての測定変数の情報を提供します。測定値を正確に記録し、リミット値の監視、計測ポイントの解析を行います。このデータは、256 MB の内部メモリに保存され、SD カードまたは USB スティックにも保存されます。</p> <p> 詳細については、「技術仕様書」 TI00133R および「取扱説明書」 BA00247R を参照してください。</p>
iTEMP	<p>あらゆるアプリケーションに使用でき、気体、蒸気、液体の測定に最適な温度伝送器です。流体温度の読み込みに使用できます。</p> <p> 詳細については、「Fields of Activity」, FA00006T を参照してください。</p>

16 技術データ

16.1 用途

本機器は、液体および気体の流量測定にのみ適しています。

注文したバージョンに応じて、本機器は爆発性、可燃性、毒性、酸化性の測定物も測定できます。

本機器の寿命中に適切な動作条件下での作動を保証するため、本機器を使用できるのは、接液部材質がその測定物に対する耐食性を示す場合に限られます。

16.2 機能とシステム構成

測定原理

コリオリの原理に基づく質量流量測定

計測システム

本機器は変換器とセンサから構成されます。

機器バージョンは1つ：一体型 - 変換器とセンサが一体となっています。

機器構造に関する詳細 → 図 10

16.3 入力

測定変数

直接測定するプロセス変数

- 質量流量
- 密度
- 温度
- 液体動粘度

計算された測定変数

- 体積流量
- 基準体積流量
- 基準密度

測定範囲

液体の測定範囲

呼び口径		測定範囲フルスケール値 $\dot{m}_{\min(F)} \sim \dot{m}_{\max(F)}$	
[mm]	[in]	[kg/h]	[lb/min]
8	$\frac{3}{8}$	0~2000	0~73.50
15	$\frac{1}{2}$	0~6500	0~238.9
15 FB	$\frac{1}{2}$ FB	0~18000	0~661.5
25	1	0~18000	0~661.5
25 FB	1 FB	0~45000	0~1654
40	$1\frac{1}{2}$	0~45000	0~1654
40 FB	$1\frac{1}{2}$ FB	0~70000	0~2573
50	2	0~70000	0~2573
50 FB	2 FB	0~180000	0~6615

呼び口径		測定範囲フルスケール値 $\dot{m}_{\min(F)} \sim \dot{m}_{\max(F)}$	
[mm]	[in]	[kg/h]	[lb/min]
80	3	0~180 000	0~6 615

FB = フルボアバージョン

気体の測定範囲

最大測定範囲は気体密度に依存し、以下の計算式を使用して算出できます。

$$\dot{m}_{\max(G)} = \dot{m}_{\max(F)} \cdot \rho_G : x$$

$\dot{m}_{\max(G)}$	気体の最大測定範囲 [kg/h]
$\dot{m}_{\max(F)}$	液体の最大測定範囲 [kg/h]
$\dot{m}_{\max(G)} < \dot{m}_{\max(F)}$	$\dot{m}_{\max(G)}$ は必ず $\dot{m}_{\max(F)}$ より小さい
ρ_G	動作条件下での気体密度 [kg/m ³]

呼び口径		x
[mm]	[in]	[kg/m ³]
8	$\frac{3}{8}$	60
15	$\frac{1}{2}$	80
15 FB	$\frac{1}{2}$ FB	90
25	1	90
25 FB	1 FB	90
40	$1\frac{1}{2}$	90
40 FB	$1\frac{1}{2}$ FB	90
50	2	90
50 FB	2 FB	110
80	3	110

FB = フルボアバージョン

気体の計算例

- センサ：Promass I、呼び口径 50A
- 気体：空気、密度 60.3 kg/m³ (20 °C、5 MPa)
- 測定範囲 (液体)：70 000 kg/h
- x = 90 kg/m³ (Promass I、呼び口径 50A)

最大測定範囲：

$$\dot{m}_{\max(G)} = \dot{m}_{\max(F)} \times \rho_G : x = 70\,000 \text{ kg/h} \times 60.3 \text{ kg/m}^3 : 90 \text{ kg/m}^3 = 46\,900 \text{ kg/h}$$

推奨の測定範囲

「流量制限」セクションを参照 → 105

計測可能流量範囲

1000 : 1 以上。

流量が設定されたフルスケール値を超えても電子モジュールにより上書きされず、積算値は正確に測定されます。

16.4 出力

出力信号

Ethernet/IP

規格	IEEE 802.3 に準拠
----	----------------

アラーム時の信号


インターフェイスに応じて、以下のようにエラー情報が表示されます。

EtherNet/IP

機器診断	インプットアセンブリで機器状況を読み取ることができます。
------	------------------------------

現場表示器

ブレンテキスト表示	原因と対処法に関する情報
バックライト	赤のバックライトは機器エラーを示します。

 NAMUR 推奨 NE 107 に準拠するステータス信号

操作ツール

- デジタル通信経由 :
EtherNet/IP
- サービスインターフェイス経由

ブレンテキスト表示	原因と対処法に関する情報
-----------	--------------

ウェブブラウザ

ブレンテキスト表示	原因と対処法に関する情報
-----------	--------------

発光ダイオード (LED)

ステータス情報	<p>各種 LED でステータスを示します。</p> <p>機器バージョンに応じて以下の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 電源電圧がアクティブ ▪ データ伝送がアクティブ ▪ 機器アラーム/エラーが発生 ▪ EtherNet/IP ネットワークが利用可能 ▪ EtherNet/IP 接続を確立
---------	---

ローフローカットオフ

ローフローカットオフ値はユーザーが任意に設定可能

電氣的絶縁性


以下の接続は、それぞれ電氣的に絶縁されています。

- 出力
- 電源

プロトコル固有のデータ

Ethernet/IP

プロトコル	<ul style="list-style-type: none"> ■ CIP ネットワークライブラリ Volume 1 : 産業用共通プロトコル ■ CIP ネットワークライブラリ Volume 2 : CIP 対応 EtherNet/IP 		
通信タイプ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 10Base-T ■ 100Base-TX 		
機器プロファイル	汎用機器 (製品タイプ : 0x2B)		
製造者 ID	0x49E		
機器タイプ ID	0x104A		
通信速度	自動 ¹⁰ / ₁₀₀ Mbit (半二重および全二重検出)		
極性	自動極性 (クロスした TxD および RxD ペアの自動補正用)		
対応する CIP 接続	最大 3 × 接続		
Explicit 接続	最大 6 × 接続		
I/O 接続	最大 6 × 接続 (スキャナ)		
機器の設定オプション	<ul style="list-style-type: none"> ■ 電子モジュール上に IP アドレス設定用の DIP スイッチ ■ 製造者固有のソフトウェア (FieldCare) ■ Rockwell Automation 制御システム用にアドオンプロファイル レベル 3 ■ ウェブブラウザ ■ 機器に組み込まれたエレクトロニックデータシート (EDS) 		
EtherNet インターフェイスの設定	<ul style="list-style-type: none"> ■ 速度 : 10 MBit、100 MBit、自動 (工場設定) ■ 二重 : 半二重、全二重、自動 (工場設定) 		
機器アドレスの設定	<ul style="list-style-type: none"> ■ 電子モジュール上に IP アドレス設定用の DIP スイッチ (ラストオクテット) ■ DHCP ■ 製造者固有のソフトウェア (FieldCare) ■ Rockwell Automation 制御システム用にアドオンプロファイル レベル 3 ■ ウェブブラウザ ■ EtherNet/IP ツール、例 : RSLinx (Rockwell Automation) 		
機器レベルリング (DLR)	いいえ		
固定入力			
RPI	5 ミリ秒 ~ 10 秒 (工場設定 : 20 ミリ秒)		
排他的オーナーマルチキャスト		インスタンス	サイズ [バイト]
	インスタンス設定 :	0x68	398
	O → T 設定 :	0x66	64
	T → O 設定 :	0x64	44
排他的オーナーマルチキャスト		インスタンス	サイズ [バイト]
	インスタンス設定 :	0x69	-
	O → T 設定 :	0x66	64
	T → O 設定 :	0x64	44
入力専用マルチキャスト		インスタンス	サイズ [バイト]
	インスタンス設定 :	0x68	398
	O → T 設定 :	0xC7	-
	T → O 設定 :	0x64	44
入力専用マルチキャスト		インスタンス	サイズ [バイト]
	インスタンス設定 :	0x69	-
	O → T 設定 :	0xC7	-
	T → O 設定 :	0x64	44

入力アセンブリ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 現在の機器診断 ■ 質量流量 ■ 体積流量 ■ 基準体積流量 ■ 密度 ■ 基準密度 ■ 温度 ■ 積算計 1 ■ 積算計 2 ■ 積算計 3 		
設定可能な入力			
RPI	5 ミリ秒～ 10 秒 (工場設定 : 20 ミリ秒)		
排他的オーナーマルチキャスト		インスタンス	サイズ [バイト]
	インスタンス設定 :	0x68	398
	O → T 設定 :	0x66	64
	T → O 設定 :	0x65	88
排他的オーナーマルチキャスト		インスタンス	サイズ [バイト]
	インスタンス設定 :	0x69	-
	O → T 設定 :	0x66	64
	T → O 設定 :	0x65	88
入力専用マルチキャスト		インスタンス	サイズ [バイト]
	インスタンス設定 :	0x68	398
	O → T 設定 :	0xC7	-
	T → O 設定 :	0x65	88
入力専用マルチキャスト		インスタンス	サイズ [バイト]
	インスタンス設定 :	0x69	-
	O → T 設定 :	0xC7	-
	T → O 設定 :	0x65	88
設定可能な入力アセンブリ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 現在の機器診断 ■ 質量流量 ■ 体積流量 ■ 基準体積流量 ■ 密度 ■ 基準密度 ■ 温度 ■ 積算計 1 ■ 積算計 2 ■ 積算計 3 <p> 機器に 1 つ以上のアプリケーションパッケージがある場合、オプションの範囲が広がります。</p>		
固定出力			
出力アセンブリ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 積算計 1～3 のリセットの作動 ■ 圧力補正の作動 ■ 基準密度補正の作動 ■ 温度補正の作動 ■ 積算計 1～3 のリセット ■ 外部圧力値 ■ 圧力単位 ■ 外部入力の基準密度 ■ 基準密度単位 ■ 外部温度 ■ 温度の単位 		

設定	
設定アセンブリ	<p>次に挙げているのは最も一般的な設定のみです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ソフトウェア書き込み保護 ■ 質量流量単位 ■ 質量単位 ■ 体積流量単位 ■ 体積単位 ■ 基準体積流量単位 ■ 基準体積単位 ■ 密度単位 ■ 基準密度単位 ■ 温度の単位 ■ 圧力単位 ■ 長さ ■ 積算計 1~3 : <ul style="list-style-type: none"> ■ 割り当て ■ 単位 ■ 測定モード ■ フェールセーフモード ■ アラーム遅延

16.5 電源

端子の割当て → 27

機器プラグのピンの割当て → 28

電源電圧 電源を試験して、電源が安全要件 (PELV、SELV など) を満たすことを確認する必要があります。

変換器

DC 20~30 V

消費電力 **変換器**

「出力」のオーダーコード	最大消費電力
オプション N : EtherNet/IP	3.5 W

消費電流 **変換器**

「出力」のオーダーコード	最大消費電流	最大電源投入時の突入電流 :
オプション N : EtherNet/IP	145 mA	18 A (< 0.125 ms)

電源障害

- 積算計は測定された最後の有効値で停止します。
- 機器の種類に応じて、設定は機器メモリまたはプラグインメモリ (HistoROM DAT) に保持されます。
- エラーメッセージ (総稼働時間を含む) が保存されます。

電気配線 → 28

電位平衡 → 30

端子

変換器

スプリング端子、ケーブル断面積 0.5~2.5 mm² (20~14 AWG)

電線管接続口


- ケーブルグランド：M20 × 1.5 使用ケーブル φ6~12 mm (0.24~0.47 in)
- 電線管接続口用ねじ：
 - NPT ½"
 - G ½"
 - M20

ケーブル仕様 → 26

16.6 性能特性

基準動作条件

- ISO 11631 に基づくエラーリミット
- 水は +15~+45 °C (+59~+113 °F)、0.2~0.6 MPa (29~87 psi)
- 仕様は校正プロトコルに準拠
- ISO 17025 に準拠した認定校正装置に基づく精度。

 測定誤差を確認するには、「アプリケーション」のサイジング用ツールを使用してください。 → 91 → 113

最大測定誤差

o.r. = 読み値 ; 1 g/cm³ = 1 kg/l、T = 流体温度


基準精度

質量流量および体積流量（液体）

±0.10 %

質量流量（気体）

±0.50 % o.r.

 精度の考え方 → 102

密度（液体）

- 基準条件：±0.0005 g/cm³
- 標準密度校正：±0.02 g/cm³
(全温度範囲および密度範囲で有効)
- 高精度密度仕様（「アプリケーションパッケージ」のオーダーコード、オプション EF 「高精度密度および濃度」または EH 「高精度密度および粘度」）：±0.004 g/cm³（高精度密度校正の有効範囲：0~2 g/cm³、+10~+80 °C (+50~+176 °F)）

温度

±0.5 °C ± 0.005 × T °C (±0.9 °F ± 0.003 × (T - 32) °F)

ゼロ点の安定度

呼び口径		ゼロ点の安定度	
[mm]	[in]	[kg/h]	[lb/min]
8	⅜	0.150	0.0055
15	½	0.488	0.0179
15 FB	½ FB	1.350	0.0496
25	1	1.350	0.0496

呼び口径		ゼロ点の安定度	
[mm]	[in]	[kg/h]	[lb/min]
25 FB	1 FB	3.375	0.124
40	1½	3.375	0.124
40 FB	1½ FB	5.25	0.193
50	2	5.25	0.193
50 FB	2 FB	13.5	0.496
80	3	13.5	0.496

FB = フルボアバージョン

流量値

流量値は、呼び口径に依存するターンダウンパラメータです。

SI 単位

呼び口径 [mm]	1:1	1:10	1:20	1:50	1:100	1:500
	[kg/h]	[kg/h]	[kg/h]	[kg/h]	[kg/h]	[kg/h]
8	2000	200	100	40	20	4
15	6500	650	325	130	65	13
15 FB	18000	1800	900	360	180	36
25	18000	1800	900	360	180	36
25 FB	45000	4500	2250	900	450	90
40	45000	4500	2250	900	450	90
40 FB	70000	7000	3500	1400	700	140
50	70000	7000	3500	1400	700	140
50 FB	180000	18000	9000	3600	1800	360
80	180000	18000	9000	3600	1800	360

FB = フルボアバージョン

US 単位

呼び口径 [inch]	1:1	1:10	1:20	1:50	1:100	1:500
	[lb/min]	[lb/min]	[lb/min]	[lb/min]	[lb/min]	[lb/min]
⅜	73.50	7.350	3.675	1.470	0.735	0.147
½	238.9	23.89	11.95	4.778	2.389	0.478
½ FB	661.5	66.15	33.08	13.23	6.615	1.323
1	661.5	66.15	33.08	13.23	6.615	1.323
1 FB	1654	165.4	82.70	33.08	16.54	3.308
1½	1654	165.4	82.70	33.08	16.54	3.308
1½ FB	2573	257.3	128.7	51.46	25.73	5.146
2	2573	257.3	128.7	51.46	25.73	5.146
2 FB	6615	661.5	330.8	132.3	66.15	13.23
3	6615	661.5	330.8	132.3	66.15	13.23

FB = フルボアバージョン

繰返し性



o.r. = 読み値、 $1 \text{ g/cm}^3 = 1 \text{ kg/l}$ 、 $T = \text{流体温度}$

基準の繰返し性**質量流量および体積流量（液体）**

$\pm 0.05 \% \text{ o.r.}$

質量流量（気体）

$\pm 0.25 \% \text{ o.r.}$

 精度の考え方 →  102

密度（液体）

$\pm 0.00025 \text{ g/cm}^3$

温度

$\pm 0.25 \text{ }^\circ\text{C} \pm 0.0025 \cdot T \text{ }^\circ\text{C} (\pm 0.45 \text{ }^\circ\text{F} \pm 0.0015 \cdot (T-32) \text{ }^\circ\text{F})$

応答時間

応答時間は設定に応じて異なります（ダンピング）。

流体温度の影響


質量流量および体積流量

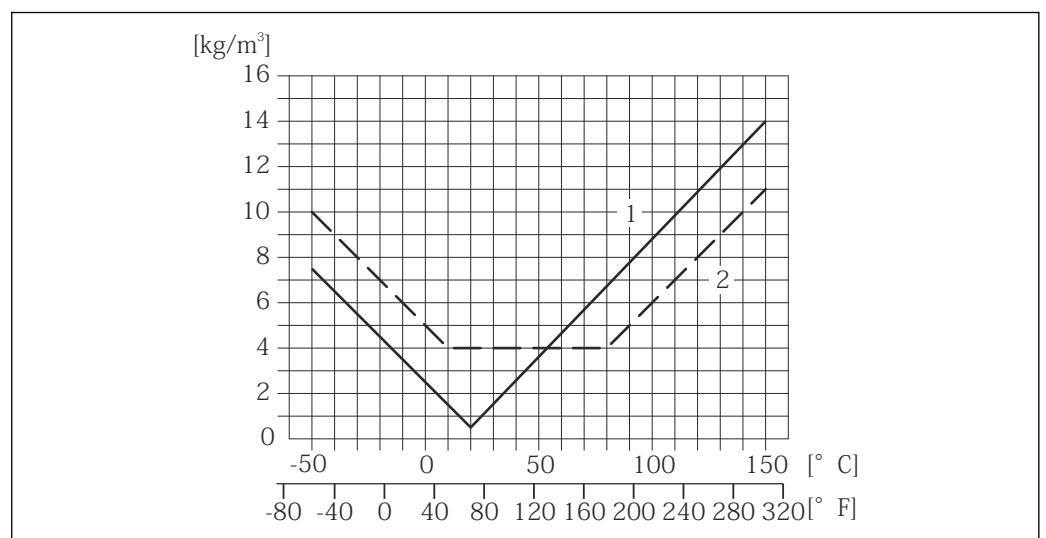
ゼロ点調整時の温度とプロセス温度に差異がある場合、センサの標準的な測定誤差は、フルスケール値に対して $\pm 0.0002 \% / ^\circ\text{C}$ ($\pm 0.0001 \% / ^\circ\text{F}$) となります。

密度

密度校正温度とプロセス温度に差異がある場合、センサの標準的な測定誤差は $\pm 0.0001 \text{ g/cm}^3 / ^\circ\text{C}$ ($\pm 0.00005 \text{ g/cm}^3 / ^\circ\text{F}$) となります。現場密度校正を実施できます。

高精度密度仕様（高精度密度校正）

プロセス温度が →  99 の有効な範囲内でない場合、測定誤差は $\pm 0.0001 \text{ g/cm}^3 / ^\circ\text{C}$ ($\pm 0.00005 \text{ g/cm}^3 / ^\circ\text{F}$) となります。



1 現場密度校正、例： $+20 \text{ }^\circ\text{C}$ ($+68 \text{ }^\circ\text{F}$) 時

2 高精度密度校正

温度

$\pm 0.005 \times T \text{ }^\circ\text{C} (\pm 0.005 \times (T - 32) \text{ }^\circ\text{F})$

流体圧力の影響

下表には、校正圧力とプロセス圧力との差による、質量流量の精度に対する影響が示されています。

o.r. = 読み値

呼び口径		[% o.r./bar]	[% o.r./psi]
[mm]	[in]		
8	$\frac{3}{8}$	影響なし	影響なし
15	$\frac{1}{2}$	影響なし	影響なし
15 FB	$\frac{1}{2}$ FB	-0.003	-0.0002
25	1	-0.003	-0.0002
25 FB	1 FB	影響なし	影響なし
40	$1\frac{1}{2}$	影響なし	影響なし
40 FB	$1\frac{1}{2}$ FB	影響なし	影響なし
50	2	影響なし	影響なし
50 FB	2 FB	-0.003	-0.0002
80	3	影響なし	影響なし

FB = フルボアバージョン

精度の考え方

o.r. = 読み値、o.f.s. = 対フルスケール値

BaseAccu = 基準精度 (%) o.r.、BaseRepeat = 基準の繰り返し性 (%) o.r.

MeasValue = 測定値、ZeroPoint = ゼロ点の安定度

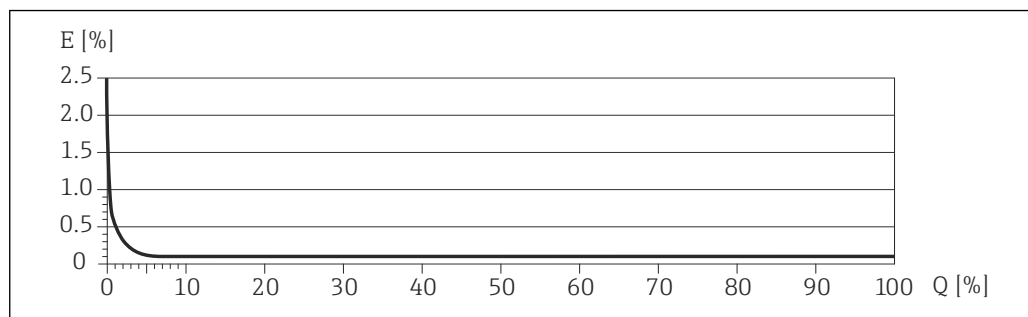
流量に応じた最大測定誤差の計算

流量	最大測定誤差 (%) o.r.
$\geq \frac{\text{ZeroPoint}}{\text{BaseAccu}} \cdot 100$ <small>A0021332</small>	$\pm \text{BaseAccu}$ <small>A0021339</small>
$< \frac{\text{ZeroPoint}}{\text{BaseAccu}} \cdot 100$ <small>A0021333</small>	$\pm \frac{\text{ZeroPoint}}{\text{MeasValue}} \cdot 100$ <small>A0021334</small>



流量に応じた最大繰り返し性の計算

流量	最大繰り返し性 (%) o.r.
$\geq \frac{\frac{1}{2} \cdot \text{ZeroPoint}}{\text{BaseRepeat}} \cdot 100$ <small>A0021335</small>	$\pm \text{BaseRepeat}$ <small>A0021340</small>
$< \frac{\frac{1}{2} \cdot \text{ZeroPoint}}{\text{BaseRepeat}} \cdot 100$ <small>A0021336</small>	$\pm \frac{1}{2} \cdot \frac{\text{ZeroPoint}}{\text{MeasValue}} \cdot 100$ <small>A0021337</small>


最大測定誤差の例




E 誤差：最大測定誤差 (%) o.r. (例)
Q 流量 (%)

 精度の考え方 →  102


16.7 設置

「取付要件」 →  17

16.8 環境

周囲温度範囲 →  19

温度表

 危険場所で本機器を使用する場合は、許容される周囲温度と流体温度の間の相互依存性に注意してください。

 温度表の詳細については、機器の『安全注意事項』(XA)を参照してください。

保管温度

表示モジュール以外のすべてのコンポーネント：

- $-40\sim+80\text{ }^{\circ}\text{C}$ ($-40\sim+176\text{ }^{\circ}\text{F}$)、推奨 $+20\text{ }^{\circ}\text{C}$ ($+68\text{ }^{\circ}\text{F}$) (標準バージョン)
- $-50\sim+80\text{ }^{\circ}\text{C}$ ($-58\sim+176\text{ }^{\circ}\text{F}$) (「試験、認証」のオーダーコード、オプション JM)

表示モジュール

$-40\sim+80\text{ }^{\circ}\text{C}$ ($-40\sim+176\text{ }^{\circ}\text{F}$)

気候クラス

DIN EN 60068-2-38 (試験 Z/AD)

保護等級

変換器とセンサ

- 標準：IP66/67、タイプ 4Xハウジング
- 「センサオプション」のオーダーコード、オプション **CM** の場合：IP69K も注文可能
- ハウジング開放時：IP20、タイプ 1ハウジング
- 表示モジュール：IP20、タイプ 1ハウジング


耐衝撃

IEC/EN 60068-2-31 に準拠

耐振動性

加速度 1 g 以下、10~150 Hz、IEC/EN 60068-2-6 に準拠


内部洗浄	<ul style="list-style-type: none"> ■ 定置滅菌 (SIP) ■ 定置洗浄 (CIP) ■ ピグ洗浄
------	--

電磁適合性 (EMC)	<ul style="list-style-type: none"> ■ IEC/EN 61326 および NAMUR 推奨基準 21 (NE 21) に準拠 ■ EN 55011 (クラス A) 準拠の工業用放射限度に適合 <p> 詳細については、適合宣言を参照してください。</p>
-------------	--


16.9 プロセス

流体温度範囲	<p>センサ -50~+150 °C (-58~+302 °F)</p> <p>シール 内部シールなし</p>
--------	---


測定物密度	0~5 000 kg/m ³ (0~312 lb/cf)
-------	---

圧力温度曲線	 プロセス接続の耐圧曲線 (圧力/温度グラフ) の概要については、「技術仕様書」を参照してください。
--------	---

センサハウジングには乾燥窒素ガスが充填されており、内部の電子部品や機械部品が保護されます。

 計測チューブが故障した場合 (例: 腐食性または研磨性のある流体などのプロセス特性に起因)、流体は最初にセンサハウジングに溜まります。

センサをガスでパージする必要がある場合は (ガス検出)、パージ接続を取り付けなければなりません。

 センサハウジングに不活性ガスを充填するとき以外は、パージ接続を開けないようにしてください。パージは、必ず低圧で行ってください。

最大圧力 : 0.5 MPa (72.5 psi)

センサハウジング破裂圧力

以下のセンサハウジングの破裂圧力は、標準機器および/または密閉されたパージ接続付きの機器 (開けていない/納品時の状態) にのみ適用されます。


パージ接続付きの機器 (「センサオプション」のオーダーコード、オプション CH「パージ接続」) をパージシステムに接続した場合、パージシステム自体または機器のうち、圧力区分が低い方のコンポーネントに応じて、最大圧力は決まります。

センサハウジングの破裂圧力は、センサハウジングが機械的に故障する前に到達する標準的な内圧に相当し、これは型式試験中に確認されます。対応する型式試験適合宣言は、機器と一緒に注文できます (「追加認証」のオーダーコード、オプション LN「センサハウジング破裂圧力、型式試験」)。

呼び口径		センサハウジング破裂圧力	
[mm]	[in]	[bar]	[psi]
8	3/8	220	3 190
15	1/2	220	3 190


呼び口径		センサハウジング破裂圧力	
[mm]	[in]	[bar]	[psi]
15 FB	½ FB	235	3 408
25	1	235	3 408
25 FB	1 FB	220	3 190
40	1½	220	3 190
40 FB	1 ½ FB	235	3 408
50	2	235	3 408
50 FB	2 FB	460	6 670
80	3	460	6 670

FB = フルボアバージョン

 寸法については、技術仕様書の「構造」セクションを参照してください。


流量制限

最も適したセンサ呼び口径は、測定レンジと許容圧力損失を考慮して選択してください。

 測定レンジフルスケール値の概要については、「測定レンジ」の章を参照してください。→ [93](#)

- 推奨最小フルスケール値は、最大測定レンジの約 1/20 です。
- ほとんどのアプリケーションにおいて、最大測定レンジの 20~50 % の間が最適な測定範囲となります。
- 研磨性の流体（固形分が含まれる液体）では、最大測定レンジとして遅い流速を選択してください：流速 <math>< 1 \text{ m/s}</math> (<math>< 3 \text{ ft/s}</math>）。
- 気体測定では、以下の点にご注意ください。
 - 計測チューブ内の流速は、音速の 1/2 (0.5 Mach) 以下にしてください。
 - 最大質量流量は、気体密度に依存します。計算式 → [94](#)

圧力損失

 圧力損失を計算するには、「アプリケーション」サイジング用ツールを使用してください。→ [113](#)

16.10 構造

構造、寸法



機器の外形寸法および取付寸法については、技術仕様書の「構造」セクションを参照してください。

質量

すべての値（梱包材を含まない質量）は、EN/DIN PN 40 フランジ付き機器の値です。変換器を含む質量仕様：「ハウジング」のオーダーコード、オプション A 「一体型、塗装アルミダイカスト」。

質量 (SI 単位)

呼び口径 [mm]	質量 [kg]
8	11
15	13
15 FB	19
25	20
25 FB	39
40	40
40 FB	65
50	67
50 FB	118
80	122

FB = フルボアバージョン

質量 (US 単位)

呼び口径 [in]	質量 [lbs]
3/8	24
1/2	29
1/2 FB	42
1	44
1 FB	86
1 1/2	88
1 1/2 FB	143
2	148
2 FB	260
3	269

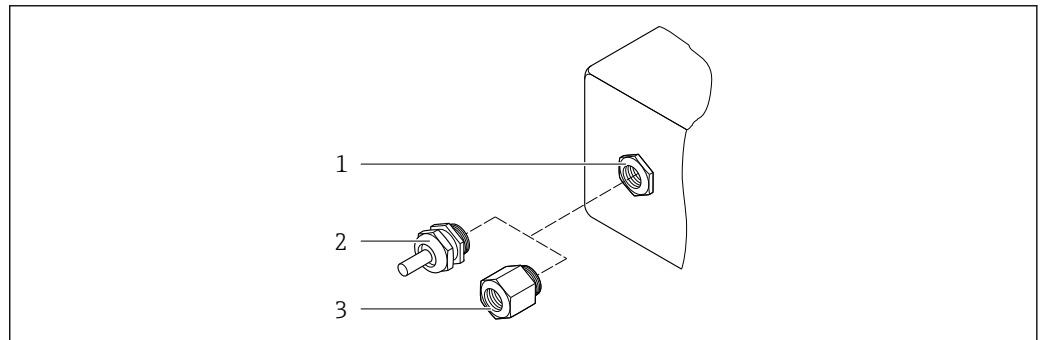
FB = フルボアバージョン

材質

変換器ハウジング

- 「ハウジング」のオーダーコード、オプション **A** 「一体型、塗装アルミダイカスト」：アルミダイカスト、AlSi10Mg、塗装
- 「ハウジング」のオーダーコード、オプション **B** 「一体型、サニタリ、ステンレス」：サニタリバージョン、ステンレス 1.4301 (SUS 304 相当)
- 「ハウジング」のオーダーコード、オプション **C** 「ウルトラコンパクト、サニタリ、ステンレス」：サニタリバージョン、ステンレス 1.4301 (SUS 304 相当)
- 現場表示器 (オプション) のウィンドウ材質 (→ 109) :
 - 「ハウジング」のオーダーコード、オプション **A** : ガラス
 - 「ハウジング」のオーダーコード、オプション **B** および **C** : プラスチック

電線管接続口/ケーブルグランド



A0020640

図 16 可能な電線管接続口/ケーブルグランド

- 1 雌ねじ M20 × 1.5
- 2 ケーブルグランド M20 × 1.5
- 3 電線管接続口用アダプタ (雌ねじ G ½" または NPT ½")

「ハウジング」のオーダーコード、オプション **A** 「一体型、アルミニウム、コーティング」

各種の電線管接続口は危険場所および非危険場所用に適しています。

電線管接続口/ケーブルグランド	材質
ケーブルグランド M20 × 1.5	ニッケルメッキ真ちゅう
電線管接続口用アダプタ (雌ねじ G ½")	
電線管接続口用アダプタ (雌ねじ NPT ½")	

「ハウジング」のオーダーコード、オプション **B** 「一体型、サニタリ、ステンレス」

各種の電線管接続口は危険場所および非危険場所用に適しています。

電線管接続口/ケーブルグランド	材質
ケーブルグランド M20 × 1.5	ステンレス 1.4404 (SUS 316L 相当)
電線管接続口用アダプタ (雌ねじ G ½")	
電線管接続口用アダプタ (雌ねじ NPT ½")	

機器プラグ

電気接続	材質
Plug M12x1	<ul style="list-style-type: none"> ■ ソケット：ステンレス 1.4404 (SUS 316L 相当) ■ コンタクトハウジング：ポリアミド ■ コンタクト：金メッキ真ちゅう

センサハウジング



- 耐酸、耐アルカリの表面
- ステンレス 1.4301 (SUS 304 相当)

計測チューブ

チタン Grade 9

プロセス接続

- EN 1092-1 (DIN 2501) / ASME B16.5 / JIS 準拠のフランジ：
 - ステンレス 1.4301 (SUS 304 相当)
 - 接液部：チタン Grade 2
- その他のすべてのプロセス接続：
 - チタン Grade 2

 使用可能なプロセス接続 →  108

シール

溶接されているプロセス接続は内部シール材不使用

アクセサリ

保護カバー


ステンレス 1.4404 (SUS 316L 相当)

プロマス 100 安全バリア

ハウジング：ポリアミド

プロセス接続

- 固定フランジ接続：
 - EN 1092-1 (DIN 2501) フランジ
 - EN 1092-1 (DIN 2512N) フランジ
 - ASME B16.5 フランジ
 - JIS B2220 フランジ
 - DIN 11864-2 Form A フランジ、DIN 11866 シリーズ A、ノッチ付きフランジ
- クランプ接続：
 - トリクランプ (管外径)、DIN 11866 シリーズ C
- 偏心クランプ接続：
 - 偏心トリクランプ、DIN 11866 シリーズ C
- ネジ：
 - DIN 11851 ネジ、DIN 11866 シリーズ A
 - SMS 1145 ネジ
 - ISO 2853 ネジ、ISO 2037
 - DIN 11864-1 Form A ネジ、DIN 11866 シリーズ A

 プロセス接続の材質

表面粗さ	すべて接液部のデータ。以下の表面粗さ品質を注文できます。 <ul style="list-style-type: none">■ 研磨なし■ $Ra_{max} = 0.76 \mu\text{m}$ (30 μin)■ $Ra_{max} = 0.38 \mu\text{m}$ (15 μin)
------	---


16.11 操作性

現場表示器	現場表示器は以下の機器オーダーコードでのみ使用できます。 「ディスプレイ；操作」のオーダーコード、オプション B：4 行表示、バックライト付き、通信経由
-------	--

表示部

- 4 行液晶表示 (行ごとに 16 文字)。
- 白色バックライト；機器エラー発生時は赤に変化。
- 測定変数およびステータス変数の表示形式は個別に設定可能。
- 表示部の許容周囲温度：-20~+60 °C (-4~+140 °F)。温度が許容温度範囲外の場合、表示部の視認性が悪化する可能性があります。

メイン電子モジュールからの現場表示器の取外し

ハウジングの種類が「一体型、塗装アルミダイカスト」の場合、現場表示器をメイン電子モジュールから取り外す必要があります。ハウジングの種類が「一体型、サニタリ、ステンレス」および「ウルトラコンパクト、サニタリ、ステンレス」の場合、現場表示器はハウジングカバーに内蔵されています。そのため、ハウジングカバーを開けるときはメイン電子モジュールから現場表示器を取り外します。

ハウジングの種類「一体型、塗装アルミダイカスト」

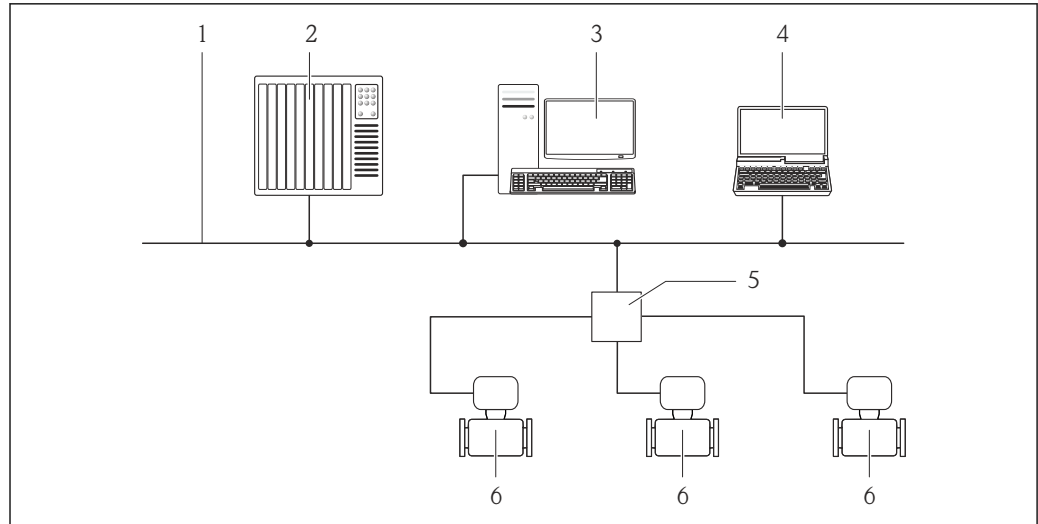
現場表示器はメイン電子モジュールに差し込まれています。現場表示器とメイン電子モジュールの間の電子接続は接続ケーブルを介して確立されます。

機器に対する一部の作業 (例：電気接続) では、現場表示器をメイン電子モジュールから取り外すことをお勧めします。

1. 現場表示器のサイドラッチを押してください。
2. 現場表示器をメイン電子モジュールから取り外してください。取り外す際に接続ケーブルの長さに注意してください。

作業が完了したら、現場表示器を再び差し込んでください。

リモート操作	Ethernet ベースのフィールドバス経由 この通信インターフェイスは EtherNet/IP 対応の機器バージョンに装備されています。
--------	---



A0016961

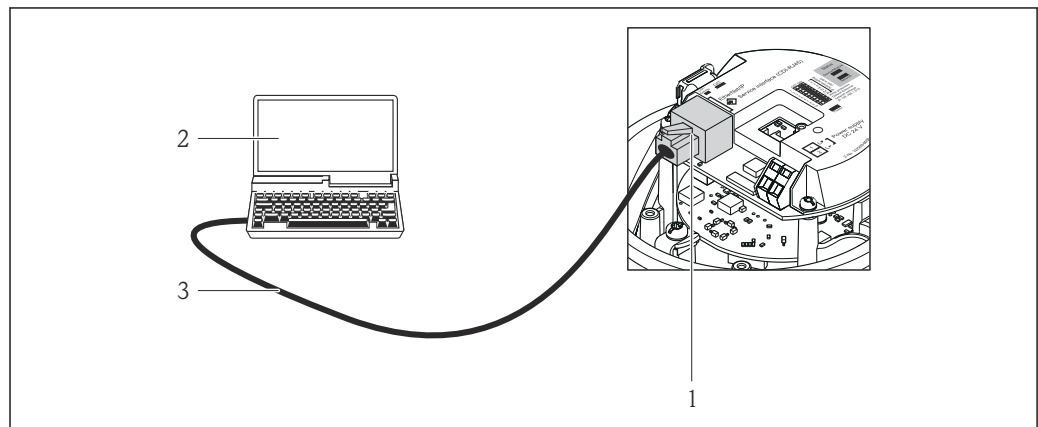
図 17 Ethernet ベースのフィールドバスを介したリモート操作のオプション

- 1 Ethernet ネットワーク
- 2 オートメーションシステム、例：「RSLogix」(Rockwell Automation)
- 3 機器操作ワークステーション：「RSLogix 5000」(Rockwell Automation) 用のアドオンプロファイルレベル 3 またはエレクトロニックデータシート (EDS) 付き
- 4 内蔵された機器 Web サーバーにアクセスするためのウェブブラウザ (例：Internet Explorer)、または「FieldCare」操作ツールと COM DTM 「CDI Communication TCP/IP」を搭載したコンピュータ
- 5 Ethernet スイッチ
- 6 機器

サービスインターフェイス

サービスインターフェイス (CDI-RJ45) 経由

EtherNet/IP



A0016940

図 18 「出力」のオーダーコードの接続、オプション N : EtherNet/IP

- 1 内蔵された Web サーバーへアクセス可能な機器のサービスインターフェイス (CDI-RJ45) および EtherNet/IP インターフェイス
- 2 内蔵された機器 Web サーバーにアクセスするためのウェブブラウザ (例：Internet Explorer)、または「FieldCare」操作ツールと COM DTM 「CDI Communication TCP/IP」を搭載したコンピュータ
- 3 RJ45 プラグの付いた標準 Ethernet 接続ケーブル

言語

以下の言語で操作できます。

- 「FieldCare」操作ツールを経由：英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、中国語、日本語
- ウェブブラウザを経由：英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、オランダ語、ポルトガル語、ポーランド語、ロシア語、トルコ語、中国語、日本語、バハサ (インドネシア語)、ベトナム語、チェコ語

16.12 認証と認定


CE マーク	<p>本製品は適用される EC 指令で定められた要求事項に適合します。これらの要求事項は、適用される規格とともに EC 適合宣言に明記されています。</p> <p>エンドレスハウザーは本製品が試験に合格したことを、CE マークの添付により保証いたします。</p>
C-Tick マーク	<p>本機器は「Australian Communications and Media Authority (ACMA)」の EMC 指令に適合します。</p>
防爆認定	<p>機器は防爆認定機器であり、関連する安全注意事項は別冊の「安全注意事項 (英文) (XA) 資料」に掲載されています。この資料の参照先は、型式銘板に明記されています。</p>
サニタリ適合性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 3A 認証 ■ EHEDG テスト合格
EtherNet/IP 認定	<p>本機器は、ODVA (Open Device Vendor Association) の認定を取得し、登録されています。したがって、以下のすべての仕様要件を満たします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ODVA 適合性試験に準拠した認定を取得 ■ EtherNet/IP 性能試験 ■ EtherNet/IP PlugFest 適合性 ■ この機器は、認証を取得した他メーカーの機器と組み合わせて動作させることもできます (相互運用性)
圧力機器指令	<ul style="list-style-type: none"> ■ センサ銘板に「PED/G1/x (x = カテゴリー)」マークがある場合、エンドレスハウザーは本機器が欧州圧力機器指令 97/23/EC 付録 I の「基本安全基準」に適合していることを承認します。 ■ PED マークがない機器は、GEP (適切な技術的手法) に従って設計 / 製造されています。この機器は、欧州圧力機器指令 97/23/EC の Art. 3, Section 3 の要件を満たしています。圧力機器指令付録 II の図 6~9 に、その用途範囲が記載されています。
その他の基準およびガイドライン	<ul style="list-style-type: none"> ■ EN 60529 ハウジング保護等級 (IP コード) ■ IEC/EN 60068-2-6 環境影響：試験手順 - 試験 Fc：振動 (正弦波) ■ IEC/EN 60068-2-31 環境影響：試験手順 - 試験 Ec：乱暴な取扱いによる衝撃、主に機器用 ■ EN 61010-1 計測、制御および試験所使用電気機器の安全要求事項 ■ IEC/EN 61326 クラス A 要件に準拠した放射。電磁適合性 (EMC 要件) ■ NAMUR NE 21 工業用プロセスおよび試験機器の電磁適合性 (EMC) ■ NAMUR NE 32 マイクロプロセッサ付きフィールド機器および制御機器の電源異常時のデータ保持 ■ NAMUR NE 43 アナログ出力信号を有するデジタル変換器の故障情報信号レベルの標準化 ■ NAMUR NE 53 デジタル電子部品を有するフィールド機器と信号処理機器のソフトウェア ■ NAMUR NE 80 プロセス制御機器に関する圧力機器指令の適用

- NAMUR NE 105
フィールド機器用エンジニアリングツールにフィールドバス機器を統合するための仕様
- NAMUR NE 107
フィールド機器の自己監視および診断
- NAMUR NE 131
標準アプリケーション用フィールド機器の要件
- NAMUR NE 132
コリオリ質量流量計

16.13 アプリケーションパッケージ

機器の機能を拡張するために、各種のアプリケーションパッケージが用意されています。これらのパッケージは、安全面や特定のアプリケーション要件を満たすのに必要とされます。

アプリケーションパッケージは、Endress+Hauser 社に機器と一緒に注文するか、または後から追加注文できます。オーダーコードに関する詳細は、お近くの弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせいただくか、弊社ウェブサイトの製品ページをご覧ください：www.endress.com。

 アプリケーションパッケージの詳細情報：
機器の個別説明書（英文）

Heartbeat Technology

パッケージ	内容
Heartbeat 確認 + 監視	<p>Heartbeat 監視： 外部状態監視システム用の、測定原理に特有の監視データを連続的に供給します。これにより以下のことが可能になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 測定アプリケーションが時間とともに測定性能に及ぼす影響について結論を引き出す（これらのデータとその他の情報を用いて）。 ■ 適切なサービスのスケジュールを立てる。 ■ 製品品質（気泡など）を監視する。 <p>Heartbeat 確認： 機器の設置時に必要に応じて、プロセスを中断することなく機器機能をチェックすることを可能にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 現場操作またはその他の操作インターフェイス（FieldCare など）を介したアクセス。 ■ メーカー仕様の範囲内である機器機能の文書化（例：証明試験用）。 ■ 確認結果のトレーサブルな完全な文書化（報告書を含む）。 ■ オペレータのリスク評価に従って校正間隔を長くすることを可能にします。



濃度

パッケージ	説明
濃度測定および高精度密度	<p>流体濃度の計算および出力 多くのアプリケーションでは、品質監視やプロセス制御のための重要な測定値として密度を使用しています。機器は標準仕様として流体の密度を測定し、この値を制御システムに提供します。</p> <p>「高精度密度」アプリケーションパッケージは、特に、プロセス条件が変動するアプリケーションにおいて、幅広い密度および温度の範囲で高精度な密度測定を可能にします。</p> <p>「濃度測定」アプリケーションパッケージとの組み合わせにより、測定された密度は他のプロセスパラメータを計算するために使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 温度補正された密度（基準密度） ■ 2相流体の個々の物質の質量パーセント（濃度の単位は %） ■ 標準アプリケーションの場合、流体濃度は特殊な単位（°Brix、°Baumé、°API など）で出力されます。 <p>測定値は機器のデジタル/アナログ出力を介して出力されます。</p>


液体動粘度

パッケージ	説明
粘度測定	<p>インラインおよびリアルタイムの粘度測定 「粘度」アプリケーションパッケージ付きの Promass I は、質量流量/体積流量/温度/密度の測定に加えて、リアルタイムの流体粘度も直接プロセス内で測定します。</p> <p>次の液体粘度が測定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 粘度 ■ 動粘度 ■ 基準温度に関連して温度補正された粘度（動粘度および粘度） <p>粘度測定はニュートン流体および非ニュートン流体アプリケーションで使用することが可能であり、厳しい条件下においても流量に関係なく正確な測定データを提供できます。</p>

16.14 アクセサリ

 注文可能なアクセサリの概要 →  91

16.15 資料

 同梱される関連の技術資料の概要については、次を参照してください。

- W@M デバイスビューワー：型式銘板のシリアル番号を入力 (www.endress.com/deviceviewer)
- Endress+Hauser Operations App：型式銘板のシリアル番号を入力するか、型式銘板の 2-D マトリクスコード（QR コード）をスキャンしてください。

標準資料

簡易取扱説明書（英文）

機器	資料コード
Promass I 100	KA01117D

技術仕様書

機器	資料コード
Promass I 100	TI01035D

機器固有の補足資料


安全上の注意事項

内容	資料コード
ATEX/IECEX Ex i	XA00159D
ATEX/IECEX Ex nA	XA01029D
cCSAus IS	XA00160D
INMETRO Ex i	XA01219D
INMETRO Ex nA	XA01220D
NEPSI Ex i	XA01249D
NEPSI Ex nA	XA01262D

個別説明書

内容	資料コード
欧州圧力機器指令に関する情報 (英文)	SD00142D
濃度測定	SD01152D
粘度測定	SD01151D
Heartbeat Technology	SD01153D

取付手順

内容	資料コード
スペアパーツセットのインストールガイド	各アクセサリに応じて → 91  注文可能なアクセサリの概要 → 91

17 付録

17.1 操作メニューの概要

以下の図は、各メニュー、サブメニュー、パラメータを含む、操作メニュー構成全体の概要を示したものです。パラメータの説明については、本書の参照ページをご覧ください。

機器バージョンに応じて、一部の機器には使用できないサブメニューやパラメータがあります。選択はオーダーコードに応じて異なります。

「アプリケーションパッケージ」オーダーコードについては、関連するパラメータの説明が個別説明書に記載されています。

⌚ 操作	→ 65
🔧 設定	→ 66
🔍 診断	→ 71
👨‍🔧 エキスパート	→ 74

17.1.1 「操作」メニュー

ナビゲーション  操作



⌚ 操作	→ 65
Display language	
アクセスステータス ツール	
ロック状態	
▶ 表示	→ 59
表示形式	→ 60
表示のコントラスト	
バックライト	→ 61
表示間隔	→ 61
▶ 積算計の処理	
積算計 1~n のコントロール	

プリセット値 1~n

すべての積算計をリセット

17.1.2 「設定」メニュー

ナビゲーション  設定

 設定 →  49

デバイスのタグ

▶ システムの単位

質量流量単位

質量単位

体積流量単位

体積単位

基準体積流量単位

基準体積単位

密度単位

基準密度単位

温度の単位

圧力単位

▶ 流体の選択

測定物の選択

気体の種類選択

基準音速

音速の温度係数

圧力補正

補正する圧力値	
外部圧力	
▶ 通信	→ 52
MAC アドレス	→ 53
デフォルトのネットワーク設定	→ 53
DHCP client	→ 53
IP アドレス	→ 53
Subnet mask	→ 53
Default gateway	→ 53
▶ ローフローカットオフ	→ 54
プロセス変数の割り当て	→ 54
ローフローカットオフ オンの値	→ 54
ローフローカットオフ オフの値	→ 54
プレッシャショックの排除	→ 54
▶ 非満管の検出	→ 55
プロセス変数の割り当て	→ 55
非満管検出の下側の閾値	→ 55
非満管検出の上側の閾値	→ 55
非満管検出までの応答時間	→ 55
▶ 高度な設定	→ 56
アクセスコード入力	
▶ 計算値	→ 56
▶ 基準体積流量の計算	
基準体積流量の計算	
外部入力基準密度	

	固定基準密度	
	基準温度	
	1次熱膨張係数	
	2次熱膨脹係数	
▶ センサの調整		→ 57
	設置方向	→ 58
▶ ゼロ点調整		
	ゼロ点調整の実施	
	進行中	
▶ 積算計 1~n		→ 58
	プロセス変数の割り当て	→ 58
	積算計の単位	→ 58
	積算計動作モード	→ 58
	フェールセーフモード	→ 58
▶ 表示		→ 59
	表示形式	→ 60
	1の値表示	→ 60
	バーグラフ 0%の値 1	→ 60
	バーグラフ 100%の値 1	→ 60
	小数点桁数 1	→ 60
	2の値表示	→ 60
	小数点桁数 2	→ 60
	3の値表示	→ 61
	バーグラフ 0%の値 3	→ 61
	バーグラフ 100%の値 3	→ 61

小数点桁数 3	→ 61
4 の値表示	→ 61
小数点桁数 4	→ 61
Display language	→ 61
表示間隔	→ 61
表示のダンピング	→ 61
ヘッダー	→ 61
ヘッダーテキスト	→ 61
区切り記号	→ 61
バックライト	→ 61
▶ 粘度	
▶ 温度補正	
計算モデル	
基準温度	
補正係数 X 1	
補正係数 X 2	
▶ 静粘度	
静粘度の単位	
ユーザ定義の静粘度の単位のテキスト	
ユーザ定義の静粘度の係数	
ユーザ定義の静粘度のオフセット	
▶ 動粘度	
動粘度の単位	
ユーザ定義の動粘度の単位のテキスト	

	ユーザ定義の動粘度の係数	
	ユーザ定義の動粘度のオフセット	
▶ 濃度		
	濃度の単位	
	ユーザ定義の濃度単位のテキスト	
	ユーザ定義の濃度係数	
	ユーザ定義の濃度オフセット	
	A 0	
	A 1	
	A 2	
	A 3	
	A 4	
	B 1	
	B 2	
	B 3	
▶ ハートビート設定		
	▶ Heartbeat Monitoring	
	モニタリングを有効にする	
▶ 管理		→ 84
	アクセスコード設定	
	機器リセット	→ 85

17.1.3 「診断」メニュー

ナビゲーション  診断

🔍 診断	→ 82
現在の診断結果	→ 82
タイムスタンプ	
前回の診断結果	→ 82
タイムスタンプ	
再起動からの稼動時間	
稼動時間	
▶ 診断リスト	
診断 1	
タイムスタンプ	
診断 2	
タイムスタンプ	
診断 3	
タイムスタンプ	
診断 4	
タイムスタンプ	
診断 5	
タイムスタンプ	
▶ イベントログブック	
フィルタオプション	
▶ 機器情報	→ 85
デバイスのタグ	→ 86
シリアル番号	→ 86

ファームウェアのバージョン	→ 86
機器名	→ 86
オーダーコード	→ 86
拡張オーダーコード 1	→ 86
拡張オーダーコード 2	→ 86
拡張オーダーコード 3	→ 86
ENP バージョン	→ 86
IP アドレス	→ 86
Subnet mask	→ 86
Default gateway	→ 86
▶ 測定値	
▶ プロセス変数	→ 66
質量流量	→ 67
体積流量	→ 67
基準体積流量	→ 67
密度	→ 67
基準密度	→ 67
温度	→ 67
補正する圧力値	→ 67
静粘度	
動粘度	
温度補正後の静粘度	
温度補正後の動粘度	
濃度	





固形分質量流量	
搬送液質量流量	
▶ 積算計	→ 67
積算計の値 1~n	→ 68
積算計オーバーフロー 1~n	→ 68
▶ Heartbeat	
▶ 検証の実行	
年	
月	
日	
時	
AM/PM	
分	
検証の開始	
進行中	
ステータス	
全体の結果	
▶ 検証の結果	
日時	
検証 ID	
稼動時間	
全体の結果	
センサ	
センサの健全性	

センサの電子機器モジュール	
I/O モジュール	
▶ モニタリング結果	
センサの健全性	
▶ シミュレーション	→ 62
シミュレーションする測定パラメータ割り当て	→ 62
測定値	→ 62
機器アラームのシミュレーション	→ 62
診断イベントのシミュレーション	→ 62


17.1.4 「エキスパート」メニュー

以下の表は、各サブメニューとパラメータを含む、**エキスパート** メニューの概要を示したものです。パラメータの直接アクセスコードは括弧内に示されています。パラメータの説明については、本書の参照ページをご覧ください。

ナビゲーション  エキスパート

Display language	
 操作	→ 115
 設定	→ 49
 診断	→ 121
 エキスパート	

「システム」サブメニュー

ナビゲーション   エキスパート → システム

▶ システム	
▶ 表示	→ 59
Display language	→ 61
表示形式	→ 60

1 の値表示	→ 60
バーグラフ 0%の値 1	→ 60
バーグラフ 100%の値 1	→ 60
小数点桁数 1	→ 60
2 の値表示	→ 60
小数点桁数 2	→ 60
3 の値表示	→ 61
バーグラフ 0%の値 3	→ 61
バーグラフ 100%の値 3	→ 61
小数点桁数 3	→ 61
4 の値表示	→ 61
小数点桁数 4	→ 61
表示間隔	→ 61
表示のダンピング	→ 61
ヘッダー	→ 61
ヘッダーテキスト	→ 61
区切り記号	→ 61
表示のコントラスト	
バックライト	→ 61
アクセスステータス表示	
▶ 診断イベントの処理	
アラーム遅延	
▶ 診断 j 時の動作	
診断番号 140 の動作の割り当て	
診断番号 046 の動作の割り当て	

診断番号 144 の動作の割り当て

診断番号 832 の動作の割り当て

診断番号 833 の動作の割り当て

診断番号 834 の動作の割り当て

診断番号 835 の動作の割り当て

診断番号 912 の動作の割り当て

診断番号 913 の動作の割り当て

診断番号 944 の動作の割り当て

診断番号 948 の動作の割り当て

診断番号 192 の動作の割り当て

診断番号 274 の動作の割り当て

診断番号 392 の動作の割り当て

診断番号 592 の動作の割り当て

診断番号 992 の動作の割り当て

▶ 管理

→ 84

アクセスコード設定

機器リセット

→ 85

SW オプションの有効化

有効なソフトウェアオプションの概要

「センサ」サブメニュー

ナビゲーション  エキスパート → センサ

▶ センサ	
▶ 測定値	
▶ プロセス変数	→ 66
質量流量	→ 67
体積流量	→ 67
基準体積流量	→ 67
密度	→ 67
基準密度	→ 67
温度	→ 67
補正する圧力値	→ 67
静粘度	
動粘度	
温度補正後の静粘度	
温度補正後の動粘度	
濃度	
固形分質量流量	
搬送液質量流量	
▶ 積算計	→ 58
積算計の値 1~n	→ 68
積算計オーバーフロー 1~n	→ 68
▶ システムの単位	
質量流量単位	
質量単位	

体積流量単位

体積単位

基準体積流量単位

基準体積単位

密度単位

基準密度単位

温度の単位

圧力単位

日時フォーマット

▶ ユーザ定義の単位

ユーザー固有の質量単位のテキスト

ユーザー固有の質量単位のオフセット

ユーザー固有の質量単位の係数

ユーザ定義の体積のテキスト

ユーザ定義の体積オフセット

ユーザ定義の体積係数

ユーザー基準体積テキスト

ユーザ補正用の体積オフセット

ユーザー基準体積係数

ユーザー固有の密度単位のテキスト

ユーザー固有の密度単位のオフセット

ユーザー固有の密度単位の係数

ユーザ定義の圧力のテキスト

	ユーザ定義の圧力オフセット	
	ユーザ定義の圧力係数	
▶ プロセスパラメータ		
	流量ダンピング	
	密度ダンピング	
	温度ダンピング	
	流量の強制ゼロ出力	
▶ ローフローカットオフ		→ 54
	プロセス変数の割り当て	→ 54
	ローフローカットオフ オンの値	→ 54
	ローフローカットオフ オフの値	→ 54
	プレッシャショックの排除	→ 54
▶ 非満管の検出		→ 55
	プロセス変数の割り当て	→ 55
	非満管検出の下側の閾値	→ 55
	非満管検出の上側の閾値	→ 55
	非満管検出までの応答時間	→ 55
	非満管検出の最大ダンピング	
▶ 測定モード		
	測定物の選択	
	気体の種類選択	
	基準音速	
	音速の温度係数	
▶ 外部補正		
	圧力補正	

補正する圧力値

外部圧力

温度モード

外部温度

▶ 計算値

→ 56

▶ 基準体積流量の計算

基準体積流量の計算

外部入力の基準密度

固定基準密度

基準温度

1次熱膨張係数

2次熱膨脹係数

▶ センサの調整

→ 57

設置方向

→ 58

▶ ゼロ点調整

ゼロ点調整の実施

進行中

▶ プロセス変数調整

質量流量オフセット

質量流量係数

体積流量オフセット

体積流量係数


密度オフセット

密度係数

基準体積流量オフセット

	基準 体積流量係数
	基準密度オフセット
	基準密度係数
	温度オフセット
	温度係数
▶ 校正	
	校正ファクタ
	ゼロ点
	呼び径
	C0~5
▶ 監視	
	チューブダンピング測定値制限

「電流入力」サブメニュー

ナビゲーション  エキスパート → 入力 → 電流入力

▶ 入力
▶ ステータス入力
ステータス入力の割り当て
ステータス入力の値
アクティブレベル
ステータス入力の応答時間

▶ 出力
▶ パルス-周波数-スイッチ 出力の切り替え 1~n
動作モード

チャンネル2
パルス出力の割り当て
パルスの値
パルス幅
測定モード
フェールセーフモード
パルス出力
周波数出力割り当て
周波数の最小値
周波数の最大値
最大周波数の時の値
測定モード
出力のダンピング
フェールセーフモード
フェール時の周波数
出力周波数
スイッチ出力機能
診断動作の割り当て
リミットの割り当て
スイッチオンの値
スイッチオフの値
流れ方向チェックの割り当て
ステータスの割り当て
フェールセーフモード

▶ 通信**▶ 設定****▶ Configurable input assembly**

Input assembly position 12
Input assembly position 13
Input assembly position 14
Input assembly position 15
Input assembly position 16
Input assembly position 17
Input assembly position 18
Input assembly position 19
Input assembly position 20

▶ アプリケーション	
すべての積算計をリセット	
▶ 積算計 1~n	→ 58
プロセス変数の割り当て	→ 58
積算計の単位	→ 58
積算計動作モード	→ 58
積算計 1~n のコントロール	
プリセット値 1~n	
フェールセーフモード	→ 58
▶ 粘度	
粘度ダンピング	
▶ 温度補正	
計算モデル	
基準温度	

補正係数 X 1

補正係数 X 2

▶ 静粘度

静粘度の単位

ユーザ定義の静粘度の単位のテキスト

ユーザ定義の静粘度の係数

ユーザ定義の静粘度のオフセット

▶ 動粘度

動粘度の単位

ユーザ定義の動粘度の単位のテキスト

ユーザ定義の動粘度の係数

ユーザ定義の動粘度のオフセット

▶ 濃度

濃度ダンピング

濃度の単位

ユーザ定義の濃度単位のテキスト

ユーザ定義の濃度係数

ユーザ定義の濃度オフセット

A 0

A 1

A 2

A 3

A 4

B 1

▶ 診断**▶ 診断リスト****▶ イベントログブック****▶ 機器情報**

シリアル番号
ファームウェアのバージョン
機器名
オーダーコード
拡張オーダーコード 1
拡張オーダーコード 2
拡張オーダーコード 3
設定カウンタ
ENP バージョン
▶ 最小値/最大値
最小値/最大値のリセット
▶ 電気部内温度
最小値
最大値
▶ 流体温度
最小値
最大値
▶ 保護容器の温度
最小値
最大値
▶ 振動周波数
最小値
最大値

▶ ねじれモードの振動周波数

最小値

最大値

▶ 振動振幅

最小値

最大値

▶ ねじれモードの振動振幅

最小値

最大値

▶ 振動ダンピング

最小値

最大値

▶ ねじれモードの振動ダンピング

最小値

最大値

▶ 信号の非対称性

最小値

最大値

▶ Heartbeat**▶ 検証の実行**

年

月

日

時

AM/PM

分	
検証の開始	
進行中	
ステータス	
全体の結果	
▶ 検証の結果	
日時	
検証 ID	
稼動時間	
全体の結果	
センサ	
センサの健全性	
センサの電子機器モジュール	
I/O モジュール	
▶ Heartbeat Monitoring	
モニタリングを有効にする	
▶ モニタリング結果	
センサの健全性	
▶ シミュレーション	→ 62
シミュレーションする測定パラメータ割り当て	→ 62
測定値	→ 62
機器アラームのシミュレーション	→ 62
診断イベントのシミュレーション	→ 62

索引

記号	
機能確認	49
計測システム	93
使用圧力	19
診断 (メニュー)	121
設定 (メニュー)	116
操作 (メニュー)	115
電流入力 (サブメニュー)	131
特別な接続指示	30
保管温度	15
保管条件	15
用途	8
A	
Applicator	94
C	
C-Tick マーク	111
CE マーク	9
CE マーク	111
D	
DIP スイッチ	
書き込み保護スイッチを参照	
E	
EtherNet/IP	
診断情報	78
EtherNet/IP 認定	111
F	
FieldCare	41
機能	41
接続の確立	41
デバイス記述ファイル	43
ユーザインターフェイス	42
I	
I/O 電子モジュール	10, 29
W	
W@M	88, 89
W@M デバイスビューワー	11, 89
ア	
アクセスコード設定	63
圧力温度曲線	104
圧力機器指令	111
圧力損失	105
アプリケーション	8
アプリケーションパッケージ	112
アラーム時の信号	95
安全	8
イ	
イベントリスト	82
イベント履歴	82
イベントログブックのフィルタリング	83
ウ	
ウィザード	
アクセスコード設定	63
ローフローカットオフ	54
非満管の検出	55
エ	
影響	
流体圧力	101
流体温度	101
エキスパート (メニュー)	124
エラーメッセージ	
診断メッセージを参照	
エンドレスハウザー社サービス	
修理	89
メンテナンス	88
オ	
応答時間	101
オーダーコード	12, 13
温度範囲	
流体温度	104
保管温度	15
カ	
外部洗浄	88
概要	
操作メニュー	115
書き込み保護	
アクセスコードによる	63
書き込み保護スイッチを使用	63
書き込み保護スイッチ	63
書き込み保護の無効化	63
書き込み保護の有効化	63
拡張オーダーコード	
センサ	13
変換器	12
下流側	18
環境	
保管温度	103
キ	
機器	
構成	10
修理	89
設定	49
センサの取付け	23
電気配線の準備	28
取付けの準備	23
取外し	89
廃棄	90
変更	89
機器コンポーネント	10
機器修理	89

機器資料		シミュレーション	62
補足資料	7	センサ	127
機器タイプ ID	43	センサの調整	57
機器の運搬	15	プロセス変数	56
機器の識別表示	11	プロセス変数	66
機器の修理	89	管理	84
機器の接続	28	機器情報	85
機器の用途		計算値	56
不適切な用途	8	高度な設定	56
不明な場合	8	出力値	68
用途を参照		積算計	67
機器名		積算計 1~n	58
センサ	13	操作	68
変換器	12	測定物の選択	52
機器リビジョン	43	通信	49, 52
機器ロック状態	65	電流入力	131
気候クラス	103	表示	59
技術データ、概要	93		
基準およびガイドライン	111	シ	
基準動作条件	99	シール	
機能		流体温度範囲	104
パラメータを参照		システム (サブメニュー)	124
		システム構成	
ク		機器構成を参照	
繰返し性	101	計測システム	93
		システム統合	43
ケ		システムファイル	
計測可能流量範囲	94	ソース	43
言語、操作オプション	110	バージョン	43
検査		リリース日付	43
納入品	11	質量	
現在の機器データバージョン	43	SI 単位	106
現場表示器		US 単位	106
アラーム状態時を参照		運搬 (注意事項)	15
診断メッセージを参照		周囲温度範囲	19
		周期的データ伝送	44
コ		修理	89
交換		注意	89
機器コンポーネント	89	出力	95
工具		出力信号	95
運搬	15	使用上の安全性	9
設置	23	消費電流	98
電気接続	26	消費電力	98
構成		上流側	18
機器	10	シリアル番号	12, 13
操作メニュー	34	資料	
固定アセンブリ	78	機能	5
梱包材の廃棄	16	使用されるシンボル	5
		資料情報	5
サ		資料の機能	5
再校正	88	診断	
材質	107	シンボル	73
最大測定誤差	99	診断情報	
サニタリ適合性	111	FieldCare	77
サブメニュー		ウェブブラウザ	76
Web サーバ	39	概要	79
アクセスコード設定	63	現場表示器	73
イベントリスト	82	構成、説明	74, 77, 78
概要	35	対処法	79
システム	124		

通信インターフェイス	78
発光ダイオード	72
診断情報の読み出し、EtherNet/IP	78
診断動作	
シンボル	74
説明	74
診断動作の適合	79
診断メッセージ	73
診断リスト	82
振動	21

ス

垂直配管	17
ステータス信号	73, 76
スペアパーツ	89

セ

製造者 ID	43
製造日	12, 13
精度	99
精度の考え方	
繰返し性	102
最大測定誤差	102
性能特性	99
製品の安全性	9
接続	
電気接続を参照	
接続ケーブル	26
接続工具	26
接続の準備	28
設置	17
設置状況の確認	49
設置状況の確認 (チェックリスト)	25
設置条件	
振動	21
垂直配管	17
断熱	19
取付位置	17
使用圧力	19
設置寸法	19
設定	49
機器の設定	49
機器リセット	84
高度な設定	56
高度な表示の設定	59
システムの単位	50
シミュレーション	62
積算計	58
積算計のリセット	68
積算計リセット	68
センサの調整	57
操作言語	49
測定物	52
通信インターフェイス	52
デバイスのタグ	50
非満管検出	55
プロセス条件への機器の適合	68
ローフローカットオフ	54

センサ	
設置	23
流体温度範囲	104
センサ (サブメニュー)	127
センサハウジング	104
センサヒーティング	21
洗浄	
外部洗浄	88
定置洗浄 (CIP)	88
定置滅菌 (SIP)	88
内部洗浄	88

ソ

操作	65
操作オプション	33
操作言語の設定	49
操作指針	35
操作部	74
操作メニュー	
構成	34
サブメニューおよびユーザの役割	35
パラメータを含むメニューの概要	115
メニュー、サブメニュー	34
測定機器およびテスト機器	88
測定原理	93
測定値の読み取り	66
測定範囲	
液体の	93
気体の	94
気体の計算例	94
測定物	8
測定物密度	104
測定変数	
プロセス変数を参照	
測定レンジ、推奨	105
ソフトウェアリリース	43

タ

耐衝撃	103
対処法	
終了	75
呼び出し	75
耐振動性	103
端子	99
端子の割当て	27, 29
断熱	19

チ

チェック	
設置	25
チェックリスト	
設置状況の確認	25
配線状況の確認	32

テ

定置洗浄 (CIP)	104
定置滅菌 (SIP)	104
適合宣言	9
デバイス記述ファイル	43
電位平衡	30

電気接続			
RSLogix 5000	40, 109		
Web サーバー	110		
ウェブサーバ	41		
機器	26		
操作ツール			
Ethernet ネットワーク経由	40, 109		
サービスインターフェイス (CDI-RJ45) 経由	41, 110		
保護等級	32		
電気的絶縁性	95		
電源障害	98		
点検チェック			
接続	32		
電源電圧	98		
電磁適合性	104		
電線管接続口			
技術データ	99		
電線管接続口			
保護等級	32		
ト			
登録商標	7		
トラブルシューティング			
一般	70		
取付位置	17		
取付工具	23		
取付寸法			
設置寸法を参照			
取付けの準備	23		
取付方向 (垂直方向、水平方向)	18		
取付要件			
上流側 / 下流側直管部	18		
設置寸法	19		
取付要件			
センサヒーティング	21		
取付方向	18		
ナ			
内部洗浄	88, 104		
流れ方向	18, 23		
ニ			
入力	93		
認証	111		
認定	111		
ノ			
納品内容確認	11		
ハ			
ハードウェア書き込み保護	63		
廃棄	89		
配線状況の確認 (チェックリスト)	32		
パラメータ設定の保護	63		
パラメータ設定			
Web サーバ (サブメニュー)	39		
シミュレーション (サブメニュー)	62		
センサの調整 (サブメニュー)	57		
プロセス変数 (サブメニュー)	66		
ローフローカットオフ (ウィザード)	54		
管理 (サブメニュー)	84		
機器情報 (サブメニュー)	85		
計算値 (サブメニュー)	56		
出力値 (サブメニュー)	68		
診断 (メニュー)	82		
積算計 (サブメニュー)	67		
積算計 1~n (サブメニュー)	58		
設定 (メニュー)	50		
操作 (サブメニュー)	68		
測定物の選択 (サブメニュー)	52		
通信 (サブメニュー)	52		
非満管の検出 (ウィザード)	55		
表示 (サブメニュー)	59		
ヒ			
表示			
現在の診断イベント	82		
前回の診断イベント	82		
表示値			
ロック状態用	65		
表示モジュールの回転	24		
表面粗さ	109		
フ			
ファームウェア			
バージョン	43		
リリース日付	43		
ファームウェアの履歴	87		
プロセス接続	108		
プロセス変数			
計算値	93		
測定値	93		
ヘ			
変換器			
信号ケーブルの接続	29		
表示モジュールの回転	24		
返却	89		
ホ			
防爆認定	111		
保管温度範囲	103		
保護等級	32, 103		
メ			
銘板			
センサ	13		
変換器	12		
メイン電子モジュール	10		
メニュー			
エキスパート	124		
機器の設定用	49		
特定の設定用	56		
診断	82, 121		
設定	50, 116		
操作	65, 115		
メンテナンス作業	88		

ユ

ユーザの役割 35

ヨ

要員の要件 8

用途 93

用途分野

残存リスク 8

リ

リモート操作 109

流体圧力

影響 101

流体温度

影響 101

流量制限 105

ロ

労働安全 9

ローフローカットオフ 95



71511962

www.addresses.endress.com
